

0001

6-1 診断・治療計画・記録 > 現代医学的/東洋医学的診断・適否判断 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】施術前の現代医学的な臨床判断として、最も適切な流れはどれか。

ア．現代医学的な臨床判断では、病歴と診察所見を集めて鑑別し、施術の適否・禁忌・紹介の必要性を判断することが重要である。

イ．施術法を先に固定すると、禁忌や別疾患の見逃しにつながる。

ウ．症状名だけでは病態や危険徴候を評価できない。

エ．診断過程は病歴・診察を基礎に進め、必要に応じて検査や紹介を考える。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「主訴と病歴を確認し、診察所見を統合して鑑別を考え、施術の適否や医療機関紹介の必要性を判断する。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「最初に施術法を決め、その反応だけで病態を確定する。」を検討するための内容であり、今回の正答「主訴と病歴を確認し、診察所見を統合して鑑別を考え、施術の適否や医療機関紹介の必要性を判断する。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「症状名だけを聞き、身体診察を行わずに施術を開始する。」を検討するための内容であり、今回の正答「主訴と病歴を確認し、診察所見を統合して鑑別を考え、施術の適否や医療機関紹介の必要性を判断する。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「画像検査がなければ一切の臨床判断を行わない。」を検討するための内容であり、今回の正答「主訴と病歴を確認し、診察所見を統合して鑑別を考え、施術の適否や医療機関紹介の必要性を判断する。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「主訴と病歴を確認し、診察所見を統合して鑑別を考え、施術の適否や医療機関紹介の必要性を判断する。」が正答である。判断根拠は、現代医学的な臨床判断では、病歴と診察所見を集めて鑑別し、施術の適否・禁忌・紹介の必要性を判断することが重要である。現代医学的な臨床判断では、病歴と診察所見を集めて鑑別し、施術の適否・禁忌・紹介の必要性を判断することが重要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0002

6-1 診断・治療計画・記録 > 現代医学的/東洋医学的診断・適否判断 | 難易度：標準

「東洋医学的診断の基本過程を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

東洋医学的な診断過程として最も適切なものはどれか。

ア．東洋医学的診断は単一所見ではなく複数の診察情報を総合する。

イ．東洋医学では望・聞・問・切の四診で情報を収集し、所見を総合して病態を把握し治療方針へつなげる。

ウ．東洋医学的評価では病名だけでなく全身所見を含む診察過程が重要である。

エ．禁忌や適否判断には現代医学的な安全評価も必要で、舌診だけでは不十分である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「脈診だけで証を決定し、他の所見は用いない。」を検討するための内容であり、今回の正答「四診で情報を集め、得られた所見を総合して証を考え、治療原則を立てる。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「四診で情報を集め、得られた所見を総合して証を考え、治療原則を立てる。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「病名が分かれば四診は不要である。」を検討するための内容であり、今回の正答「四診で情報を集め、得られた所見を総合して証を考え、治療原則を立てる。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「舌診だけで施術の禁忌まで判定する。」を検討するための内容であり、今回の正答「四診で情報を集め、得られた所見を総合して証を考え、治療原則を立てる。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「四診で情報を集め、得られた所見を総合して証を考え、治療原則を立てる。」が正答である。判断根拠は、東洋医学では望・聞・問・切の四診で情報を収集し、所見を総合して病態を把握し治療方針へつなげる。東洋医学では望・聞・問・切の四診で情報を収集し、所見を総合して病態を把握し治療方針へつなげる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0003

6-1 診断・治療計画・記録 > 現代医学的/東洋医学的診断・適否判断 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
腰痛を訴える利用者が「昨夜から両下肢が急に力が入りにくく、排尿もしにくい」と話した。最も適切な対応はどれか。
ア．神経学的危険徴候がある状況で強刺激を優先すべきではない。
イ．重大な神経障害の可能性があり、受診を遅らせるべきではない。
ウ．急な両下肢筋力低下や排尿障害は重大な神経障害を示す可能性があり、通常施術より医療評価を優先する。
エ．左右対称でも急な筋力低下や排尿障害は重要な危険徴候である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「腰部を強く揉捏し、筋緊張が取れるか確認する。」を検討するための内容であり、今回の正答「施術を見合わせ、緊急性を考えて速やかな医療機関受診を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「温熱を長時間行い、翌日まで経過を見る。」を検討するための内容であり、今回の正答「施術を見合わせ、緊急性を考えて速やかな医療機関受診を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：正しい。この説明は「施術を見合わせ、緊急性を考えて速やかな医療機関受診を勧める。」が正答となる根拠を直接示している。
エ：誤り。この説明は「症状が左右対称なので安全と判断して通常施術を行う。」を検討するための内容であり、今回の正答「施術を見合わせ、緊急性を考えて速やかな医療機関受診を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「施術を見合わせ、緊急性を考えて速やかな医療機関受診を勧める。」が正答である。判断根拠は、急な両下肢筋力低下や排尿障害は重大な神経障害を示す可能性があり、通常施術より医療評価を優先する。急な両下肢筋力低下や排尿障害は重大な神経障害を示す可能性があり、通常施術より医療評価を優先する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0004

6-1 診断・治療計画・記録 > 現代医学的/東洋医学的診断・適否判断 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】片側下腿に急な腫脹・熱感・圧痛があり、深部静脈血栓症が疑われる場合の対応として適切なものはどれか。
ア．血栓が疑われる部位へ強い機械刺激を加えるのは不適切である。
イ．症状の軽重だけで血栓を除外できない。
ウ．疑わしい病態では自己完結せず医療評価につなぐ必要がある。
エ．片側下肢の急な腫脹・熱感・圧痛は深部静脈血栓症を疑う所見で、患部へのマッサージ等は避けて医療評価を優先する。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「血流を促すため下腿を強く揉む。」を検討するための内容であり、今回の正答「患部への施術を行わず、医療機関での評価を優先する。」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「症状が軽ければ弾発手技を反復する。」を検討するための内容であり、今回の正答「患部への施術を行わず、医療機関での評価を優先する。」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「下腿周径を測らず、冷罨法だけで施術を完結する。」を検討するための内容であり、今回の正答「患部への施術を行わず、医療機関での評価を優先する。」を支持する中心的根拠ではない。
エ：正しい。この説明は「患部への施術を行わず、医療機関での評価を優先する。」が正答となる根拠を直接示している。
総合解説：元の論点では「患部への施術を行わず、医療機関での評価を優先する。」が正答である。判断根拠は、片側下肢の急な腫脹・熱感・圧痛は深部静脈血栓症を疑う所見で、患部へのマッサージ等は避けて医療評価を優先する。片側下肢の急な腫脹・熱感・圧痛は深部静脈血栓症を疑う所見で、患部へのマッサージ等は避けて医療評価を優先する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0005

6-1 診断・治療計画・記録 > 現代医学的/東洋医学的診断・適否判断 | 難易度：標準

「リスク因子を含めて施術刺激を調整する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

抗凝固薬を服用しており皮下出血が生じやすい人への施術で最も適切なものはどれか。

ア．抗凝固療法中は出血・皮下出血リスクに配慮し、状態確認と刺激量調整が必要である。

イ．出血リスクは個人差があり、刺激量を一律にすべきではない。

ウ．皮下出血がある場合に打撃刺激を増やすのは不適切である。

エ．服薬情報は施術リスクの評価に重要である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「服薬状況と皮膚所見を確認し、必要に応じて医療者へ相談しながら強い圧迫や打撃を避ける。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「薬を服用していても全員同じ強さで施術する。」を検討するための内容であり、今回の正答「服薬状況と皮膚所見を確認し、必要に応じて医療者へ相談しながら強い圧迫や打撃を避ける。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「皮下出血があっても叩打法を増やす。」を検討するための内容であり、今回の正答「服薬状況と皮膚所見を確認し、必要に応じて医療者へ相談しながら強い圧迫や打撃を避ける。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「薬剤名や服薬目的は安全性評価に関係しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「服薬状況と皮膚所見を確認し、必要に応じて医療者へ相談しながら強い圧迫や打撃を避ける。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「服薬状況と皮膚所見を確認し、必要に応じて医療者へ相談しながら強い圧迫や打撃を避ける。」が正答である。判断根拠は、抗凝固療法中は出血・皮下出血リスクに配慮し、状態確認と刺激量調整が必要である。抗凝固療法中は出血・皮下出血リスクに配慮し、状態確認と刺激量調整が必要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0006

6-1 診断・治療計画・記録 > 現代医学的/東洋医学的診断・適否判断 | 難易度：応用

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

腰痛への施術効果を評価する方法として最も適切なものはどれか。

ア．主観的印象だけでは再現性のある効果判定になりにくい。

イ．治療効果は施術前後・経過中に同一または比較可能な指標で評価すると判断しやすい。

ウ．尺度が変わると経時比較が難しくなる。

エ．経過に応じて治療計画を見直すため再評価が必要である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「施術者の印象だけで改善を決める。」を検討するための内容であり、今回の正答「施術前に痛みや機能の指標を定め、同じ条件で経時的に再評価する。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「施術前に痛みや機能の指標を定め、同じ条件で経時的に再評価する。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「毎回異なる尺度を用いて比較する。」を検討するための内容であり、今回の正答「施術前に痛みや機能の指標を定め、同じ条件で経時的に再評価する。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「初回評価後は再評価を行わない。」を検討するための内容であり、今回の正答「施術前に痛みや機能の指標を定め、同じ条件で経時的に再評価する。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「施術前に痛みや機能の指標を定め、同じ条件で経時的に再評価する。」が正答である。判断根拠は、治療効果は施術前後・経過中に同一または比較可能な指標で評価すると判断しやすい。治療効果は施術前後・経過中に同一または比較可能な指標で評価すると判断しやすい。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0007

6-1 診断・治療計画・記録 > 現代医学的/東洋医学的診断・適否判断 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】慢性の肩こりがあり、長時間同じ姿勢で仕事をする人への生活指導として最も適切なものはどれか。

- ア．生活背景を無視した一律の指示は実行可能性に乏しい。
- イ．姿勢や活動量など生活要因が症状に関与することがある。
- ウ．生活指導は病態・生活背景・本人の実行可能性を踏まえて具体化することが重要である。
- エ．慢性症状では過度な安静が常に適切とは限らず、状態に応じた活動調整が必要である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「仕事を中止するよう一律に指示する。」を検討するための内容であり、今回の正答「症状と生活背景を踏まえ、姿勢変換や適度な身体活動など実行可能な方法を提案する。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「施術以外の生活要因は症状に影響しないと説明する。」を検討するための内容であり、今回の正答「症状と生活背景を踏まえ、姿勢変換や適度な身体活動など実行可能な方法を提案する。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「症状と生活背景を踏まえ、姿勢変換や適度な身体活動など実行可能な方法を提案する。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「痛みがある間はすべての身体活動を禁止する。」を検討するための内容であり、今回の正答「症状と生活背景を踏まえ、姿勢変換や適度な身体活動など実行可能な方法を提案する。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「症状と生活背景を踏まえ、姿勢変換や適度な身体活動など実行可能な方法を提案する。」が正答である。判断根拠は、生活指導は病態・生活背景・本人の実行可能性を踏まえて具体化することが重要である。生活指導は病態・生活背景・本人の実行可能性を踏まえて具体化することが重要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0008

6-1 診断・治療計画・記録 > 現代医学的/東洋医学的診断・適否判断 | 難易度：基礎

「陰性所見も鑑別に役立つことを理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

臨床診断の過程で「陰性所見」を記録する意義として最も適切なものはどれか。

- ア．臨床判断では陽性・陰性所見を合わせて解釈する。
- イ．安全な臨床判断のため必要な陰性所見は記録対象となる。
- ウ．陰性所見単独で確定できるとは限らず、全体像の評価が必要である。
- エ．症状が「ない」という情報も、鑑別診断や危険徴候の評価に重要である。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「陽性所見が1つあれば陰性所見は不要である。」を検討するための内容であり、今回の正答「疑った病態の可能性を検討し、鑑別や緊急度判断の材料にできる。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「陰性所見は施術記録に記載してはいけない。」を検討するための内容であり、今回の正答「疑った病態の可能性を検討し、鑑別や緊急度判断の材料にできる。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「陰性所見だけで必ず確定診断できる。」を検討するための内容であり、今回の正答「疑った病態の可能性を検討し、鑑別や緊急度判断の材料にできる。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「疑った病態の可能性を検討し、鑑別や緊急度判断の材料にできる。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「疑った病態の可能性を検討し、鑑別や緊急度判断の材料にできる。」が正答である。判断根拠は、症状が「ない」という情報も、鑑別診断や危険徴候の評価に重要である。症状が「ない」という情報も、鑑別診断や危険徴候の評価に重要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0009

6-1 診断・治療計画・記録 > 現代医学的/東洋医学的診断・適否判断 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
施術後に痛みが軽減した場合の解釈として最も適切なものはどれか。

- ア．施術反応は治療効果判定には役立つが、病因を単独で確定する検査ではない。
- イ．一時的な症状軽減だけでは重大疾患を除外できない。
- ウ．経過中も症状や新規所見の確認が必要である。
- エ．状態変化に応じて適否・リスクを再評価する必要がある。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「症状軽減は経過評価の一情報であり、それだけで原因疾患が確定したとはいえない。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「軽減したので腫瘍性疾患は完全に否定できる。」を検討するための内容であり、今回の正答「症状軽減は経過評価の一情報であり、それだけで原因疾患が確定したとはいえない。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「軽減したので今後の問診は不要である。」を検討するための内容であり、今回の正答「症状軽減は経過評価の一情報であり、それだけで原因疾患が確定したとはいえない。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「軽減したので禁忌の再確認は不要である。」を検討するための内容であり、今回の正答「症状軽減は経過評価の一情報であり、それだけで原因疾患が確定したとはいえない。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「症状軽減は経過評価の一情報であり、それだけで原因疾患が確定したとはいえない。」が正答である。判断根拠は、施術反応は治療効果判定には役立つが、病因を単独で確定する検査ではない。 施術反応は治療効果判定には役立つが、病因を単独で確定する検査ではない。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0010

6-1 診断・治療計画・記録 > 現代医学的/東洋医学的診断・適否判断 | 難易度：応用

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】初回施術時、本人が「最近1か月で理由なく5kg減り、夜間も続く腰痛がある」と話した。最も適切な対応はどれか。

- ア．病歴上の警告所見を無視して筋肉痛と断定するのは不適切である。
- イ．原因不明の体重減少や安静・夜間にも持続する痛みは、通常の機械的疼痛以外を考える契機となり医療評価が必要である。
- ウ．全身症状は鑑別に重要な情報である。
- エ．原因未評価の状態で刺激量を増やすことは安全性に欠ける。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「筋肉痛と決めつけ、強い圧を加える。」を検討するための内容であり、今回の正答「通常施術だけで経過をみず、原因精査のため医療機関受診を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「通常施術だけで経過をみず、原因精査のため医療機関受診を勧める。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「体重減少は腰痛と無関係なので記録しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「通常施術だけで経過をみず、原因精査のため医療機関受診を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「痛みが強いほど施術時間を倍にする。」を検討するための内容であり、今回の正答「通常施術だけで経過をみず、原因精査のため医療機関受診を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「通常施術だけで経過をみず、原因精査のため医療機関受診を勧める。」が正答である。判断根拠は、原因不明の体重減少や安静・夜間にも持続する痛みは、通常の機械的疼痛以外を考える契機となり医療評価が必要である。 原因不明の体重減少や安静・夜間にも持続する痛みは、通常の機械的疼痛以外を考える契機となり医療評価が必要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0011

6-1 診断・治療計画・記録 > 診察法・施術記録・POS/POMR・SOAP | 難易度：基礎

「SOAPのSを理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なのはどれか。

SOAP形式でSに記載する内容はどれか。

ア．実測値はObjectiveに相当する。

イ．評価はAssessmentに相当する。

ウ．SはSubjectiveで、主訴や自覚症状、本人の訴えなど主観的情報を記載する。

エ．計画はPlanに相当する。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「関節可動域の実測値。」を検討するための内容であり、今回の正答「本人が述べた痛みの部位・程度・経過などの主観的情報。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「所見を統合した臨床評価。」を検討するための内容であり、今回の正答「本人が述べた痛みの部位・程度・経過などの主観的情報。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「本人が述べた痛みの部位・程度・経過などの主観的情報。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「次回までの施術計画。」を検討するための内容であり、今回の正答「本人が述べた痛みの部位・程度・経過などの主観的情報。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「本人が述べた痛みの部位・程度・経過などの主観的情報。」が正答である。判断根拠は、SはSubjectiveで、主訴や自覚症状、本人の訴えなど主観的情報を記載する。SはSubjectiveで、主訴や自覚症状、本人の訴えなど主観的情報を記載する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0012

6-1 診断・治療計画・記録 > 診察法・施術記録・POS/POMR・SOAP | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

SOAP形式でOに最も適するのはどれか。

ア．本人の訴えはSubjectiveである。

イ．所見の解釈はAssessmentである。

ウ．今後の方針はPlanである。

エ．OはObjectiveで、観察・測定・検査など客観的な所見を記載する。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「「今日は痛みが軽い」という本人の発言。」を検討するための内容であり、今回の正答「測定した血圧、関節可動域、観察した腫脹など。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「「筋緊張が主症状に関与している可能性がある」という評価。」を検討するための内容であり、今回の正答「測定した血圧、関節可動域、観察した腫脹など。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「今回は運動指導を追加するという方針。」を検討するための内容であり、今回の正答「測定した血圧、関節可動域、観察した腫脹など。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「測定した血圧、関節可動域、観察した腫脹など。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「測定した血圧、関節可動域、観察した腫脹など。」が正答である。判断根拠は、OはObjectiveで、観察・測定・検査など客観的な所見を記載する。OはObjectiveで、観察・測定・検査など客観的な所見を記載する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0013

6-1 診断・治療計画・記録 > 診察法・施術記録・POS/POMR・SOAP | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】SOAP形式でAに記載する内容として適切なものはどれか。

ア．AはAssessmentで、得られた情報を統合して状態や問題点を評価する部分である。

イ．既往歴の聴取内容は主にSubjectiveに属する。

ウ．測定値はObjectiveに属する。

エ．今後の予定はPlanに含まれる。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「主観情報と客観所見を統合した問題点・状態の評価。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「利用者が話した既往歴をそのまま記載する。」を検討するための内容であり、今回の正答「主観情報と客観所見を統合した問題点・状態の評価。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「測定した脈拍数だけを列記する。」を検討するための内容であり、今回の正答「主観情報と客観所見を統合した問題点・状態の評価。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「次回予約日だけを記載する。」を検討するための内容であり、今回の正答「主観情報と客観所見を統合した問題点・状態の評価。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「主観情報と客観所見を統合した問題点・状態の評価。」が正答である。判断根拠は、AはAssessmentで、得られた情報を統合して状態や問題点を評価する部分である。AはAssessmentで、得られた情報を統合して状態や問題点を評価する部分である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0014

6-1 診断・治療計画・記録 > 診察法・施術記録・POS/POMR・SOAP | 難易度：基礎

「SOAPのPを理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

施術記録に「次回までの家庭運動、再評価時期、必要時の医療紹介」を記載した。この内容はSOAPのどこに分類するか。

ア．本人の訴えはSubjectiveである。

イ．PはPlanで、今後の介入、指導、紹介、再評価などの計画を記載する。

ウ．客観的検査所見はObjectiveである。

エ．問題点の解釈はAssessmentに相当する。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「本人が訴えたしびれの範囲。」を検討するための内容であり、今回の正答「次回までの施術方針、生活指導、必要な紹介や再評価の計画。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「次回までの施術方針、生活指導、必要な紹介や再評価の計画。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「徒手検査で得た所見。」を検討するための内容であり、今回の正答「次回までの施術方針、生活指導、必要な紹介や再評価の計画。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「現時点で考える問題点の解釈だけ。」を検討するための内容であり、今回の正答「次回までの施術方針、生活指導、必要な紹介や再評価の計画。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「次回までの施術方針、生活指導、必要な紹介や再評価の計画。」が正答である。判断根拠は、PはPlanで、今後の介入、指導、紹介、再評価などの計画を記載する。PはPlanで、今後の介入、指導、紹介、再評価などの計画を記載する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0015

6-1 診断・治療計画・記録 > 診察法・施術記録・POS/POMR・SOAP | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
POMRの特徴として最も適切なのはどれか。

- ア．POMRは情報源別ではなく問題を中心に整理する考え方である。
- イ．新たな問題や解決した問題に応じて更新する。
- ウ．POMRは問題志向型診療録で、問題リストを軸に情報・評価・計画を整理する。
- エ．POMRでは主観・客観情報を含む臨床データを整理する。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「施術者別に記録を分け、問題間の関連を記録しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「患者の問題ごとに情報と経過を整理し、問題リストを更新しながら管理する。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「初回の問題リストは以後変更してはいけない。」を検討するための内容であり、今回の正答「患者の問題ごとに情報と経過を整理し、問題リストを更新しながら管理する。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「患者の問題ごとに情報と経過を整理し、問題リストを更新しながら管理する。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「客観的所見を記録せず主観情報だけを残す。」を検討するための内容であり、今回の正答「患者の問題ごとに情報と経過を整理し、問題リストを更新しながら管理する。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「患者の問題ごとに情報と経過を整理し、問題リストを更新しながら管理する。」が正答である。判断根拠は、POMRは問題志向型診療録で、問題リストを軸に情報・評価・計画を整理する。POMRは問題志向型診療録で、問題リストを軸に情報・評価・計画を整理する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0016

6-1 診断・治療計画・記録 > 診察法・施術記録・POS/POMR・SOAP | 難易度：応用

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】POSとPOMRの関係について正しいのはどれか。

- ア．どちらも検査法ではなく診療・記録の組織化に関する概念である。
- イ．いずれも問題志向型の臨床記録に関する用語である。
- ウ．問題リストはPOMRの重要な構成要素である。
- エ．POSはProblem-Oriented System、POMRはProblem-Oriented Medical Recordであり、問題志向の考え方と記録形式の関係にある。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「POSは画像検査法、POMRは血液検査法である。」を検討するための内容であり、今回の正答「POSは問題志向型に診療を進める考え方で、POMRはその考え方に沿って記録を構成する方法である。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「POSとPOMRは互いに無関係な東洋医学用語である。」を検討するための内容であり、今回の正答「POSは問題志向型に診療を進める考え方で、POMRはその考え方に沿って記録を構成する方法である。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「POMRでは問題リストを作成しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「POSは問題志向型に診療を進める考え方で、POMRはその考え方に沿って記録を構成する方法である。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「POSは問題志向型に診療を進める考え方で、POMRはその考え方に沿って記録を構成する方法である。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「POSは問題志向型に診療を進める考え方で、POMRはその考え方に沿って記録を構成する方法である。」が正答である。判断根拠は、POSはProblem-Oriented System、POMRはProblem-Oriented Medical Recordであり、問題志向の考え方と記録形式の関係にある。POSはProblem-Oriented System、POMRはProblem-Oriented Medical Recordであり、問題志向の考え方と記録形式の関係にある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0017

6-1 診断・治療計画・記録 > 診察法・施術記録・POS/POMR・SOAP | 難易度：標準

「施術記録に必要な客観性と追跡可能性を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

施術記録として最も適切なものはどれか。

ア．記録は臨床経過・安全性・情報共有のため、具体的で追跡可能な内容が望ましい。

イ．何を評価し何を行ったか追跡できず不十分である。

ウ．临床上重要な所見を恣意的に削除するのは不適切である。

エ．記録は可能な限り適時・正確に残す必要がある。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「日付、主訴、主要所見、実施内容、反応、今後の方針を、後から経過を追えるよう具体的に記載する。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「いつも通り施術した」の一文だけにする。」を検討するための内容であり、今回の正答「日付、主訴、主要所見、実施内容、反応、今後の方針を、後から経過を追えるよう具体的に記載する。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「不都合な所見は記録から削除する。」を検討するための内容であり、今回の正答「日付、主訴、主要所見、実施内容、反応、今後の方針を、後から経過を追えるよう具体的に記載する。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「記憶を頼りに数か月分をまとめて同じ内容で記載する。」を検討するための内容であり、今回の正答「日付、主訴、主要所見、実施内容、反応、今後の方針を、後から経過を追えるよう具体的に記載する。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「日付、主訴、主要所見、実施内容、反応、今後の方針を、後から経過を追えるよう具体的に記載する。」が正答である。判断根拠は、記録は臨床経過・安全性・情報共有のため、具体的に追跡可能な内容が望ましい。記録は臨床経過・安全性・情報共有のため、具体的に追跡可能な内容が望ましい。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0018

6-1 診断・治療計画・記録 > 診察法・施術記録・POS/POMR・SOAP | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

記録の誤記に後から気づいた場合の対応として最も適切なものはどれか。

ア．訂正経過が分からない方法は記録の信頼性を損なう。

イ．診療・施術記録は改ざんと誤解されないよう、訂正履歴が追跡できる形で管理することが重要である。

ウ．临床上必要な訂正は適切な方法で行う。

エ．記録は事実に基づいて正確に管理すべきである。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「元の記録を痕跡なく削除して書き換える。」を検討するための内容であり、今回の正答「元の記録との関係が分かる形で訂正し、訂正日時や内容を追跡できるようにする。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「元の記録との関係が分かる形で訂正し、訂正日時や内容を追跡できるようにする。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「誤記を見つけても必ず放置する。」を検討するための内容であり、今回の正答「元の記録との関係が分かる形で訂正し、訂正日時や内容を追跡できるようにする。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「事実と異なる内容に合わせて他の記録も修正する。」を検討するための内容であり、今回の正答「元の記録との関係が分かる形で訂正し、訂正日時や内容を追跡できるようにする。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「元の記録との関係が分かる形で訂正し、訂正日時や内容を追跡できるようにする。」が正答である。判断根拠は、診療・施術記録は改ざんと誤解されないよう、訂正履歴が追跡できる形で管理することが重要である。診療・施術記録は改ざんと誤解されないよう、訂正履歴が追跡できる形で管理することが重要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0019

6-1 診断・治療計画・記録 > 治療原則・治療効果判定・併用理学療法 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】2026年版出題基準で「あん摩マッサージ指圧治療の効果の根拠」として示されるものはどれか。
ア．施術がすべての疾患を根治するという考えではない。
イ．画像変化だけが治療効果の根拠ではない。
ウ．出題基準では治療の意義として自然治癒力の賦活と生体機能の調節が示されている。
エ．他の医療を自己判断で中止させることは治療原則ではない。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「すべての疾患を施術だけで根治すること。」を検討するための内容であり、今回の正答「自然治癒力の賦活と生体機能の調節。」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「画像所見を必ず正常化させること。」を検討するための内容であり、今回の正答「自然治癒力の賦活と生体機能の調節。」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：正しい。この説明は「自然治癒力の賦活と生体機能の調節。」が正答となる根拠を直接示している。
エ：誤り。この説明は「薬物治療を全面的に中止させること。」を検討するための内容であり、今回の正答「自然治癒力の賦活と生体機能の調節。」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「自然治癒力の賦活と生体機能の調節。」が正答である。判断根拠は、出題基準では治療の意義として自然治癒力の賦活と生体機能の調節が示されている。出題基準では治療の意義として自然治癒力の賦活と生体機能の調節が示されている。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0020

6-1 診断・治療計画・記録 > 治療原則・治療効果判定・併用理学療法 | 難易度：応用

「現代医学理論に基づく治療原則を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。
現代医学理論に基づく施術方針として最も適切なものはどれか。
ア．個々の病態・感受性・リスクに応じた調整が必要である。
イ．臨床所見と根拠に基づいて方針を立てるべきである。
ウ．禁忌が疑われる場合は安全性を優先して施術を見合わせる。
エ．現代医学的治療原則では病態と安全性を評価し、目的に応じて介入を選択する。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「病態にかかわらず全員に同じ手技を同じ強さで行う。」を検討するための内容であり、今回の正答「病態、機能障害、禁忌、患者の状態を踏まえて目的と刺激量を設定する。」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「診察所見より施術者の好みを優先する。」を検討するための内容であり、今回の正答「病態、機能障害、禁忌、患者の状態を踏まえて目的と刺激量を設定する。」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「禁忌が疑われても効果判定のため一度は施術する。」を検討するための内容であり、今回の正答「病態、機能障害、禁忌、患者の状態を踏まえて目的と刺激量を設定する。」を支持する中心的根拠ではない。
エ：正しい。この説明は「病態、機能障害、禁忌、患者の状態を踏まえて目的と刺激量を設定する。」が正答となる根拠を直接示している。
総合解説：元の論点では「病態、機能障害、禁忌、患者の状態を踏まえて目的と刺激量を設定する。」が正答である。判断根拠は、現代医学的治療原則では病態と安全性を評価し、目的に応じて介入を選択する。現代医学的治療原則では病態と安全性を評価し、目的に応じて介入を選択する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0021

6-1 診断・治療計画・記録 > 治療原則・治療効果判定・併用理学療法 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
東洋医学理論に基づく治療原則として適切なものはどれか。

- ア．東洋医学的治療では診察所見を統合した病態把握に基づき治療原則を立てる。
- イ．同一病名でも東洋医学的病態は異なり得る。
- ウ．四診など複数の情報を総合して判断する。
- エ．刺激量は虚実だけでなく体力・感受性・安全性も踏まえる。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「四診などで把握した病態・証を踏まえ、虚実や寒熱などに応じて治療方針を考える。」が正答となる根拠を直接示している。
イ：誤り。この説明は「西洋医学的病名が同じなら全員同じ証とみなす。」を検討するための内容であり、今回の正答「四診などで把握した病態・証を踏まえ、虚実や寒熱などに応じて治療方針を考える。」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「脈診だけを絶対視し、他の診察情報を無視する。」を検討するための内容であり、今回の正答「四診などで把握した病態・証を踏まえ、虚実や寒熱などに応じて治療方針を考える。」を支持する中心的根拠ではない。
エ：誤り。この説明は「症状が強いほど必ず強刺激を用いる。」を検討するための内容であり、今回の正答「四診などで把握した病態・証を踏まえ、虚実や寒熱などに応じて治療方針を考える。」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「四診などで把握した病態・証を踏まえ、虚実や寒熱などに応じて治療方針を考える。」が正答である。判断根拠は、東洋医学的治療では診察所見を統合した病態把握に基づき治療原則を立てる。 東洋医学的治療では診察所見を統合した病態把握に基づき治療原則を立てる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0022

6-1 診断・治療計画・記録 > 治療原則・治療効果判定・併用理学療法 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】施術に併用する運動療法の目的として最も適切なものはどれか。

- ア．重大疾患が疑われる場合は安全評価を優先する。
- イ．運動療法の機能改善・活動性向上などを目的として個別に処方される。
- ウ．状態に応じた適切な活動・運動が必要で、永久安静は一般的原則ではない。
- エ．負荷量は体力・病態・目標に合わせて調整する。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「急性の重大疾患が疑われても運動で診断する。」を検討するための内容であり、今回の正答「筋力、柔軟性、持久力、動作などの機能改善を目的に、状態に応じて運動を用いる。」を支持する中心的根拠ではない。
イ：正しい。この説明は「筋力、柔軟性、持久力、動作などの機能改善を目的に、状態に応じて運動を用いる。」が正答となる根拠を直接示している。
ウ：誤り。この説明は「痛みがあれば一律に永久安静とする。」を検討するための内容であり、今回の正答「筋力、柔軟性、持久力、動作などの機能改善を目的に、状態に応じて運動を用いる。」を支持する中心的根拠ではない。
エ：誤り。この説明は「運動量は年齢や体力を考慮せず最大にする。」を検討するための内容であり、今回の正答「筋力、柔軟性、持久力、動作などの機能改善を目的に、状態に応じて運動を用いる。」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「筋力、柔軟性、持久力、動作などの機能改善を目的に、状態に応じて運動を用いる。」が正答である。判断根拠は、運動療法の機能改善・活動性向上などを目的として個別に処方される。 運動療法の機能改善・活動性向上などを目的として個別に処方される。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0023

6-1 診断・治療計画・記録 > 治療原則・治療効果判定・併用理学療法 | 難易度：標準

「温熱療法の一般的作用と適否を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

温熱療法の利用について最も適切なものはどれか。

ア．感覚低下では熱傷リスクがあり、高温刺激は危険である。

イ．急性炎症・腫脹が強い時期は温熱の適否を慎重に判断する。

ウ．温熱は循環・組織伸張性などに影響する一方、急性炎症や感覚低下ではリスク評価が必要である。

エ．物理療法でも禁忌・注意事項の確認が必要である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「皮膚感覚が低下していても高温ほど効果が高い。」を検討するための内容であり、今回の正答「慢性期の軟部組織の柔軟性改善などを目的に用いることがあるが、急性炎症や感覚障害などでは適否を慎重に判断する。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「急性外傷直後の強い腫脹部には常に長時間加温する。」を検討するための内容であり、今回の正答「慢性期の軟部組織の柔軟性改善などを目的に用いることがあるが、急性炎症や感覚障害などでは適否を慎重に判断する。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「慢性期の軟部組織の柔軟性改善などを目的に用いることがあるが、急性炎症や感覚障害などでは適否を慎重に判断する。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「温熱療法は全身状態や皮膚所見を確認せず行う。」を検討するための内容であり、今回の正答「慢性期の軟部組織の柔軟性改善などを目的に用いることがあるが、急性炎症や感覚障害などでは適否を慎重に判断する。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「慢性期の軟部組織の柔軟性改善などを目的に用いることがあるが、急性炎症や感覚障害などでは適否を慎重に判断する。」が正答である。判断根拠は、温熱は循環・組織伸張性などに影響する一方、急性炎症や感覚低下ではリスク評価が必要である。温熱は循環・組織伸張性などに影響する一方、急性炎症や感覚低下ではリスク評価が必要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0024

6-1 診断・治療計画・記録 > 治療原則・治療効果判定・併用理学療法 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
肩痛の経過判定として最も適切なものはどれか。

ア．一時的な感覚だけでは長期的な機能改善を判断できない。

イ．経過中の変化や再発を確認するため継続評価が必要である。

ウ．臨床症状や機能指標でも経過を評価できる。

エ．症状と機能の双方を追うと、患者にとって意味のある治療効果を評価しやすい。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「施術直後の爽快感だけで長期効果を判定する。」を検討するための内容であり、今回の正答「痛みの程度だけでなく、着衣や掌上など本人が困っている動作の変化も継続的に評価する。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「痛みが1回減れば再評価を終了する。」を検討するための内容であり、今回の正答「痛みの程度だけでなく、着衣や掌上など本人が困っている動作の変化も継続的に評価する。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「画像検査がない場合は効果判定を行えない。」を検討するための内容であり、今回の正答「痛みの程度だけでなく、着衣や掌上など本人が困っている動作の変化も継続的に評価する。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「痛みの程度だけでなく、着衣や掌上など本人が困っている動作の変化も継続的に評価する。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「痛みの程度だけでなく、着衣や掌上など本人が困っている動作の変化も継続的に評価する。」が正答である。判断根拠は、症状と機能の双方を追うと、患者にとって意味のある治療効果を評価しやすい。症状と機能の双方を追うと、患者にとって意味のある治療効果を評価しやすい。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0025

6-1 診断・治療計画・記録 > 治療原則・治療効果判定・併用理学療法 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】同じ施術を4回行っても症状が悪化し、新たに夜間痛が出現した。対応として最も適切なものはどれか。

- ア．治療反応が不良または新規警告所見が出た場合は、同じ方針を漫然と継続せず再評価する。
- イ．悪化理由を評価せず刺激を増やすのは不適切である。
- ウ．治療計画は再評価結果に応じて変更する。
- エ．悪化を一律に好転反応とみなすのは危険である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「病態と適否を再評価し、必要に応じて施術を中止して医療機関受診を勧める。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「刺激が足りないと決めつけて強度を倍にする。」を検討するための内容であり、今回の正答「病態と適否を再評価し、必要に応じて施術を中止して医療機関受診を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「初回計画は変更しないという原則に従う。」を検討するための内容であり、今回の正答「病態と適否を再評価し、必要に応じて施術を中止して医療機関受診を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「悪化は必ず好転反応なので説明だけして継続する。」を検討するための内容であり、今回の正答「病態と適否を再評価し、必要に応じて施術を中止して医療機関受診を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「病態と適否を再評価し、必要に応じて施術を中止して医療機関受診を勧める。」が正答である。判断根拠は、治療反応が不良または新規警告所見が出た場合は、同じ方針を漫然と継続せず再評価する。治療反応が不良または新規警告所見が出た場合は、同じ方針を漫然と継続せず再評価する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0026

6-1 診断・治療計画・記録 > 治療原則・治療効果判定・併用理学療法 | 難易度：応用

「複数の理学療法を目的別に選択する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

関節可動域低下と筋力低下がある慢性期の患者に対する併用理学療法の考え方として適切なものはどれか。

- ア．筋力低下はむしろ適切な運動療法の対象となることがある。
- イ．理学療法は目的を明確にし、病態・機能・耐受性に応じて組み合わせる。
- ウ．組織状態や疼痛を考慮した安全な負荷設定が必要である。
- エ．併用療法でも効果判定と再評価が必要である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「筋力低下があっても運動療法は禁忌である。」を検討するための内容であり、今回の正答「病態と目標に応じて、可動域練習・筋力訓練などを組み合わせ、反応をみながら調整する。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「病態と目標に応じて、可動域練習・筋力訓練などを組み合わせ、反応をみながら調整する。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「可動域制限があれば疼痛の有無に関係なく最大強度で伸張する。」を検討するための内容であり、今回の正答「病態と目標に応じて、可動域練習・筋力訓練などを組み合わせ、反応をみながら調整する。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「物理療法を選べば機能評価は不要になる。」を検討するための内容であり、今回の正答「病態と目標に応じて、可動域練習・筋力訓練などを組み合わせ、反応をみながら調整する。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「病態と目標に応じて、可動域練習・筋力訓練などを組み合わせ、反応をみながら調整する。」が正答である。判断根拠は、理学療法は目的を明確にし、病態・機能・耐受性に応じて組み合わせる。理学療法は目的を明確にし、病態・機能・耐受性に応じて組み合わせる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0027

6-2 高頻度症候の臨床 > 神経・運動器症候 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
緊張型頭痛に比較のみられやすい特徴はどれか。

- ア．これは三叉神経痛を示唆する。
- イ．くも膜下出血などを疑う警告所見である。
- ウ．緊張型頭痛は圧迫・締めつけるような非拍動性の痛みが典型的である。
- エ．これは群発頭痛に典型的な特徴である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「数秒の電撃痛が顔面の限局部位に反復する。」を検討するための内容であり、今回の正答「両側性で締めつけられるような頭痛。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「突然発症し数分で人生最悪の痛みになる。」を検討するための内容であり、今回の正答「両側性で締めつけられるような頭痛。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「両側性で締めつけられるような頭痛。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「片側眼窩部の激痛に流涙と鼻漏を伴う発作が群発する。」を検討するための内容であり、今回の正答「両側性で締めつけられるような頭痛。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「両側性で締めつけられるような頭痛。」が正答である。判断根拠は、緊張型頭痛は圧迫・締めつけるような非拍動性の痛みが典型的である。緊張型頭痛は圧迫・締めつけるような非拍動性の痛みが典型的である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0028

6-2 高頻度症候の臨床 > 神経・運動器症候 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】片頭痛を示唆する所見として最も適切なのはどれか。

- ア．これは末梢神経障害などを考える所見である。
- イ．これは運動器症状であり片頭痛の特徴ではない。
- ウ．末梢神経障害など別の病態を考える。
- エ．片頭痛では拍動性、悪心、光・音過敏、活動による増悪などがみられる。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「前腕尺側だけのしびれが主症状である。」を検討するための内容であり、今回の正答「拍動性の頭痛に悪心や光過敏を伴い、日常動作で増悪することがある。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「膝関節荷重時痛だけがみられる。」を検討するための内容であり、今回の正答「拍動性の頭痛に悪心や光過敏を伴い、日常動作で増悪することがある。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「足底の灼熱痛だけが持続する。」を検討するための内容であり、今回の正答「拍動性の頭痛に悪心や光過敏を伴い、日常動作で増悪することがある。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「拍動性の頭痛に悪心や光過敏を伴い、日常動作で増悪することがある。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「拍動性の頭痛に悪心や光過敏を伴い、日常動作で増悪することがある。」が正答である。判断根拠は、片頭痛では拍動性、悪心、光・音過敏、活動による増悪などがみられる。片頭痛では拍動性、悪心、光・音過敏、活動による増悪などがみられる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0029

6-2 高頻度症候の臨床 > 神経・運動器症候 | 難易度：標準

「三叉神経痛の特徴を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なのはどれか。

三叉神経痛に典型的なのはどれか。

ア．三叉神経痛では三叉神経領域に発作性の鋭い電撃様痛が起こり、軽い刺激が誘因になることがある。

イ．腰部脊柱管狭窄症にみられる特徴である。

ウ．三叉神経領域とは無関係である。

エ．急性冠症候群などを疑う。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「顔面の一侧に、洗顔や会話などで誘発される短時間の電撃様痛が反復する。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「両下肢の間欠性跛行が前屈で軽快する。」を検討するための内容であり、今回の正答「顔面の一侧に、洗顔や会話などで誘発される短時間の電撃様痛が反復する。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「手関節背側の荷重痛だけがある。」を検討するための内容であり、今回の正答「顔面の一侧に、洗顔や会話などで誘発される短時間の電撃様痛が反復する。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「胸部圧迫感と冷汗が10分以上続く。」を検討するための内容であり、今回の正答「顔面の一侧に、洗顔や会話などで誘発される短時間の電撃様痛が反復する。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「顔面の一侧に、洗顔や会話などで誘発される短時間の電撃様痛が反復する。」が正答である。判断根拠は、三叉神経痛では三叉神経領域に発作性の鋭い電撃様痛が起こり、軽い刺激が誘因になることがある。三叉神経痛では三叉神経領域に発作性の鋭い電撃様痛が起こり、軽い刺激が誘因になることがある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0030

6-2 高頻度症候の臨床 > 神経・運動器症候 | 難易度：応用

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

頸部痛に加えて上肢へ放散する痛み・しびれがあり、特定の神経根領域で筋力低下や反射変化を伴う場合に考えやすいのはどれか。

ア．皮膚炎だけでは神経根分布の筋力・反射変化を説明しにくい。

イ．頸神経根の圧迫・炎症では、頸部から上肢への放散痛、感覚障害、筋力・反射変化がみられることがある。

ウ．膝関節疾患は上肢神経症状の原因ではない。

エ．耳症状の原因であり上肢神経根症状とは一致しない。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「単純な局所皮膚炎。」を検討するための内容であり、今回の正答「頸神経根症。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「頸神経根症。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「変形性膝関節症。」を検討するための内容であり、今回の正答「頸神経根症。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「耳管狭窄。」を検討するための内容であり、今回の正答「頸神経根症。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「頸神経根症。」が正答である。判断根拠は、頸神経根の圧迫・炎症では、頸部から上肢への放散痛、感覚障害、筋力・反射変化がみられることがある。頸神経根の圧迫・炎症では、頸部から上肢への放散痛、感覚障害、筋力・反射変化がみられることがある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0031

6-2 高頻度症候の臨床 > 神経・運動器症候 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】手根管症候群で障害される神経はどれか。

ア．尺骨神経障害では小指・環指尺側の感覚障害などがみられる。

イ．橈骨神経障害では手関節伸展障害などが問題になる。

ウ．手根管内を通過する正中神経の圧迫により、母指～環指橈側のしびれや母指球筋力低下などが起こる。

エ．腓骨神経は下肢の神経である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「尺骨神経。」を検討するための内容であり、今回の正答「正中神経。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「橈骨神経。」を検討するための内容であり、今回の正答「正中神経。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「正中神経。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「腓骨神経。」を検討するための内容であり、今回の正答「正中神経。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「正中神経。」が正答である。判断根拠は、手根管内を通過する正中神経の圧迫により、母指～環指橈側のしびれや母指球筋力低下などが起こる。手根管内を通過する正中神経の圧迫により、母指～環指橈側のしびれや母指球筋力低下などが起こる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0032

6-2 高頻度症候の臨床 > 神経・運動器症候 | 難易度：標準

「肘部管症候群の神経分布を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

肘を曲げた状態で小指・環指尺側のしびれが増え、骨間筋の筋力低下もみられる。最も障害が疑われる神経はどれか。

ア．正中神経の代表的絞扼障害には手根管症候群がある。

イ．腋窩神経は肩周囲の運動・感覚に関与する。

ウ．大腿神経は下肢前面の運動・感覚に関与する。

エ．尺骨神経が肘部管で圧迫されると、小指・環指尺側のしびれや手内在筋の筋力低下などが生じる。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「正中神経。」を検討するための内容であり、今回の正答「尺骨神経。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「腋窩神経。」を検討するための内容であり、今回の正答「尺骨神経。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「大腿神経。」を検討するための内容であり、今回の正答「尺骨神経。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「尺骨神経。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「尺骨神経。」が正答である。判断根拠は、尺骨神経が肘部管で圧迫されると、小指・環指尺側のしびれや手内在筋の筋力低下などが生じる。尺骨神経が肘部管で圧迫されると、小指・環指尺側のしびれや手内在筋の筋力低下などが生じる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0033

6-2 高頻度症候の臨床 > 神経・運動器症候 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
坐骨神経痛について正しいのはどれか。

- ア．坐骨神経痛は症候名であり、腰椎椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄など複数の原因があり得る。
- イ．坐骨神経痛の原因は一つではない。
- ウ．感覚・筋力・反射などの評価が鑑別に重要である。
- エ．坐骨神経は下肢に分布する。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「腰臀部から下肢にかけて坐骨神経領域に痛みやしびれを生じる症候で、原因疾患の鑑別が必要である。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「必ず梨状筋症候群だけが原因である。」を検討するための内容であり、今回の正答「腰臀部から下肢にかけて坐骨神経領域に痛みやしびれを生じる症候で、原因疾患の鑑別が必要である。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「下肢症状があれば神経学的評価は不要である。」を検討するための内容であり、今回の正答「腰臀部から下肢にかけて坐骨神経領域に痛みやしびれを生じる症候で、原因疾患の鑑別が必要である。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「坐骨神経痛は上肢のしびれを指す。」を検討するための内容であり、今回の正答「腰臀部から下肢にかけて坐骨神経領域に痛みやしびれを生じる症候で、原因疾患の鑑別が必要である。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「腰臀部から下肢にかけて坐骨神経領域に痛みやしびれを生じる症候で、原因疾患の鑑別が必要である。」が正答である。判断根拠は、坐骨神経痛は症候名であり、腰椎椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄など複数の原因があり得る。坐骨神経痛は症候名であり、腰椎椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄など複数の原因があり得る。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0034

6-2 高頻度症候の臨床 > 神経・運動器症候 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】歩くと両下肢の痛み・しびれが増え、座位や前屈で軽くなり再び歩ける。考えやすいのはどれか。

- ア．頭痛の症候であり下肢間欠性跛行を説明しない。
- イ．腰部脊柱管狭窄では歩行・立位で下肢症状が増悪し、前屈や座位で軽快する神経性間欠性跛行がみられる。
- ウ．上肢末梢神経障害である。
- エ．耳疾患であり下肢症状とは関連しない。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「緊張型頭痛。」を検討するための内容であり、今回の正答「腰部脊柱管狭窄症に伴う神経性間欠性跛行。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「腰部脊柱管狭窄症に伴う神経性間欠性跛行。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「手根管症候群。」を検討するための内容であり、今回の正答「腰部脊柱管狭窄症に伴う神経性間欠性跛行。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「急性中耳炎。」を検討するための内容であり、今回の正答「腰部脊柱管狭窄症に伴う神経性間欠性跛行。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「腰部脊柱管狭窄症に伴う神経性間欠性跛行。」が正答である。判断根拠は、腰部脊柱管狭窄では歩行・立位で下肢症状が増悪し、前屈や座位で軽快する神経性間欠性跛行がみられる。腰部脊柱管狭窄では歩行・立位で下肢症状が増悪し、前屈や座位で軽快する神経性間欠性跛行がみられる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0035

6-2 高頻度症候の臨床 > 神経・運動器症候 | 難易度：標準

「肩関節周囲炎の可動域制限を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なのはどれか。

肩関節周囲炎（いわゆる五十肩）の拘縮期にみられやすい所見はどれか。

ア．拘縮がある場合は他動可動域も制限される。

イ．末梢神経症状が必発する疾患ではない。

ウ．関節包の拘縮が強い時期には自動・他動の双方で可動域制限がみられる。

エ．肩痛・可動域制限が主症状である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「他動可動域は常に完全正常である。」を検討するための内容であり、今回の正答「自動運動だけでなく他動運動でも肩関節可動域が制限される。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「手指の感覚障害だけが必発する。」を検討するための内容であり、今回の正答「自動運動だけでなく他動運動でも肩関節可動域が制限される。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「自動運動だけでなく他動運動でも肩関節可動域が制限される。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「肩を動かしても痛みや制限は全くない。」を検討するための内容であり、今回の正答「自動運動だけでなく他動運動でも肩関節可動域が制限される。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「自動運動だけでなく他動運動でも肩関節可動域が制限される。」が正答である。判断根拠は、関節包の拘縮が強い時期には自動・他動の双方で可動域制限がみられる。関節包の拘縮が強い時期には自動・他動の双方で可動域制限がみられる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0036

6-2 高頻度症候の臨床 > 神経・運動器症候 | 難易度：応用

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

変形性膝関節症に比較的典型的なのはどれか。

ア．三叉神経痛の特徴である。

イ．脳卒中を疑う神経学的緊急症状である。

ウ．呼吸器疾患を考える。

エ．変形性膝関節症では立ち上がり・歩行・階段など荷重動作で痛みが出やすい。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「顔面への軽い刺激で電撃痛が走る。」を検討するための内容であり、今回の正答「荷重時の膝痛や動作開始時痛、可動域制限がみられることがある。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「突然の片麻痺と失語が出現する。」を検討するための内容であり、今回の正答「荷重時の膝痛や動作開始時痛、可動域制限がみられることがある。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「血痰と高熱だけが主症状である。」を検討するための内容であり、今回の正答「荷重時の膝痛や動作開始時痛、可動域制限がみられることがある。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「荷重時の膝痛や動作開始時痛、可動域制限がみられることがある。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「荷重時の膝痛や動作開始時痛、可動域制限がみられることがある。」が正答である。判断根拠は、変形性膝関節症では立ち上がり・歩行・階段など荷重動作で痛みが出やすい。変形性膝関節症では立ち上がり・歩行・階段など荷重動作で痛みが出やすい。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0037

6-2 高頻度症候の臨床 > 神経・運動器症候 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】変形性股関節症で訴えられやすい痛みの部位はどれか。

ア．股関節由来の痛みは鼠径部を中心に、大腿や膝へ関連痛を生じることがある。

イ．股関節疾患とは解剖学的に一致しない。

ウ．股関節疾患の典型部位ではない。

エ．上肢の神経・運動器症状を考える部位である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「鼠径部から大腿前面・膝周囲にかけて。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「小指だけ。」を検討するための内容であり、今回の正答「鼠径部から大腿前面・膝周囲にかけて。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「後頭部だけ。」を検討するための内容であり、今回の正答「鼠径部から大腿前面・膝周囲にかけて。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「前腕尺側だけ。」を検討するための内容であり、今回の正答「鼠径部から大腿前面・膝周囲にかけて。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「鼠径部から大腿前面・膝周囲にかけて。」が正答である。判断根拠は、股関節由来の痛みは鼠径部を中心に、大腿や膝へ関連痛を生じることがある。股関節由来の痛みは鼠径部を中心に、大腿や膝へ関連痛を生じることがある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0038

6-2 高頻度症候の臨床 > 神経・運動器症候 | 難易度：基礎

「外側上顆炎の誘発動作を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

物を持ち上げると肘外側が痛み、抵抗を加えた手関節伸展で疼痛が誘発される。最も考えやすいのはどれか。

ア．手根管症候群は正中神経障害による手指しびれなどが中心である。

イ．外側上顆炎では手関節伸筋群の起始部周辺に疼痛が生じ、抵抗下手関節伸展などで誘発されやすい。

ウ．股関節疾患であり肘外側痛を説明しない。

エ．顔面痛の疾患である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「手根管症候群。」を検討するための内容であり、今回の正答「上腕骨外側上顆炎（テニス肘）。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「上腕骨外側上顆炎（テニス肘）。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「変形性股関節症。」を検討するための内容であり、今回の正答「上腕骨外側上顆炎（テニス肘）。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「三叉神経痛。」を検討するための内容であり、今回の正答「上腕骨外側上顆炎（テニス肘）。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「上腕骨外側上顆炎（テニス肘）。」が正答である。判断根拠は、外側上顆炎では手関節伸筋群の起始部周辺に疼痛が生じ、抵抗下手関節伸展などで誘発されやすい。外側上顆炎では手関節伸筋群の起始部周辺に疼痛が生じ、抵抗下手関節伸展などで誘発されやすい。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0039

6-2 高頻度症候の臨床 > 神経・運動器症候 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
総腓骨神経麻痺でみられやすいのはどれか。

ア．上肢神経の問題である。

イ．顔面神経障害を考える。

ウ．総腓骨神経障害では前脛骨筋などの機能低下により足関節背屈が障害され、下垂足を呈することがある。

エ．舌下神経障害を考える。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「手指屈曲だけの障害。」を検討するための内容であり、今回の正答「足関節背屈が困難となる下垂足。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「顔面表情筋だけの麻痺。」を検討するための内容であり、今回の正答「足関節背屈が困難となる下垂足。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「足関節背屈が困難となる下垂足。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「舌運動だけの麻痺。」を検討するための内容であり、今回の正答「足関節背屈が困難となる下垂足。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「足関節背屈が困難となる下垂足。」が正答である。判断根拠は、総腓骨神経障害では前脛骨筋などの機能低下により足関節背屈が障害され、下垂足を呈することがある。総腓骨神経障害では前脛骨筋などの機能低下により足関節背屈が障害され、下垂足を呈することがある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0040

6-2 高頻度症候の臨床 > 神経・運動器症候 | 難易度：応用

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】「口角が下がり、額にしわを寄せにくく、目を閉じにくい」という症状から最も直接考える神経はどれか。

ア．三叉神経は顔面感覚や咀嚼筋運動に主に関与する。

イ．正中神経は上肢に分布する。

ウ．脛骨神経は下肢に分布する。

エ．顔面神経は表情筋を支配し、末梢性顔面神経麻痺では額・眼輪筋・口輪筋を含む顔面筋の麻痺がみられる。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「三叉神経。」を検討するための内容であり、今回の正答「顔面神経。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「正中神経。」を検討するための内容であり、今回の正答「顔面神経。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「脛骨神経。」を検討するための内容であり、今回の正答「顔面神経。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「顔面神経。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「顔面神経。」が正答である。判断根拠は、顔面神経は表情筋を支配し、末梢性顔面神経麻痺では額・眼輪筋・口輪筋を含む顔面筋の麻痺がみられる。顔面神経は表情筋を支配し、末梢性顔面神経麻痺では額・眼輪筋・口輪筋を含む顔面筋の麻痺がみられる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0041

6-2 高頻度症候の臨床 > 神経・運動器症候 | 難易度：基礎

「急性運動麻痺では脳卒中を除外する必要があることを理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なのはどれか。

突然、右上肢と右下肢に力が入らなくなり、言葉が出にくくなった。最も適切な対応はどれか。

- ア．急な片麻痺と言語障害は脳卒中を強く疑うため、発症時刻を確認し救急対応を優先する。
- イ．急性局所神経症状に通常施術を優先するのは危険である。
- ウ．脳卒中は時間依存性が高く、受診を遅らせるべきではない。
- エ．片麻痺と言語障害は中枢神経障害を示唆する。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「脳卒中を疑い、施術を行わず緊急の医療対応につなげる。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「肩こりによるものとして頸部を強く揉む。」を検討するための内容であり、今回の正答「脳卒中を疑い、施術を行わず緊急の医療対応につなげる。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「翌日まで安静にして改善を待つ。」を検討するための内容であり、今回の正答「脳卒中を疑い、施術を行わず緊急の医療対応につなげる。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「左右差があるので筋肉痛と判断する。」を検討するための内容であり、今回の正答「脳卒中を疑い、施術を行わず緊急の医療対応につなげる。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「脳卒中を疑い、施術を行わず緊急の医療対応につなげる。」が正答である。判断根拠は、急な片麻痺と言語障害は脳卒中を強く疑うため、発症時刻を確認し救急対応を優先する。急な片麻痺と言語障害は脳卒中を強く疑うため、発症時刻を確認し救急対応を優先する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0042

6-2 高頻度症候の臨床 > 神経・運動器症候 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

頸肩部痛の評価で、末梢神経・神経根障害をより疑わせる所見はどれか。

- ア．筋疲労だけでは神経障害を強く示さない。
- イ．神経学的障害では感覚・筋力・反射の分布が局在診断に役立つ。
- ウ．神経障害の特異所見ではない。
- エ．生活要因による筋緊張でも起こり得る。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「長時間作業後の局所的な筋疲労感だけがある。」を検討するための内容であり、今回の正答「痛みに加えて特定領域の感覚低下、筋力低下、腱反射変化がある。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「痛みに加えて特定領域の感覚低下、筋力低下、腱反射変化がある。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「軽い圧迫で一時的に心地よさを感じる。」を検討するための内容であり、今回の正答「痛みに加えて特定領域の感覚低下、筋力低下、腱反射変化がある。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「睡眠不足の日だけ肩こりを感じる。」を検討するための内容であり、今回の正答「痛みに加えて特定領域の感覚低下、筋力低下、腱反射変化がある。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「痛みに加えて特定領域の感覚低下、筋力低下、腱反射変化がある。」が正答である。判断根拠は、神経学的障害では感覚・筋力・反射の分布が局在診断に役立つ。神経学的障害では感覚・筋力・反射の分布が局在診断に役立つ。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0043

6-2 高頻度症候の臨床 > 全身・感覚器・呼吸循環症候 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】長期間続く強い倦怠感の評価として最も適切なものはどれか。

ア．倦怠感は全身疾患を含む多様な原因で起こる。

イ．一時的変化だけで原因疾患を除外できない。

ウ．倦怠感是非特異的症候で、貧血、感染、内分泌疾患、睡眠障害など多様な原因があり得る。

エ．全身症状は原因鑑別に重要である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「必ず筋肉疲労だけが原因と考える。」を検討するための内容であり、今回の正答「睡眠・活動量だけでなく、発熱、体重変化、出血、息切れ、服薬など全身情報も確認する。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「施術で一時的に軽くなれば検討を終了する。」を検討するための内容であり、今回の正答「睡眠・活動量だけでなく、発熱、体重変化、出血、息切れ、服薬など全身情報も確認する。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「睡眠・活動量だけでなく、発熱、体重変化、出血、息切れ、服薬など全身情報も確認する。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「体重減少や発熱は倦怠感評価に不要である。」を検討するための内容であり、今回の正答「睡眠・活動量だけでなく、発熱、体重変化、出血、息切れ、服薬など全身情報も確認する。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「睡眠・活動量だけでなく、発熱、体重変化、出血、息切れ、服薬など全身情報も確認する。」が正答である。判断根拠は、倦怠感是非特異的症候で、貧血、感染、内分泌疾患、睡眠障害など多様な原因があり得る。倦怠感是非特異的症候で、貧血、感染、内分泌疾患、睡眠障害など多様な原因があり得る。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0044

6-2 高頻度症候の臨床 > 全身・感覚器・呼吸循環症候 | 難易度：基礎

「冷えの訴えを多面的に評価する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

「手足が冷える」という訴えを評価する際に適切なものはどれか。

ア．現代医学的な原因や安全性評価も必要である。

イ．左右差・皮膚色・脈などは循環障害を考える手掛かりとなる。

ウ．感覚障害では熱傷リスクがあり温度管理が重要である。

エ．冷えの自覚には環境・循環・代謝・神経など多様な要因が関与するため、単一原因に決めつけない。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「冷えは必ず東洋医学的な寒証だけで説明できる。」を検討するための内容であり、今回の正答「環境、循環、貧血・甲状腺機能などの全身要因、皮膚色や左右差を含めて確認する。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「左右差が強くても循環所見は確認しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「環境、循環、貧血・甲状腺機能などの全身要因、皮膚色や左右差を含めて確認する。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「感覚障害があっても熱刺激を最大にする。」を検討するための内容であり、今回の正答「環境、循環、貧血・甲状腺機能などの全身要因、皮膚色や左右差を含めて確認する。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「環境、循環、貧血・甲状腺機能などの全身要因、皮膚色や左右差を含めて確認する。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「環境、循環、貧血・甲状腺機能などの全身要因、皮膚色や左右差を含めて確認する。」が正答である。判断根拠は、冷えの自覚には環境・循環・代謝・神経など多様な要因が関与するため、単一原因に決めつけない。冷えの自覚には環境・循環・代謝・神経など多様な要因が関与するため、単一原因に決めつけない。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0045

6-2 高頻度症候の臨床 > 全身・感覚器・呼吸循環症候 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
眼精疲労を訴える人への対応として適切なのはどれか。

- ア．眼精疲労には視環境や屈折異常などが関与し、急な視覚異常や強い眼痛は医療評価が必要である。
- イ．急な視力変化は眼疾患の可能性があり医療評価を優先する。
- ウ．眼球への直接強圧は危険である。
- エ．症状と生活背景を評価することが重要である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「作業環境や視作業時間を確認し、視力低下・眼痛・急な視覚異常などがあれば眼科受診を勧める。」が正答となる根拠を直接示している。
イ：誤り。この説明は「視力低下が急でも施術だけで経過を見る。」を検討するための内容であり、今回の正答「作業環境や視作業時間を確認し、視力低下・眼痛・急な視覚異常などがあれば眼科受診を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「眼痛が強いほど眼球を直接圧迫する。」を検討するための内容であり、今回の正答「作業環境や視作業時間を確認し、視力低下・眼痛・急な視覚異常などがあれば眼科受診を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。
エ：誤り。この説明は「作業環境や眼鏡の使用状況は聞かない。」を検討するための内容であり、今回の正答「作業環境や視作業時間を確認し、視力低下・眼痛・急な視覚異常などがあれば眼科受診を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「作業環境や視作業時間を確認し、視力低下・眼痛・急な視覚異常などがあれば眼科受診を勧める。」が正答である。判断根拠は、眼精疲労には視環境や屈折異常などが関与し、急な視覚異常や強い眼痛は医療評価が必要である。 眼精疲労には視環境や屈折異常などが関与し、急な視覚異常や強い眼痛は医療評価が必要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0046

6-2 高頻度症候の臨床 > 全身・感覚器・呼吸循環症候 | 難易度：応用

- 次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
- 【設問】朝起きて突然、片耳が聞こえにくくなり耳鳴りも出た。最も適切な対応はどれか。
- ア．強い機械刺激で診断・治療を試みるのは不適切である。
 - イ．突然の片側難聴は突発性難聴などの可能性があり、施術だけで経過をみず早期診療につなげる。
 - ウ．早期治療が重要な病態があるため受診を遅らせない。
 - エ．耳鳴り・難聴の原因は多岐にわたり、肩こりと断定できない。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「耳周囲を強く叩いて聴力が戻るか確認する。」を検討するための内容であり、今回の正答「突発性難聴などを考え、早期に耳鼻咽喉科の評価を受けるよう勧める。」を支持する中心的根拠ではない。
イ：正しい。この説明は「突発性難聴などを考え、早期に耳鼻咽喉科の評価を受けるよう勧める。」が正答となる根拠を直接示している。
ウ：誤り。この説明は「1か月程度は受診せず様子を見る。」を検討するための内容であり、今回の正答「突発性難聴などを考え、早期に耳鼻咽喉科の評価を受けるよう勧める。」を支持する中心的根拠ではない。
エ：誤り。この説明は「耳鳴りがあるので必ず肩こりが原因と説明する。」を検討するための内容であり、今回の正答「突発性難聴などを考え、早期に耳鼻咽喉科の評価を受けるよう勧める。」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「突発性難聴などを考え、早期に耳鼻咽喉科の評価を受けるよう勧める。」が正答である。判断根拠は、突然の片側難聴は突発性難聴などの可能性があり、施術だけで経過をみず早期診療につなげる。 突然の片側難聴は突発性難聴などの可能性があり、施術だけで経過をみず早期診療につなげる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0047

6-2 高頻度症候の臨床 > 全身・感覚器・呼吸循環症候 | 難易度：標準

「咳・痰の問診項目を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なのはどれか。

咳と痰を評価する際に確認する情報として重要なのはどれか。

ア．咳・痰の鑑別に直接重要な情報ではない。

イ．呼吸器症状の評価には関係しにくい。

ウ．咳・痰では経過、感染徴候、呼吸困難、血痰などを確認し、緊急性や原因を考える。

エ．臨床評価に必要な情報ではない。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「利き手だけ。」を検討するための内容であり、今回の正答「発症時期、持続期間、痰の性状、発熱、息切れ、血痰の有無。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「足の靴サイズだけ。」を検討するための内容であり、今回の正答「発症時期、持続期間、痰の性状、発熱、息切れ、血痰の有無。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「発症時期、持続期間、痰の性状、発熱、息切れ、血痰の有無。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「髪長さだけ。」を検討するための内容であり、今回の正答「発症時期、持続期間、痰の性状、発熱、息切れ、血痰の有無。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「発症時期、持続期間、痰の性状、発熱、息切れ、血痰の有無。」が正答である。判断根拠は、咳・痰では経過、感染徴候、呼吸困難、血痰などを確認し、緊急性や原因を考える。咳・痰では経過、感染徴候、呼吸困難、血痰などを確認し、緊急性や原因を考える。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0048

6-2 高頻度症候の臨床 > 全身・感覚器・呼吸循環症候 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
血圧測定として適切なのはどれか。

ア．運動直後は血圧が変動しやすく安静時評価には適さない。

イ．腕の高さは測定値に影響する。

ウ．不適切なカフサイズは誤差の原因となる。

エ．血圧はカフサイズ、安静、体位、腕の高さなどの条件で変化するため標準化が重要である。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「運動直後に毎回測定し、その値を安静時血圧とする。」を検討するための内容であり、今回の正答「適切なカフサイズを用い、安静後に腕を心臓の高さ付近で支持して測定する。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「腕を垂らしたまま毎回測定する。」を検討するための内容であり、今回の正答「適切なカフサイズを用い、安静後に腕を心臓の高さ付近で支持して測定する。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「カフの大きさは上腕周囲に関係しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「適切なカフサイズを用い、安静後に腕を心臓の高さ付近で支持して測定する。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「適切なカフサイズを用い、安静後に腕を心臓の高さ付近で支持して測定する。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「適切なカフサイズを用い、安静後に腕を心臓の高さ付近で支持して測定する。」が正答である。判断根拠は、血圧はカフサイズ、安静、体位、腕の高さなどの条件で変化するため標準化が重要である。血圧はカフサイズ、安静、体位、腕の高さなどの条件で変化するため標準化が重要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0049

6-2 高頻度症候の臨床 > 全身・感覚器・呼吸循環症候 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】立ち上がった直後にめまい・ふらつきが出て、横になると軽快する。考慮すべき病態はどれか。
ア．立位で血圧維持が不十分になると、めまい・ふらつき・失神前症状が出ることがある。
イ．手指の正中神経症状が中心である。
ウ．肘外側痛が中心である。
エ．顔面の発作性電撃痛が中心である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「起立性低血圧。」が正答となる根拠を直接示している。
イ：誤り。この説明は「手根管症候群。」を検討するための内容であり、今回の正答「起立性低血圧。」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「外側上顆炎。」を検討するための内容であり、今回の正答「起立性低血圧。」を支持する中心的根拠ではない。
エ：誤り。この説明は「三叉神経痛。」を検討するための内容であり、今回の正答「起立性低血圧。」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「起立性低血圧。」が正答である。判断根拠は、立位で血圧維持が不十分になると、めまい・ふらつき・失神前症状が出ることがある。立位で血圧維持が不十分になると、めまい・ふらつき・失神前症状が出ることがある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0050

6-2 高頻度症候の臨床 > 全身・感覚器・呼吸循環症候 | 難易度：応用

「動悸に伴う危険徴候を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なのはどれか。
動悸に加えて失神しかける感じと胸部圧迫感がある場合、最も適切なのはどれか。
ア．心血管症状を筋緊張だけで説明するのは危険である。
イ．動悸に失神前症状や胸痛を伴う場合は心血管系の重大病態を考え、速やかな評価が必要である。
ウ．バイタルと症状の評価を優先すべきである。
エ．重要症状はその場で評価・記録し対応する。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「肩こりのせいと決めつけて頸部施術を続ける。」を検討するための内容であり、今回の正答「不整脈や心血管疾患を考え、施術より医療評価を優先する。」を支持する中心的根拠ではない。
イ：正しい。この説明は「不整脈や心血管疾患を考え、施術より医療評価を優先する。」が正答となる根拠を直接示している。
ウ：誤り。この説明は「脈を確認せず施術強度を上げる。」を検討するための内容であり、今回の正答「不整脈や心血管疾患を考え、施術より医療評価を優先する。」を支持する中心的根拠ではない。
エ：誤り。この説明は「胸部圧迫感は施術後まで記録しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「不整脈や心血管疾患を考え、施術より医療評価を優先する。」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「不整脈や心血管疾患を考え、施術より医療評価を優先する。」が正答である。判断根拠は、動悸に失神前症状や胸痛を伴う場合は心血管系の重大病態を考え、速やかな評価が必要である。動悸に失神前症状や胸痛を伴う場合は心血管系の重大病態を考え、速やかな評価が必要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0051

6-2 高頻度症候の臨床 > 全身・感覚器・呼吸循環症候 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
片側下肢だけが急に腫れ、熱感と痛みがある。両側性の慢性浮腫と比べて特に注意すべきなのはどれか。

- ア．急な片側性所見は局所病変を考える必要がある。
- イ．急な左右差は臨床的に重要である。
- ウ．片側性の急な腫脹・熱感・疼痛は深部静脈血栓症などを疑う契機となる。
- エ．経過・熱感・疼痛を含めて鑑別が必要である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「単純な全身性水分貯留だけ。」を検討するための内容であり、今回の正答「深部静脈血栓症など局所血管病変。」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「正常な左右差なので評価不要。」を検討するための内容であり、今回の正答「深部静脈血栓症など局所血管病変。」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：正しい。この説明は「深部静脈血栓症など局所血管病変。」が正答となる根拠を直接示している。
エ：誤り。この説明は「筋肉量の増加だけが原因と断定する。」を検討するための内容であり、今回の正答「深部静脈血栓症など局所血管病変。」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「深部静脈血栓症など局所血管病変。」が正答である。判断根拠は、片側性の急な腫脹・熱感・疼痛は深部静脈血栓症などを疑う契機となる。片側性の急な腫脹・熱感・疼痛は深部静脈血栓症などを疑う契機となる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0052

6-2 高頻度症候の臨床 > 全身・感覚器・呼吸循環症候 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】「周囲がぐるぐる回る感じ」という訴えは、めまいの表現としてどれに近いか。

- ア．失神は一過性の意識消失であり、回転感とは異なる。
- イ．歩行時の下肢症状である。
- ウ．通常痛くない刺激で痛みを感じる状態である。
- エ．自分または周囲が回る感覚は回転性めまいと表現され、前庭系の障害などでみられる。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「失神。」を検討するための内容であり、今回の正答「回転性めまい。」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「間欠性跛行。」を検討するための内容であり、今回の正答「回転性めまい。」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「アロディニア。」を検討するための内容であり、今回の正答「回転性めまい。」を支持する中心的根拠ではない。
エ：正しい。この説明は「回転性めまい。」が正答となる根拠を直接示している。
総合解説：元の論点では「回転性めまい。」が正答である。判断根拠は、自分または周囲が回る感覚は回転性めまいと表現され、前庭系の障害などでみられる。自分または周囲が回る感覚は回転性めまいと表現され、前庭系の障害などでみられる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0053

6-2 高頻度症候の臨床 > 全身・感覚器・呼吸循環症候 | 難易度：標準

「労作時息切れを心肺症状として評価する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なのはどれか。

以前は平気だった階段で最近息切れが強くなり、足のむくみも出てきた。最も適切な対応はどれか。

- ア．新規・進行性の労作時息切れと浮腫は心不全などを含む心肺疾患の評価が必要である。
- イ．心肺疾患の可能性を評価せず負荷を増やすのは不適切である。
- ウ．原因不明の浮腫と息切れでは病態評価を優先する。
- エ．進行する全身症状は記録し適切に紹介する。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「心肺疾患などを考え、施術だけで経過をみず医療機関での評価を勧める。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「運動不足だと断定し階段昇降を増やす。」を検討するための内容であり、今回の正答「心肺疾患などを考え、施術だけで経過をみず医療機関での評価を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「足のむくみだけを強く揉んで終了する。」を検討するための内容であり、今回の正答「心肺疾患などを考え、施術だけで経過をみず医療機関での評価を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「症状を記録せず通常施術を続ける。」を検討するための内容であり、今回の正答「心肺疾患などを考え、施術だけで経過をみず医療機関での評価を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「心肺疾患などを考え、施術だけで経過をみず医療機関での評価を勧める。」が正答である。判断根拠は、新規・進行性の労作時息切れと浮腫は心不全などを含む心肺疾患の評価が必要である。新規・進行性の労作時息切れと浮腫は心不全などを含む心肺疾患の評価が必要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0054

6-2 高頻度症候の臨床 > 消化器・生殖器・睡眠等の症候 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
食欲不振が数週間続く人で、特に医療評価を勧める根拠となるのはどれか。

- ア．一過性の軽い食欲変化だけでは緊急性は低いことが多い。
- イ．持続する食欲不振に体重減少や発熱など全身所見を伴う場合は、背景疾患の評価が必要である。
- ウ．警告所見ではない。
- エ．単なる生活状況で説明できる場合がある。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「一度だけ食事が少なかった。」を検討するための内容であり、今回の正答「意図しない体重減少や持続する発熱を伴う。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「意図しない体重減少や持続する発熱を伴う。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「好物を食べた日は食欲がある。」を検討するための内容であり、今回の正答「意図しない体重減少や持続する発熱を伴う。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「忙しい日に昼食が遅れた。」を検討するための内容であり、今回の正答「意図しない体重減少や持続する発熱を伴う。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「意図しない体重減少や持続する発熱を伴う。」が正答である。判断根拠は、持続する食欲不振に体重減少や発熱など全身所見を伴う場合は、背景疾患の評価が必要である。持続する食欲不振に体重減少や発熱など全身所見を伴う場合は、背景疾患の評価が必要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0055

6-2 高頻度症候の臨床 > 消化器・生殖器・睡眠等の症候 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】便秘の問診で確認すべき内容として最も適切なのはどれか。

ア．出血など重要な病態を示すことがあるため確認が必要である。

イ．多くの薬剤が便秘に関与し得る。

ウ．便秘は頻度だけで定義できず、便性状・排便困難・薬剤・警告所見などを総合する。

エ．回数だけでは原因を確定できない。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「便の色や血便は確認しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「排便頻度だけでなく、便性状、いきみ、残便感、薬剤、血便、体重変化など。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「服薬内容は排便に影響しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「排便頻度だけでなく、便性状、いきみ、残便感、薬剤、血便、体重変化など。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「排便頻度だけでなく、便性状、いきみ、残便感、薬剤、血便、体重変化など。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「排便回数だけで原因疾患を確定する。」を検討するための内容であり、今回の正答「排便頻度だけでなく、便性状、いきみ、残便感、薬剤、血便、体重変化など。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「排便頻度だけでなく、便性状、いきみ、残便感、薬剤、血便、体重変化など。」が正答である。判断根拠は、便秘は頻度だけで定義できず、便性状・排便困難・薬剤・警告所見などを総合する。便秘は頻度だけで定義できず、便性状・排便困難・薬剤・警告所見などを総合する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0056

6-2 高頻度症候の臨床 > 消化器・生殖器・睡眠等の症候 | 難易度：応用

「下痢で脱水を評価する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

頻回の下痢が続き、口渇と立ちくらみがある。最も注意すべき状態はどれか。

ア．下痢と脱水の説明にはならない。

イ．消化器症状とは無関係である。

ウ．肘の運動器疾患である。

エ．頻回の下痢では水分・電解質喪失により脱水をきたし、口渇や起立時症状が出ることがある。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「手根管症候群。」を検討するための内容であり、今回の正答「脱水。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「肩関節周囲炎。」を検討するための内容であり、今回の正答「脱水。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「外側上顆炎。」を検討するための内容であり、今回の正答「脱水。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「脱水。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「脱水。」が正答である。判断根拠は、頻回の下痢では水分・電解質喪失により脱水をきたし、口渇や起立時症状が出ることがある。頻回の下痢では水分・電解質喪失により脱水をきたし、口渇や起立時症状が出ることがある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0057

6-2 高頻度症候の臨床 > 消化器・生殖器・睡眠等の症候 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

嘔吐がある人で、通常施術より医療評価を優先すべき所見はどれか。

ア．嘔吐に出血・強い腹痛・意識障害・脱水などを伴う場合は重大疾患の可能性がある。

イ．重い警告所見がなければ緊急性は比較的低いことがある。

ウ．単独の軽症状は必ずしも緊急とは限らない。

エ．原因評価は必要だが、記載された範囲では緊急所見とはいえない。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「吐血、強い腹痛、意識障害、著明な脱水のいずれかを伴う。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「乗り物酔いで一度だけ軽く吐き、すぐ回復した。」を検討するための内容であり、今回の正答「吐血、強い腹痛、意識障害、著明な脱水のいずれかを伴う。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「食べ過ぎ後に一時的な軽い悪心だけがある。」を検討するための内容であり、今回の正答「吐血、強い腹痛、意識障害、著明な脱水のいずれかを伴う。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「緊張時だけ軽い吐き気がある。」を検討するための内容であり、今回の正答「吐血、強い腹痛、意識障害、著明な脱水のいずれかを伴う。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「吐血、強い腹痛、意識障害、著明な脱水のいずれかを伴う。」が正答である。判断根拠は、嘔吐に出血・強い腹痛・意識障害・脱水などを伴う場合は重大疾患の可能性がある。嘔吐に出血・強い腹痛・意識障害・脱水などを伴う場合は重大疾患の可能性がある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0058

6-2 高頻度症候の臨床 > 消化器・生殖器・睡眠等の症候 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】腹痛が急に強くなり、腹部が硬く、動くとき痛みが増す。対応として最も適切なものはどれか。

ア．急性腹症が疑われる状況で腹部刺激を加えるのは不適切である。

イ．強い急性腹痛と腹膜刺激を疑う所見は、緊急性の高い腹部疾患を示す可能性がある。

ウ．原因不明の急性腹痛では施術より診断を優先する。

エ．急性腹症の可能性があり受診を遅らせるべきではない。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「腹部を強く揉んで便通を促す。」を検討するための内容であり、今回の正答「急性腹症を考え、腹部への施術を行わず速やかに医療評価につなげる。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「急性腹症を考え、腹部への施術を行わず速やかに医療評価につなげる。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「痛みが強いので温熱を最大強度で行う。」を検討するための内容であり、今回の正答「急性腹症を考え、腹部への施術を行わず速やかに医療評価につなげる。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「翌週の予約まで様子を見る。」を検討するための内容であり、今回の正答「急性腹症を考え、腹部への施術を行わず速やかに医療評価につなげる。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「急性腹症を考え、腹部への施術を行わず速やかに医療評価につなげる。」が正答である。判断根拠は、強い急性腹痛と腹膜刺激を疑う所見は、緊急性の高い腹部疾患を示す可能性がある。強い急性腹痛と腹膜刺激を疑う所見は、緊急性の高い腹部疾患を示す可能性がある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0059

6-2 高頻度症候の臨床 > 消化器・生殖器・睡眠等の症候 | 難易度：標準

「月経痛で二次性要因を考える」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なのはどれか。

長年の月経痛が最近急に悪化し、月経時以外にも骨盤痛や不正出血がある。最も適切なのはどれか。

ア．症状パターンの変化は二次性原因を考える材料となる。

イ．施術で婦人科疾患を確定することはできない。

ウ．新たな悪化、不正出血、月経時以外の骨盤痛などは器質的疾患の評価が必要である。

エ．不正出血は重要な症状であり記録・受診勧奨の対象となる。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「必ず原発性月経困難症なので受診不要と説明する。」を検討するための内容であり、今回の正答「二次性月経困難症などを考え、婦人科での評価を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「腹部を強く圧迫して原因を確定する。」を検討するための内容であり、今回の正答「二次性月経困難症などを考え、婦人科での評価を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「二次性月経困難症などを考え、婦人科での評価を勧める。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「不正出血は記録しなくてよい。」を検討するための内容であり、今回の正答「二次性月経困難症などを考え、婦人科での評価を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「二次性月経困難症などを考え、婦人科での評価を勧める。」が正答である。判断根拠は、新たな悪化、不正出血、月経時以外の骨盤痛などは器質的疾患の評価が必要である。新たな悪化、不正出血、月経時以外の骨盤痛などは器質的疾患の評価が必要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0060

6-2 高頻度症候の臨床 > 消化器・生殖器・睡眠等の症候 | 難易度：応用

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

不眠に対する一般的な睡眠衛生として適切なのはどれか。

ア．長い夕方の昼寝は夜間睡眠を妨げることがある。

イ．強い光刺激は睡眠リズムに影響し得る。

ウ．過度な床上時間は睡眠効率を低下させることがある。

エ．規則的な生活リズム、適切な日中活動、睡眠環境の調整は不眠への基本的な生活指導となる。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「眠れない日は夕方から長時間昼寝する。」を検討するための内容であり、今回の正答「起床時刻を大きく乱さず、日中の活動と寝室環境を整え、就寝前の過度な刺激を避ける。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「毎晩就寝直前まで強い光の画面を見続ける。」を検討するための内容であり、今回の正答「起床時刻を大きく乱さず、日中の活動と寝室環境を整え、就寝前の過度な刺激を避ける。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「眠気の有無に関係なく一日中ベッドで過ごす。」を検討するための内容であり、今回の正答「起床時刻を大きく乱さず、日中の活動と寝室環境を整え、就寝前の過度な刺激を避ける。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「起床時刻を大きく乱さず、日中の活動と寝室環境を整え、就寝前の過度な刺激を避ける。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「起床時刻を大きく乱さず、日中の活動と寝室環境を整え、就寝前の過度な刺激を避ける。」が正答である。判断根拠は、規則的な生活リズム、適切な日中活動、睡眠環境の調整は不眠への基本的な生活指導となる。規則的な生活リズム、適切な日中活動、睡眠環境の調整は不眠への基本的な生活指導となる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0061

6-2 高頻度症候の臨床 > 消化器・生殖器・睡眠等の症候 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】不眠の評価で確認すべき項目として最も適切なものはどれか。

ア．不眠は睡眠習慣だけでなく身体・精神疾患、睡眠時無呼吸、薬物・嗜好品など多様な要因が関与する。

イ．中途覚醒・早朝覚醒・日中機能なども重要である。

ウ．薬剤・アルコールは睡眠に影響する。

エ．睡眠時無呼吸の評価につながる重要情報である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「睡眠時間だけでなく、日中機能、いびき・無呼吸、気分、カフェイン・飲酒、服薬など。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「寝つきだけ確認すれば十分である。」を検討するための内容であり、今回の正答「睡眠時間だけでなく、日中機能、いびき・無呼吸、気分、カフェイン・飲酒、服薬など。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「服薬や飲酒は睡眠に影響しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「睡眠時間だけでなく、日中機能、いびき・無呼吸、気分、カフェイン・飲酒、服薬など。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「強いいびきや無呼吸の指摘は無関係である。」を検討するための内容であり、今回の正答「睡眠時間だけでなく、日中機能、いびき・無呼吸、気分、カフェイン・飲酒、服薬など。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「睡眠時間だけでなく、日中機能、いびき・無呼吸、気分、カフェイン・飲酒、服薬など。」が正答である。判断根拠は、不眠は睡眠習慣だけでなく身体・精神疾患、睡眠時無呼吸、薬物・嗜好品など多様な要因が関与する。不眠は睡眠習慣だけでなく身体・精神疾患、睡眠時無呼吸、薬物・嗜好品など多様な要因が関与する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0062

6-2 高頻度症候の臨床 > 消化器・生殖器・睡眠等の症候 | 難易度：標準

「腹痛と排便の関連から機能性腸疾患を考える」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

慢性的な腹痛が排便と関連し、便通異常を繰り返すが、発熱・血便・体重減少など警告所見がない。考えられる病態の一つはどれか。

ア．慢性的に反復する経過とは一致しにくい。

イ．過敏性腸症候群では腹痛と排便の関連、便通異常がみられ、器質的疾患を示す警告所見の確認が重要である。

ウ．消化器症状の説明にはならない。

エ．上肢末梢神経障害である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「急性虫垂炎だけ。」を検討するための内容であり、今回の正答「過敏性腸症候群。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「過敏性腸症候群。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「くも膜下出血。」を検討するための内容であり、今回の正答「過敏性腸症候群。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「手根管症候群。」を検討するための内容であり、今回の正答「過敏性腸症候群。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「過敏性腸症候群。」が正答である。判断根拠は、過敏性腸症候群では腹痛と排便の関連、便通異常がみられ、器質的疾患を示す警告所見の確認が重要である。過敏性腸症候群では腹痛と排便の関連、便通異常がみられ、器質的疾患を示す警告所見の確認が重要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0063

6-2 高頻度症候の臨床 > 消化器・生殖器・睡眠等の症候 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
食後や臥位で胸やけが起こり、酸っぱいものが上がる感じがある。考えやすいのはどれか。

ア．下垂足など下肢神経症状を生じる。
イ．膝関節の運動器疾患である。
ウ．胃食道逆流症では胸やけや吞酸が典型的な症状である。
エ．表情筋の麻痺を生じる。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「総腓骨神経麻痺。」を検討するための内容であり、今回の正答「胃食道逆流症。」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「変形性膝関節症。」を検討するための内容であり、今回の正答「胃食道逆流症。」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：正しい。この説明は「胃食道逆流症。」が正答となる根拠を直接示している。
エ：誤り。この説明は「顔面神経麻痺。」を検討するための内容であり、今回の正答「胃食道逆流症。」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「胃食道逆流症。」が正答である。判断根拠は、胃食道逆流症では胸やけや吞酸が典型的な症状である。胃食道逆流症では胸やけや吞酸が典型的な症状である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0064

6-2 高頻度症候の臨床 > 消化器・生殖器・睡眠等の症候 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】妊娠を希望して長期間妊娠に至らない相談を受けた場合、最も適切な説明はどれか。

ア．不妊原因は男女双方にあり得る。
イ．原因評価には医学的検査が必要となる。
ウ．長期不妊では適切な時期に専門評価を検討する。
エ．不妊には女性側・男性側・双方・原因不明などがあり、施術のみで原因を断定せず専門評価につなげる。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「女性側だけが原因と説明する。」を検討するための内容であり、今回の正答「原因は男女双方にあり得るため、必要に応じて専門医療機関での評価を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「施術だけで原因を確定できると説明する。」を検討するための内容であり、今回の正答「原因は男女双方にあり得るため、必要に応じて専門医療機関での評価を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「受診は不要で生活指導だけで十分と断定する。」を検討するための内容であり、今回の正答「原因は男女双方にあり得るため、必要に応じて専門医療機関での評価を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。
エ：正しい。この説明は「原因は男女双方にあり得るため、必要に応じて専門医療機関での評価を勧める。」が正答となる根拠を直接示している。
総合解説：元の論点では「原因は男女双方にあり得るため、必要に応じて専門医療機関での評価を勧める。」が正答である。判断根拠は、不妊には女性側・男性側・双方・原因不明などがあり、施術のみで原因を断定せず専門評価につなげる。不妊には女性側・男性側・双方・原因不明などがあり、施術のみで原因を断定せず専門評価につなげる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0065

6-3 その他症候・レッドフラッグ＞皮膚・代謝・腎泌尿器等の症候 | 難易度：標準

「肥満評価でBMIと健康リスクを区別する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

肥満の臨床評価として適切なものはどれか。

ア．肥満の評価では体格に加え、代謝・循環器リスクや生活背景を総合する。

イ．身長や体組成、合併症なども考慮が必要である。

ウ．個別の健康状態や必要エネルギーを考慮すべきである。

エ．肥満と関連する重要な合併症である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「体格指標だけでなく、血圧、血糖、脂質、生活習慣や合併症リスクも確認する。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「体重だけで全身状態を判断する。」を検討するための内容であり、今回の正答「体格指標だけでなく、血圧、血糖、脂質、生活習慣や合併症リスクも確認する。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「肥満があれば全員同じ食事に。」を検討するための内容であり、今回の正答「体格指標だけでなく、血圧、血糖、脂質、生活習慣や合併症リスクも確認する。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「高血圧や糖尿病の有無は確認しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「体格指標だけでなく、血圧、血糖、脂質、生活習慣や合併症リスクも確認する。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「体格指標だけでなく、血圧、血糖、脂質、生活習慣や合併症リスクも確認する。」が正答である。判断根拠は、肥満の評価では体格に加え、代謝・循環器リスクや生活背景を総合する。肥満の評価では体格に加え、代謝・循環器リスクや生活背景を総合する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0066

6-3 その他症候・レッドフラッグ＞皮膚・代謝・腎泌尿器等の症候 | 難易度：応用

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

意図していない体重減少が続く場合の対応として最も適切なものはどれか。

ア．意図しない体重減少を健康改善と断定してはいけない。

イ．意図しない体重減少は全身疾患の徴候となることがあり、原因精査が必要である。

ウ．原因疾患の評価を遅らせるべきではない。

エ．関連症状は鑑別に重要である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「代謝が良くなった証拠と一律に説明する。」を検討するための内容であり、今回の正答「食事量だけでなく、悪性腫瘍、内分泌疾患、感染症、消化器疾患などを含め医療評価を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「食事量だけでなく、悪性腫瘍、内分泌疾患、感染症、消化器疾患などを含め医療評価を勧める。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「施術で体重が戻るまで受診を控える。」を検討するための内容であり、今回の正答「食事量だけでなく、悪性腫瘍、内分泌疾患、感染症、消化器疾患などを含め医療評価を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「食欲や発熱の有無は確認しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「食事量だけでなく、悪性腫瘍、内分泌疾患、感染症、消化器疾患などを含め医療評価を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「食事量だけでなく、悪性腫瘍、内分泌疾患、感染症、消化器疾患などを含め医療評価を勧める。」が正答である。判断根拠は、意図しない体重減少は全身疾患の徴候となることがあり、原因精査が必要である。意図しない体重減少は全身疾患の徴候となることがあり、原因精査が必要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0067

6-3 その他症候・レッドフラッグ＞皮膚・代謝・腎泌尿器等の症候 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】浮腫の観察で有用なのはどれか。

ア．浮腫の原因は多様で、問診・診察が必要である。

イ．左右差は血栓など局所病変の鑑別に重要である。

ウ．浮腫は分布・圧痕・皮膚所見・経過を評価し、全身性が局所性を考える。

エ．炎症や血栓を考える重要な所見である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「見た目だけで原因を確定する。」を検討するための内容であり、今回の正答「左右差、圧痕の有無、皮膚色・熱感、急性か慢性かを確認する。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「片側か両側かは評価しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「左右差、圧痕の有無、皮膚色・熱感、急性か慢性かを確認する。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「左右差、圧痕の有無、皮膚色・熱感、急性か慢性かを確認する。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「熱感や疼痛は記録しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「左右差、圧痕の有無、皮膚色・熱感、急性か慢性かを確認する。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「左右差、圧痕の有無、皮膚色・熱感、急性か慢性かを確認する。」が正答である。判断根拠は、浮腫は分布・圧痕・皮膚所見・経過を評価し、全身性が局所性を考える。浮腫は分布・圧痕・皮膚所見・経過を評価し、全身性が局所性を考える。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0068

6-3 その他症候・レッドフラッグ＞皮膚・代謝・腎泌尿器等の症候 | 難易度：基礎

「皮疹では感染性病変や皮膚障害への直接刺激を避ける」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

体幹の片側に帯状の水疱と強い灼熱痛が出ている。最も適切な対応はどれか。

ア．水疱を損傷させる行為は感染・皮膚障害リスクを高める。

イ．炎症性皮膚病変への強刺激は不適切である。

ウ．皮膚感染・炎症は適否判断に重要である。

エ．帯状の疼痛性水疱は帯状疱疹を示唆し、感染性皮膚病変への直接刺激は避ける。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「水疱をつぶしてから揉む。」を検討するための内容であり、今回の正答「帯状疱疹などを考え、病変部への施術を避けて医療機関受診を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「病変部を強く叩いて痛覚を低下させる。」を検討するための内容であり、今回の正答「帯状疱疹などを考え、病変部への施術を避けて医療機関受診を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「皮疹は施術適否と無関係なので通常通り行う。」を検討するための内容であり、今回の正答「帯状疱疹などを考え、病変部への施術を避けて医療機関受診を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「帯状疱疹などを考え、病変部への施術を避けて医療機関受診を勧める。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「帯状疱疹などを考え、病変部への施術を避けて医療機関受診を勧める。」が正答である。判断根拠は、帯状の疼痛性水疱は帯状疱疹を示唆し、感染性皮膚病変への直接刺激は避ける。帯状の疼痛性水疱は帯状疱疹を示唆し、感染性皮膚病変への直接刺激は避ける。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0069

6-3 その他症候・レッドフラッグ＞皮膚・代謝・腎泌尿器等の症候 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
全身の強い掻痒が続くが明らかな皮疹が乏しい場合、適切な考え方はどれか。

- ア．全身性掻痒は皮膚疾患以外の全身疾患や薬剤でも生じ得る。
- イ．皮疹が乏しい掻痒にも全身性原因があり得る。
- ウ．原因診断には医学的評価が必要な場合がある。
- エ．肝胆道系病態では掻痒と黄疸・尿色変化が関連することがある。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「皮膚疾患だけでなく、肝胆道・腎・血液疾患や薬剤など全身要因も考える。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「必ず乾燥肌だけが原因である。」を検討するための内容であり、今回の正答「皮膚疾患だけでなく、肝胆道・腎・血液疾患や薬剤など全身要因も考える。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「掻痒の原因は施術で確定できる。」を検討するための内容であり、今回の正答「皮膚疾患だけでなく、肝胆道・腎・血液疾患や薬剤など全身要因も考える。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「黄疸や尿色変化は掻痒と無関係である。」を検討するための内容であり、今回の正答「皮膚疾患だけでなく、肝胆道・腎・血液疾患や薬剤など全身要因も考える。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「皮膚疾患だけでなく、肝胆道・腎・血液疾患や薬剤など全身要因も考える。」が正答である。判断根拠は、全身性掻痒は皮膚疾患以外の全身疾患や薬剤でも生じ得る。全身性掻痒は皮膚疾患以外の全身疾患や薬剤でも生じ得る。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0070

6-3 その他症候・レッドフラッグ＞皮膚・代謝・腎泌尿器等の症候 | 難易度：応用

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】糖尿病治療中の人冷汗、手の震え、動悸、強い空腹感を急に訴えた。最も考えやすいのはどれか。

- ア．典型的な低血糖症状とは一致しにくい。
- イ．低血糖では交感神経症状として冷汗・振戦・動悸・空腹感などが出ることがある。
- ウ．手指感覚障害が中心で全身性の自律神経症状を説明しない。
- エ．膝痛の疾患である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「高カルシウム血症だけ。」を検討するための内容であり、今回の正答「低血糖。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「低血糖。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「手根管症候群。」を検討するための内容であり、今回の正答「低血糖。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「変形性膝関節症。」を検討するための内容であり、今回の正答「低血糖。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「低血糖。」が正答である。判断根拠は、低血糖では交感神経症状として冷汗・振戦・動悸・空腹感などが出ることがある。低血糖では交感神経症状として冷汗・振戦・動悸・空腹感などが出ることがある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0071

6-3 その他症候・レッドフラッグ＞皮膚・代謝・腎泌尿器等の症候 | 難易度：基礎

「高血糖の代表症状を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なのはどれか。

高血糖でみられやすい組合せはどれか。

ア．三叉神経痛など別の病態を考える。

イ．外側上顆炎の特徴である。

ウ．高血糖では浸透圧利尿により多尿となり、口渇・多飲を伴うことがある。

エ．脳卒中を疑う。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「片側顔面の電撃痛と流涙。」を検討するための内容であり、今回の正答「口渇、多飲、多尿。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「肘外側痛と手関節伸展痛。」を検討するための内容であり、今回の正答「口渇、多飲、多尿。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「口渇、多飲、多尿。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「突然の片麻痺と失語。」を検討するための内容であり、今回の正答「口渇、多飲、多尿。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「口渇、多飲、多尿。」が正答である。判断根拠は、高血糖では浸透圧利尿により多尿となり、口渇・多飲を伴うことがある。高血糖では浸透圧利尿により多尿となり、口渇・多飲を伴うことがある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0072

6-3 その他症候・レッドフラッグ＞皮膚・代謝・腎泌尿器等の症候 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

頻尿と排尿時痛があり、尿が濁ると訴える場合に考えやすいのはどれか。

ア．排尿症状の説明にはならない。

イ．肩の運動器疾患である。

ウ．顔面痛の疾患である。

エ．頻尿・排尿痛・尿混濁は膀胱炎など尿路感染症でみられることがある。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「緊張型頭痛。」を検討するための内容であり、今回の正答「尿路感染症。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「肩関節周囲炎。」を検討するための内容であり、今回の正答「尿路感染症。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「三叉神経痛。」を検討するための内容であり、今回の正答「尿路感染症。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「尿路感染症。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「尿路感染症。」が正答である。判断根拠は、頻尿・排尿痛・尿混濁は膀胱炎など尿路感染症でみられることがある。頻尿・排尿痛・尿混濁は膀胱炎など尿路感染症でみられることがある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0073

6-3 その他症候・レッドフラッグ＞皮膚・代謝・腎泌尿器等の症候 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】脱水の心当たりがないのに尿量が著しく減り、全身のむくみと息苦しさもある。最も適切なのはどれか。

- ア．著明な乏尿・浮腫・呼吸症状の組合せは重大な全身疾患を示す可能性がある。
- イ．原因により水分制限が必要な場合もあり、一律の大量摂取は危険である。
- ウ．尿量減少の原因評価を優先すべきである。
- エ．腎・心疾患の可能性があり受診を遅らせない。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「腎機能障害や心不全などを考え、速やかな医療評価を勧める。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「水分を大量に飲めば必ず解決すると説明する。」を検討するための内容であり、今回の正答「腎機能障害や心不全などを考え、速やかな医療評価を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「下腿を強く揉んで尿量を増やす。」を検討するための内容であり、今回の正答「腎機能障害や心不全などを考え、速やかな医療評価を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「数週間施術だけで様子を見る。」を検討するための内容であり、今回の正答「腎機能障害や心不全などを考え、速やかな医療評価を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「腎機能障害や心不全などを考え、速やかな医療評価を勧める。」が正答である。判断根拠は、著明な乏尿・浮腫・呼吸症状の組合せは重大な全身疾患を示す可能性がある。著明な乏尿・浮腫・呼吸症状の組合せは重大な全身疾患を示す可能性がある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0074

6-3 その他症候・レッドフラッグ＞皮膚・代謝・腎泌尿器等の症候 | 難易度：基礎

「血尿を医療評価につなげる」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

肉眼的血尿を認めた人への対応として最も適切なものはどれか。

- ア．無痛性血尿でも重要な病態の徴候となり得る。
- イ．肉眼的血尿は感染、結石、腫瘍など多様な原因があり、医学的評価が必要である。
- ウ．原因確定には尿検査・画像等の医学的評価が必要である。
- エ．血尿の原因は一つではない。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「痛くなければ正常なので記録しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「痛みの有無にかかわらず、泌尿器系疾患の評価のため医療機関受診を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「痛みの有無にかかわらず、泌尿器系疾患の評価のため医療機関受診を勧める。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「施術で血尿の原因を確定する。」を検討するための内容であり、今回の正答「痛みの有無にかかわらず、泌尿器系疾患の評価のため医療機関受診を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「血尿があれば必ず腎結石と断定する。」を検討するための内容であり、今回の正答「痛みの有無にかかわらず、泌尿器系疾患の評価のため医療機関受診を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「痛みの有無にかかわらず、泌尿器系疾患の評価のため医療機関受診を勧める。」が正答である。判断根拠は、肉眼的血尿は感染、結石、腫瘍など多様な原因があり、医学的評価が必要である。肉眼的血尿は感染、結石、腫瘍など多様な原因があり、医学的評価が必要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0075

6-3 その他症候・レッドフラッグ＞神経・精神・認知等の症候 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
うつ病を疑う契機となる症状として重要なのはどれか。

ア．一過性の筋疲労だけではうつ病を示さない。

イ．単独の生理的眠気ではうつ病と判断できない。

ウ．うつ病では気分の落ち込みや興味・喜びの低下を中心に、睡眠・食欲・疲労などの症状が持続することがある。

エ．運動に伴う生理反応であり精神症候ではない。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「運動後だけの一時的な筋疲労。」を検討するための内容であり、今回の正答「抑うつ気分や興味・喜びの低下が持続し、生活機能に支障が出ている。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「食後だけの一時的な眠気。」を検討するための内容であり、今回の正答「抑うつ気分や興味・喜びの低下が持続し、生活機能に支障が出ている。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「抑うつ気分や興味・喜びの低下が持続し、生活機能に支障が出ている。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「階段昇降後だけの呼吸数増加。」を検討するための内容であり、今回の正答「抑うつ気分や興味・喜びの低下が持続し、生活機能に支障が出ている。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「抑うつ気分や興味・喜びの低下が持続し、生活機能に支障が出ている。」が正答である。判断根拠は、うつ病では気分の落ち込みや興味・喜びの低下を中心に、睡眠・食欲・疲労などの症状が持続することがある。うつ病では気分の落ち込みや興味・喜びの低下を中心に、睡眠・食欲・疲労などの症状が持続することがある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0076

6-3 その他症候・レッドフラッグ＞神経・精神・認知等の症候 | 難易度：応用

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】利用者が「具体的な方法を考えて、今夜死のうと思っている」と話した。最も適切な対応はどれか。

ア．切迫した自殺リスクがある場合に通常施術だけで帰宅させるのは危険である。

イ．生命の安全が優先され、適切な支援につなぐ必要がある。

ウ．非難は支援にならず、安全確保と専門的介入が必要である。

エ．具体的な自殺計画・切迫性がある場合は緊急の安全確保と専門支援が最優先である。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「気分転換の施術をして帰宅させる。」を検討するための内容であり、今回の正答「一人にせず、安全を確保しながら家族・医療・救急等の緊急支援につなげる。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「秘密なので誰にも相談しないと約束する。」を検討するための内容であり、今回の正答「一人にせず、安全を確保しながら家族・医療・救急等の緊急支援につなげる。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「本人を責めて考えを撤回させる。」を検討するための内容であり、今回の正答「一人にせず、安全を確保しながら家族・医療・救急等の緊急支援につなげる。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「一人にせず、安全を確保しながら家族・医療・救急等の緊急支援につなげる。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「一人にせず、安全を確保しながら家族・医療・救急等の緊急支援につなげる。」が正答である。判断根拠は、具体的な自殺計画・切迫性がある場合は緊急の安全確保と専門支援が最優先である。具体的な自殺計画・切迫性がある場合は緊急の安全確保と専門支援が最優先である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0077

6-3 その他症候・レッドフラッグ＞神経・精神・認知等の症候 | 難易度：標準

「不安症状と身体症状の関連を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なのはどれか。

強い不安時に動悸、発汗、息苦しさ、震えが出ることがある。対応として適切なのはどれか。

- ア．不安は自律神経症状を伴うことがあるが、心肺疾患など身体原因の除外も重要である。
- イ．身体症状には医学的原因が隠れることがある。
- ウ．不安症は治療対象となる精神疾患を含む。
- エ．急性呼吸症状の緊急性を評価すべきである。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「身体疾患の可能性も確認しつつ、不安症状が持続・反復して生活に支障があれば専門医療につなげる。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「動悸があっても心血管評価は一切不要である。」を検討するための内容であり、今回の正答「身体疾患の可能性も確認しつつ、不安症状が持続・反復して生活に支障があれば専門医療につなげる。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「不安は本人の性格だけの問題と説明する。」を検討するための内容であり、今回の正答「身体疾患の可能性も確認しつつ、不安症状が持続・反復して生活に支障があれば専門医療につなげる。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「息苦しさが強くても施術を中断しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「身体疾患の可能性も確認しつつ、不安症状が持続・反復して生活に支障があれば専門医療につなげる。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「身体疾患の可能性も確認しつつ、不安症状が持続・反復して生活に支障があれば専門医療につなげる。」が正答である。判断根拠は、不安は自律神経症状を伴うことがあるが、心肺疾患など身体原因の除外も重要である。不安は自律神経症状を伴うことがあるが、心肺疾患など身体原因の除外も重要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0078

6-3 その他症候・レッドフラッグ＞神経・精神・認知等の症候 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
高齢者が数時間～数日で急に注意力が低下し、時間帯で意識状態が変動する。最も考慮すべきなのはどれか。

- ア．急性の注意障害・変動性意識は正常加齢では説明できない。
- イ．せん妄は急性発症で注意・意識の変動を特徴とし、感染・薬剤・代謝異常など背景原因の評価が必要である。
- ウ．急性の意識・注意変化の原因ではない。
- エ．関節疾患であり意識変動を説明しない。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「加齢による正常な物忘れだけ。」を検討するための内容であり、今回の正答「せん妄。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「せん妄。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「慢性的の肩こりだけ。」を検討するための内容であり、今回の正答「せん妄。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「変形性膝関節症。」を検討するための内容であり、今回の正答「せん妄。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「せん妄。」が正答である。判断根拠は、せん妄は急性発症で注意・意識の変動を特徴とし、感染・薬剤・代謝異常など背景原因の評価が必要である。せん妄は急性発症で注意・意識の変動を特徴とし、感染・薬剤・代謝異常など背景原因の評価が必要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0079

6-3 その他症候・レッドフラッグ＞神経・精神・認知等の症候 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】認知症を考える上で重要なのはどれか。

ア．高齢であることだけでは認知症と診断できない。

イ．軽度認知障害など他の状態もあり得る。

ウ．認知症では認知機能の低下に加え、生活機能への影響を評価することが重要である。

エ．認知機能低下には可逆的要因もあり評価が必要である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「年齢が高ければ自動的に認知症とする。」を検討するための内容であり、今回の正答「記憶などの認知機能低下が以前より進み、日常生活や社会生活に支障を及ぼしているか。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「物忘れの自覚があれば必ず重度認知症である。」を検討するための内容であり、今回の正答「記憶などの認知機能低下が以前より進み、日常生活や社会生活に支障を及ぼしているか。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「記憶などの認知機能低下が以前より進み、日常生活や社会生活に支障を及ぼしているか。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「身体疾患や薬剤の影響は考慮しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「記憶などの認知機能低下が以前より進み、日常生活や社会生活に支障を及ぼしているか。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「記憶などの認知機能低下が以前より進み、日常生活や社会生活に支障を及ぼしているか。」が正答である。判断根拠は、認知症では認知機能の低下に加え、生活機能への影響を評価することが重要である。認知症では認知機能の低下に加え、生活機能への影響を評価することが重要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0080

6-3 その他症候・レッドフラッグ＞神経・精神・認知等の症候 | 難易度：応用

「パーキンソン症候で自律神経症状も確認する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

動作緩慢と筋強剛に加え、立ちくらみや排尿障害が早期から目立つ場合の考え方として適切なものはどれか。

ア．運動症状と自律神経症状の組合せは神経疾患を考える。

イ．自律神経障害として関連することがある。

ウ．神経疾患の診断には専門的評価が必要である。

エ．パーキンソニズムに強い自律神経障害を伴う場合、多系統萎縮症などの鑑別が必要になる。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「単なる肩こりだけと判断する。」を検討するための内容であり、今回の正答「パーキンソン症候群を含む神経疾患の鑑別が必要で、脳神経内科評価を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「排尿障害は神経疾患と無関係である。」を検討するための内容であり、今回の正答「パーキンソン症候群を含む神経疾患の鑑別が必要で、脳神経内科評価を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「施術反応だけで疾患名を確定する。」を検討するための内容であり、今回の正答「パーキンソン症候群を含む神経疾患の鑑別が必要で、脳神経内科評価を勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「パーキンソン症候群を含む神経疾患の鑑別が必要で、脳神経内科評価を勧める。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「パーキンソン症候群を含む神経疾患の鑑別が必要で、脳神経内科評価を勧める。」が正答である。判断根拠は、パーキンソニズムに強い自律神経障害を伴う場合、多系統萎縮症などの鑑別が必要になる。パーキンソニズムに強い自律神経障害を伴う場合、多系統萎縮症などの鑑別が必要になる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0081

6-3 その他症候・レッドフラッグ> 神経・精神・認知等の症候 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
パーキンソン病で典型的な振戦はどれか。

- ア．パーキンソン病では安静時振戦が代表的で、動作時に目立たなくなることがある。
- イ．安静時振戦とは異なる。
- ウ．感染症などに伴う全身反応である。
- エ．低血糖による交感神経症状で、パーキンソン病の安静時振戦とは異なる。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「安静時に目立ち、随意運動で軽くなることがある振戦。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「運動時だけの生理的筋疲労。」を検討するための内容であり、今回の正答「安静時に目立ち、随意運動で軽くなることがある振戦。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「発熱時だけの悪寒戦慄。」を検討するための内容であり、今回の正答「安静時に目立ち、随意運動で軽くなることがある振戦。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「低血糖時の全身性の震えだけ。」を検討するための内容であり、今回の正答「安静時に目立ち、随意運動で軽くなることがある振戦。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「安静時に目立ち、随意運動で軽くなることがある振戦。」が正答である。判断根拠は、パーキンソン病では安静時振戦が代表的で、動作時に目立たなくなることがある。パーキンソン病では安静時振戦が代表的で、動作時に目立たなくなることがある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0082

6-3 その他症候・レッドフラッグ> 神経・精神・認知等の症候 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】「言いたい内容は分かっているが、ろれつが回らず発音が不明瞭」という症状はどれか。

- ア．失語は言語の理解や表出など言語機能そのものの障害である。
- イ．構音障害は言語内容そのものではなく、発声・構音運動の障害により発音が不明瞭になる。
- ウ．失認は感覚情報を認識する高次機能の障害である。
- エ．失行は運動能力が保たれていても学習された行為ができない障害である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「失語。」を検討するための内容であり、今回の正答「構音障害。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「構音障害。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「失認。」を検討するための内容であり、今回の正答「構音障害。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「失行。」を検討するための内容であり、今回の正答「構音障害。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「構音障害。」が正答である。判断根拠は、構音障害は言語内容そのものではなく、発声・構音運動の障害により発音が不明瞭になる。構音障害は言語内容そのものではなく、発声・構音運動の障害により発音が不明瞭になる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0083

6-3 その他症候・レッドフラッグ＞神経・精神・認知等の症候 | 難易度：標準

「初回けいれん発作では医療評価が必要と理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

成人が初めて全身けいれんを起こし、現在は意識が戻っている。対応として適切なものはどれか。

ア．初回けいれんは医学的評価が必要である。

イ．口腔内へ物を入れる行為は外傷・窒息の危険がある。

ウ．初回けいれんは脳疾患・代謝異常などの原因評価が必要で、通常施術で完結させない。

エ．けいれんの原因診断には専門的評価が必要である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「肩の筋疲労と説明して受診を勧めない。」を検討するための内容であり、今回の正答「原因評価のため医療機関受診を勧め、再発や意識障害があれば救急対応を考える。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「舌を噛まないよう発作中に硬い物を口へ入れる。」を検討するための内容であり、今回の正答「原因評価のため医療機関受診を勧め、再発や意識障害があれば救急対応を考える。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「原因評価のため医療機関受診を勧め、再発や意識障害があれば救急対応を考える。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「原因を施術反応だけで確定する。」を検討するための内容であり、今回の正答「原因評価のため医療機関受診を勧め、再発や意識障害があれば救急対応を考える。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「原因評価のため医療機関受診を勧め、再発や意識障害があれば救急対応を考える。」が正答である。判断根拠は、初回けいれんは脳疾患・代謝異常などの原因評価が必要で、通常施術で完結させない。初回けいれんは脳疾患・代謝異常などの原因評価が必要で、通常施術で完結させない。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0084

6-3 その他症候・レッドフラッグ＞神経・精神・認知等の症候 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

両足先から左右対称にしびれが始まり、徐々に足首方向へ広がっている。考え方として適切なものはどれか。

ア．尺骨神経は上肢に分布し、両足先の対称症状を説明しない。

イ．肩関節疾患は両足の感覚障害を説明しない。

ウ．進行する感覚障害は病的原因の評価が必要である。

エ．左右対称の遠位優位感覚障害は多発ニューロパチーでみられることがある。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「単一の尺骨神経障害だけで説明する。」を検討するための内容であり、今回の正答「多発ニューロパチーなど末梢神経障害を考え、糖尿病など背景疾患を含め評価する。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「肩関節周囲炎と診断する。」を検討するための内容であり、今回の正答「多発ニューロパチーなど末梢神経障害を考え、糖尿病など背景疾患を含め評価する。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「正常加齢なので全員に起こると説明する。」を検討するための内容であり、今回の正答「多発ニューロパチーなど末梢神経障害を考え、糖尿病など背景疾患を含め評価する。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「多発ニューロパチーなど末梢神経障害を考え、糖尿病など背景疾患を含め評価する。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「多発ニューロパチーなど末梢神経障害を考え、糖尿病など背景疾患を含め評価する。」が正答である。判断根拠は、左右対称の遠位優位感覚障害は多発ニューロパチーでみられることがある。左右対称の遠位優位感覚障害は多発ニューロパチーでみられることがある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0085

6-3 その他症候・レッドフラッグ> 発熱・胸痛・呼吸困難・出血・意識障害等 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】高熱、激しい頭痛、項部硬直、意識のぼんやりがある。最も適切な対応はどれか。

ア．発熱・頭痛・項部硬直・意識変容の組合せは髄膜炎などを疑う重大所見である。

イ．髄膜炎等が疑われる状況で頸部施術を優先してはいけない。

ウ．重篤感染症の可能性があり医療評価が必要である。

エ．意識変化は緊急度を高める重要所見である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「髄膜炎など重篤な感染症を疑い、施術を行わず緊急に医療機関へつなげる。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「首のこりとして強い頸部回旋を行う。」を検討するための内容であり、今回の正答「髄膜炎など重篤な感染症を疑い、施術を行わず緊急に医療機関へつなげる。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「解熱するまで施術所で休ませるだけにする。」を検討するための内容であり、今回の正答「髄膜炎など重篤な感染症を疑い、施術を行わず緊急に医療機関へつなげる。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「意識状態は発熱と無関係なので評価しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「髄膜炎など重篤な感染症を疑い、施術を行わず緊急に医療機関へつなげる。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「髄膜炎など重篤な感染症を疑い、施術を行わず緊急に医療機関へつなげる。」が正答である。判断根拠は、発熱・頭痛・項部硬直・意識変容の組合せは髄膜炎などを疑う重大所見である。発熱・頭痛・項部硬直・意識変容の組合せは髄膜炎などを疑う重大所見である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0086

6-3 その他症候・レッドフラッグ> 発熱・胸痛・呼吸困難・出血・意識障害等 | 難易度：応用

「急性冠症候群を疑う胸痛を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

胸部の圧迫感が20分以上続き、冷汗と吐き気を伴っている。最も適切な対応はどれか。

ア．心筋虚血の可能性があり通常施術を優先しない。

イ．持続する圧迫性胸痛に冷汗・悪心を伴う場合は急性冠症候群を疑い、時間を置かず救急対応する。

ウ．状態悪化の可能性があり安全確保と救急対応が必要である。

エ．急性冠症候群は迅速な評価・治療が必要である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「胸筋のこりと判断して胸部を強く揉む。」を検討するための内容であり、今回の正答「急性冠症候群を疑い、119番通報など緊急医療につなげる。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「急性冠症候群を疑い、119番通報など緊急医療につなげる。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「症状が治るまで一人で歩かせる。」を検討するための内容であり、今回の正答「急性冠症候群を疑い、119番通報など緊急医療につなげる。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「翌日の受診でよいと説明する。」を検討するための内容であり、今回の正答「急性冠症候群を疑い、119番通報など緊急医療につなげる。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「急性冠症候群を疑い、119番通報など緊急医療につなげる。」が正答である。判断根拠は、持続する圧迫性胸痛に冷汗・悪心を伴う場合は急性冠症候群を疑い、時間を置かず救急対応する。持続する圧迫性胸痛に冷汗・悪心を伴う場合は急性冠症候群を疑い、時間を置かず救急対応する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0087

6-3 その他症候・レッドフラッグ＞発熱・胸痛・呼吸困難・出血・意識障害等 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
突然強い息苦しさが出て、会話が困難で顔色も悪い。最も適切なのはどれか。

- ア．呼吸困難時は施術を中止し呼吸を妨げない体位で安全確保する。
- イ．高度呼吸困難は重大な心肺疾患を除外する必要がある。
- ウ．突然の高度呼吸困難は肺塞栓、気胸、重症喘息、心不全などの可能性があり緊急対応が必要である。
- エ．原因不明の重度呼吸困難に対する適切な初期対応ではない。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「うつ伏せで強い背部マッサージを続ける。」を検討するための内容であり、今回の正答「呼吸状態を確認し、緊急性が高いとして119番通報など救急対応を行う。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「肩こりが原因と決めつける。」を検討するための内容であり、今回の正答「呼吸状態を確認し、緊急性が高いとして119番通報など救急対応を行う。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「呼吸状態を確認し、緊急性が高いとして119番通報など救急対応を行う。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「水を大量に飲ませて様子を見る。」を検討するための内容であり、今回の正答「呼吸状態を確認し、緊急性が高いとして119番通報など救急対応を行う。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「呼吸状態を確認し、緊急性が高いとして119番通報など救急対応を行う。」が正答である。判断根拠は、突然の高度呼吸困難は肺塞栓、気胸、重症喘息、心不全などの可能性があり緊急対応が必要である。突然の高度呼吸困難は肺塞栓、気胸、重症喘息、心不全などの可能性があり緊急対応が必要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0088

6-3 その他症候・レッドフラッグ＞発熱・胸痛・呼吸困難・出血・意識障害等 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】コーヒー残渣様の嘔吐と黒色タール便がある。考え方として適切なのはどれか。

- ア．消化管出血が疑われるため腹部施術より医療評価を優先する。
- イ．黒色タール便は消化管出血でみられることがある。
- ウ．出血時は循環状態の評価が重要である。
- エ．吐血や黒色便は上部消化管出血の重要な症候で、出血量によりショックへ進む可能性がある。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「単なる便秘なので腹部を強く揉む。」を検討するための内容であり、今回の正答「上部消化管出血を疑い、循環状態を確認して速やかに医療機関へつなげる。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「黒色便は必ず食事だけが原因と説明する。」を検討するための内容であり、今回の正答「上部消化管出血を疑い、循環状態を確認して速やかに医療機関へつなげる。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「血圧や脈拍を確認する必要はない。」を検討するための内容であり、今回の正答「上部消化管出血を疑い、循環状態を確認して速やかに医療機関へつなげる。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「上部消化管出血を疑い、循環状態を確認して速やかに医療機関へつなげる。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「上部消化管出血を疑い、循環状態を確認して速やかに医療機関へつなげる。」が正答である。判断根拠は、吐血や黒色便は上部消化管出血の重要な症候で、出血量によりショックへ進む可能性がある。吐血や黒色便は上部消化管出血の重要な症候で、出血量によりショックへ進む可能性がある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0089

6-3 その他症候・レッドフラッグ＞発熱・胸痛・呼吸困難・出血・意識障害等 | 難易度：標準

「出血傾向の所見と施術リスクを理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

軽い接触でも広範な紫斑ができ、鼻出血も繰り返している。施術前の対応として適切なのはどれか。

ア．原因不明の出血傾向は血液疾患や薬剤などの可能性があり、圧迫・叩打による出血リスクに注意する。

イ．出血傾向が疑われる場合に打撃刺激を強めるのは危険である。

ウ．反復する出血は重要な病歴である。

エ．手技による皮下出血等のリスク評価に直接関係する。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「血小板・凝固異常などを考え、強い手技を避けて医療評価を勤める。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「皮下出血があるほど叩打法を強くする。」を検討するための内容であり、今回の正答「血小板・凝固異常などを考え、強い手技を避けて医療評価を勤める。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「鼻出血は全身状態と無関係なので記録しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「血小板・凝固異常などを考え、強い手技を避けて医療評価を勤める。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「出血傾向は施術適否に影響しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「血小板・凝固異常などを考え、強い手技を避けて医療評価を勤める。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「血小板・凝固異常などを考え、強い手技を避けて医療評価を勤める。」が正答である。判断根拠は、原因不明の出血傾向は血液疾患や薬剤などの可能性があり、圧迫・叩打による出血リスクに注意する。原因不明の出血傾向は血液疾患や薬剤などの可能性があり、圧迫・叩打による出血リスクに注意する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0090

6-3 その他症候・レッドフラッグ＞発熱・胸痛・呼吸困難・出血・意識障害等 | 難易度：応用

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

施術中に反応がなくなり、普段どおりの呼吸が確認できない。最も適切な対応はどれか。

ア．心停止への標準対応ではなく、胸骨圧迫とAEDを遅らせる。

イ．反応がなく正常な呼吸がない場合は心停止を疑い、救急要請・AED・胸骨圧迫を迅速に行う。

ウ．心停止の可能性があるため待機は危険である。

エ．意識がない人に飲水させると誤嚥の危険がある。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「脈が戻るまで足裏を強く揉む。」を検討するための内容であり、今回の正答「119番通報とAED手配を行い、胸骨圧迫を開始する。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「119番通報とAED手配を行い、胸骨圧迫を開始する。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「10分間寝かせて自然に目覚めるが待つ。」を検討するための内容であり、今回の正答「119番通報とAED手配を行い、胸骨圧迫を開始する。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「水を飲ませる。」を検討するための内容であり、今回の正答「119番通報とAED手配を行い、胸骨圧迫を開始する。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「119番通報とAED手配を行い、胸骨圧迫を開始する。」が正答である。判断根拠は、反応がなく正常な呼吸がない場合は心停止を疑い、救急要請・AED・胸骨圧迫を迅速に行う。反応がなく正常な呼吸がない場合は心停止を疑い、救急要請・AED・胸骨圧迫を迅速に行う。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0091

6-3 その他症候・レッドフラッグ＞発熱・胸痛・呼吸困難・出血・意識障害等 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】突然、顔の片側が下がり、片腕が上がらず、言葉が不明瞭になった。最も適切なものはどれか。

ア．急性局所神経症状は脳卒中を除外する必要がある。

イ．治療可能時間が限られるため受診を遅らせるべきではない。

ウ．顔面麻痺・上肢麻痺・言語障害の急性発症は脳卒中を強く疑うため、時間を記録して救急搬送につなげる。

エ．脳卒中治療では発症時刻が重要な情報となる。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「顔面の筋肉疲労と考えて施術を続ける。」を検討するための内容であり、今回の正答「脳卒中を疑い、発症時刻を確認して直ちに救急要請する。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「数時間寝れば治ると説明する。」を検討するための内容であり、今回の正答「脳卒中を疑い、発症時刻を確認して直ちに救急要請する。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「脳卒中を疑い、発症時刻を確認して直ちに救急要請する。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「発症時刻は治療に関係しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「脳卒中を疑い、発症時刻を確認して直ちに救急要請する。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「脳卒中を疑い、発症時刻を確認して直ちに救急要請する。」が正答である。判断根拠は、顔面麻痺・上肢麻痺・言語障害の急性発症は脳卒中を強く疑うため、時間を記録して救急搬送につなげる。顔面麻痺・上肢麻痺・言語障害の急性発症は脳卒中を強く疑うため、時間を記録して救急搬送につなげる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0092

6-3 その他症候・レッドフラッグ＞発熱・胸痛・呼吸困難・出血・意識障害等 | 難易度：標準

「雷鳴頭痛をくも膜下出血の警告所見として理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

「突然、今まで経験したことのない激しい頭痛」が数秒～数分で最大になった。最も適切な対応はどれか。

ア．雷鳴頭痛は通常の筋緊張性頭痛とは異なる警告所見である。

イ．一時的に痛みが軽くなっても重大疾患を除外できない。

ウ．緊急評価を遅らせるべきではない。

エ．突然発症し短時間でピークに達する雷鳴頭痛は、くも膜下出血など重大疾患を除外する必要がある。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「緊張型頭痛と決めつけて頸部を強く揉む。」を検討するための内容であり、今回の正答「くも膜下出血などを疑い、緊急医療につなげる。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「鎮痛したら原因評価は不要とする。」を検討するための内容であり、今回の正答「くも膜下出血などを疑い、緊急医療につなげる。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「翌週まで様子を見る。」を検討するための内容であり、今回の正答「くも膜下出血などを疑い、緊急医療につなげる。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「くも膜下出血などを疑い、緊急医療につなげる。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「くも膜下出血などを疑い、緊急医療につなげる。」が正答である。判断根拠は、突然発症し短時間でピークに達する雷鳴頭痛は、くも膜下出血など重大疾患を除外する必要がある。突然発症し短時間でピークに達する雷鳴頭痛は、くも膜下出血など重大疾患を除外する必要がある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0093

6-3 その他症候・レッドフラッグ＞発熱・胸痛・呼吸困難・出血・意識障害等 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
片脚の急な腫れと痛みがあった人が、突然の呼吸困難と胸痛を訴えた。最も適切なのはどれか。
ア．下肢深部静脈血栓を示唆する症状に突然の呼吸困難・胸痛が加わった場合、肺塞栓を考えて緊急対応する。
イ．血栓が疑われる状況で下肢を強く揉むのは不適切である。
ウ．肺塞栓は生命に関わる可能性があり歩行帰宅を勧める状況ではない。
エ．循環・呼吸状態の評価が重要である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「肺血栓塞栓症を疑い、直ちに救急対応する。」が正答となる根拠を直接示している。
イ：誤り。この説明は「下腿を強く揉んで血流を促す。」を検討するための内容であり、今回の正答「肺血栓塞栓症を疑い、直ちに救急対応する。」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「筋肉痛なので歩いて帰宅させる。」を検討するための内容であり、今回の正答「肺血栓塞栓症を疑い、直ちに救急対応する。」を支持する中心的根拠ではない。
エ：誤り。この説明は「呼吸困難があっても血圧や意識を確認しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「肺血栓塞栓症を疑い、直ちに救急対応する。」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「肺血栓塞栓症を疑い、直ちに救急対応する。」が正答である。判断根拠は、下肢深部静脈血栓を示唆する症状に突然の呼吸困難・胸痛が加わった場合、肺塞栓を考えて緊急対応する。
下肢深部静脈血栓を示唆する症状に突然の呼吸困難・胸痛が加わった場合、肺塞栓を考えて緊急対応する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0094

6-3 その他症候・レッドフラッグ＞発熱・胸痛・呼吸困難・出血・意識障害等 | 難易度：応用

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】糖尿病治療中の人冷汗と震えの後に意識を失った。最も適切な対応はどれか。
ア．意識障害時の経口摂取は誤嚥・窒息の危険がある。
イ．意識障害を伴う低血糖は緊急状態であり、誤嚥を避けて救急対応を行う。
ウ．意識障害は施術を中止して緊急対応すべき状態である。
エ．糖尿病治療中の冷汗・振戦・意識障害は重症低血糖を疑う。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「意識がなくても砂糖水を無理に飲ませる。」を検討するための内容であり、今回の正答「低血糖などを疑って救急要請し、意識がないため口から飲食物を与えず安全確保する。」を支持する中心的根拠ではない。
イ：正しい。この説明は「低血糖などを疑って救急要請し、意識がないため口から飲食物を与えず安全確保する。」が正答となる根拠を直接示している。
ウ：誤り。この説明は「通常施術を続ければ覚醒すると考える。」を検討するための内容であり、今回の正答「低血糖などを疑って救急要請し、意識がないため口から飲食物を与えず安全確保する。」を支持する中心的根拠ではない。
エ：誤り。この説明は「冷汗は肩こりの症状なので放置する。」を検討するための内容であり、今回の正答「低血糖などを疑って救急要請し、意識がないため口から飲食物を与えず安全確保する。」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「低血糖などを疑って救急要請し、意識がないため口から飲食物を与えず安全確保する。」が正答である。判断根拠は、意識障害を伴う低血糖は緊急状態であり、誤嚥を避けて救急対応を行う。意識障害を伴う低血糖は緊急状態であり、誤嚥を避けて救急対応を行う。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0095

6-4 スポーツ領域 > スポーツ障害・外傷の一般・予防 | 難易度：基礎

「スポーツ障害とスポーツ外傷の違いを理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

スポーツ障害とスポーツ外傷の説明として最も適切なものはどれか。

ア．スポーツ障害はオーバーユースなどの蓄積性病態、外傷は明確な受傷機転を伴う急性損傷として整理すると理解しやすい。

イ．障害・外傷は損傷組織で分ける概念ではない。

ウ．出題基準では定義と分類を学ぶ対象とされ、発症機序の違いが重要である。

エ．スポーツ外傷はスポーツ中の急性損傷を含む。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「スポーツ障害は反復負荷などで徐々に生じることが多く、スポーツ外傷は捻挫や打撲など一回の外力で生じることが多い。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「スポーツ障害は必ず骨折、外傷は必ず筋肉痛を指す。」を検討するための内容であり、今回の正答「スポーツ障害は反復負荷などで徐々に生じることが多く、スポーツ外傷は捻挫や打撲など一回の外力で生じることが多い。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「スポーツ障害と外傷は発症機序による区別がなく完全に同義である。」を検討するための内容であり、今回の正答「スポーツ障害は反復負荷などで徐々に生じることが多く、スポーツ外傷は捻挫や打撲など一回の外力で生じることが多い。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「スポーツ外傷は運動とは無関係な慢性疾患だけを指す。」を検討するための内容であり、今回の正答「スポーツ障害は反復負荷などで徐々に生じることが多く、スポーツ外傷は捻挫や打撲など一回の外力で生じることが多い。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「スポーツ障害は反復負荷などで徐々に生じることが多く、スポーツ外傷は捻挫や打撲など一回の外力で生じることが多い。」が正答である。判断根拠は、スポーツ障害はオーバーユースなどの蓄積性病態、外傷は明確な受傷機転を伴う急性損傷として整理すると理解しやすい。スポーツ障害はオーバーユースなどの蓄積性病態、外傷は明確な受傷機転を伴う急性損傷として整理すると理解しやすい。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0096

6-4 スポーツ領域 > スポーツ障害・外傷の一般・予防 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

スポーツ外傷の応急手当で用いられるRICEの「I」が示すのはどれか。

ア．RICEのIはIceであり、永久固定を意味しない。

イ．RICEはRest、Ice、Compression、Elevationの頭文字で、Iは冷却を示す。

ウ．RICEの構成要素ではない。

エ．受傷直後に高強度運動を行う意味ではない。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「Immobilization（永久固定）。」を検討するための内容であり、今回の正答「Ice（冷却）。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「Ice（冷却）。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「Inspection（画像検査）。」を検討するための内容であり、今回の正答「Ice（冷却）。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「Intensity（高強度運動）。」を検討するための内容であり、今回の正答「Ice（冷却）。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「Ice（冷却）。」が正答である。判断根拠は、RICEはRest、Ice、Compression、Elevationの頭文字で、Iは冷却を示す。RICEはRest、Ice、Compression、Elevationの頭文字で、Iは冷却を示す。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0097

6-4 スポーツ領域 > スポーツ障害・外傷の一般・予防 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】競技中に足関節を強くひねり、急速な腫脹と荷重困難が出現した。あん摩マッサージ指圧師の初期対応として最も適切なものはどれか。

ア．急性損傷部への強い刺激は悪化リスクがある。

イ．重度損傷が疑われる状況で無理な可動は不適切である。

ウ．急性外傷で著明な腫脹・荷重困難がある場合は損傷の重症度評価が必要で、強い施術を先行させない。

エ．受傷直後は診断・応急対応が優先される。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「腫脹を押し流す目的で強揉捏を続ける。」を検討するための内容であり、今回の正答「骨折や重度靱帯損傷を考慮して患部への強い施術を避け、応急手当と医療評価を優先する。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「骨折の有無にかかわらず関節を最大可動域まで動かす。」を検討するための内容であり、今回の正答「骨折や重度靱帯損傷を考慮して患部への強い施術を避け、応急手当と医療評価を優先する。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「骨折や重度靱帯損傷を考慮して患部への強い施術を避け、応急手当と医療評価を優先する。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「痛みが強いほど競技復帰のため温熱を長時間行う。」を検討するための内容であり、今回の正答「骨折や重度靱帯損傷を考慮して患部への強い施術を避け、応急手当と医療評価を優先する。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「骨折や重度靱帯損傷を考慮して患部への強い施術を避け、応急手当と医療評価を優先する。」が正答である。判断根拠は、急性外傷で著明な腫脹・荷重困難がある場合は損傷の重症度評価が必要で、強い施術を先行させない。急性外傷で著明な腫脹・荷重困難がある場合は損傷の重症度評価が必要で、強い施術を先行させない。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0098

6-4 スポーツ領域 > スポーツ障害・外傷の一般・予防 | 難易度：基礎

「ウォーミングアップの目的を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

スポーツ障害・外傷予防を目的としたウォーミングアップとして最も適切なものはどれか。

ア．ウォーミングアップの目的と逆である。

イ．急激な高負荷は予防にならない。

ウ．ウォーミングアップは活動に向け身体を準備する。

エ．出題基準ではウォーミングアップと動的ストレッチが発症予防の項目として示されている。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「運動前に長時間の完全安静を保つ。」を検討するための内容であり、今回の正答「競技動作に近い動的ストレッチや軽い運動を段階的に行う。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「痛みを我慢して最大強度の反復運動から開始する。」を検討するための内容であり、今回の正答「競技動作に近い動的ストレッチや軽い運動を段階的に行う。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「競技直前に冷却だけを行い筋温を下げる。」を検討するための内容であり、今回の正答「競技動作に近い動的ストレッチや軽い運動を段階的に行う。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「競技動作に近い動的ストレッチや軽い運動を段階的に行う。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「競技動作に近い動的ストレッチや軽い運動を段階的に行う。」が正答である。判断根拠は、出題基準ではウォーミングアップと動的ストレッチが発症予防の項目として示されている。出題基準ではウォーミングアップと動的ストレッチが発症予防の項目として示されている。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0099

6-4 スポーツ領域 > スポーツ障害・外傷の一般・予防 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
競技後のクーリングダウンとして適切なのはどれか。

ア．出題基準ではクーリングダウンと静的ストレッチがスポーツ障害・外傷の発症予防に含まれる。

イ．疲労回復を妨げる可能性がありクーリングダウンではない。

ウ．疼痛部位への過度な伸張は損傷を悪化させ得る。

エ．回復と安全管理には全身状態の確認も重要である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「運動強度を徐々に下げ、必要に応じて静的ストレッチなどを行う。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「競技終了直後からさらに全力走を繰り返す。」を検討するための内容であり、今回の正答「運動強度を徐々に下げ、必要に応じて静的ストレッチなどを行う。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「痛みがある部位を反動をつけて強く伸ばし続ける。」を検討するための内容であり、今回の正答「運動強度を徐々に下げ、必要に応じて静的ストレッチなどを行う。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「水分補給や体調確認を行わない。」を検討するための内容であり、今回の正答「運動強度を徐々に下げ、必要に応じて静的ストレッチなどを行う。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「運動強度を徐々に下げ、必要に応じて静的ストレッチなどを行う。」が正答である。判断根拠は、出題基準ではクーリングダウンと静的ストレッチがスポーツ障害・外傷の発症予防に含まれる。出題基準ではクーリングダウンと静的ストレッチがスポーツ障害・外傷の発症予防に含まれる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0100

6-4 スポーツ領域 > スポーツ障害・外傷の一般・予防 | 難易度：応用

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】オーバークース障害の予防として最も適切な考え方はどれか。

ア．疼痛を無視した負荷増加は障害を悪化させる。

イ．反復負荷による障害予防には、急激な負荷増加を避け、回復を確保することが重要である。

ウ．回復はトレーニング適応に必要である。

エ．生活習慣もコンディショニングに影響する。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「痛みが出てもトレーニング量を毎日増やす。」を検討するための内容であり、今回の正答「運動量や強度を急増させず、休養・睡眠・栄養も含めて負荷と回復のバランスをとる。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「運動量や強度を急増させず、休養・睡眠・栄養も含めて負荷と回復のバランスをとる。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「休養日は身体能力を低下させるため設けない。」を検討するための内容であり、今回の正答「運動量や強度を急増させず、休養・睡眠・栄養も含めて負荷と回復のバランスをとる。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「運動量だけを管理し、睡眠や栄養は考慮しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「運動量や強度を急増させず、休養・睡眠・栄養も含めて負荷と回復のバランスをとる。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「運動量や強度を急増させず、休養・睡眠・栄養も含めて負荷と回復のバランスをとる。」が正答である。判断根拠は、反復負荷による障害予防には、急激な負荷増加を避け、回復を確保することが重要である。反復負荷による障害予防には、急激な負荷増加を避け、回復を確保することが重要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0101

6-4 スポーツ領域 > スポーツ障害・外傷の一般・予防 | 難易度：標準

「筋疲労・筋肉痛への安全な対応を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

激しい練習翌日に両大腿に筋肉痛があるが、腫脹や筋力の著明な低下はない。対応として最も適切なものはどれか。

ア．強い打撃は回復を促す方法ではない。

イ．損傷が疑われる所見があれば適否を再評価する。

ウ．一般的な遅発性筋肉痛では負荷調整と回復が基本で、異常所見があれば別の損傷を考える。

エ．一般的な筋肉痛と重篤外傷は症状・受傷機転で区別する。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「筋線維を切る目的で強打を繰り返す。」を検討するための内容であり、今回の正答「受傷歴や症状を確認し、無理な高負荷を避けながら回復を促す軽い活動や休養を検討する。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「腫脹や筋力低下が出て競技を継続させる。」を検討するための内容であり、今回の正答「受傷歴や症状を確認し、無理な高負荷を避けながら回復を促す軽い活動や休養を検討する。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「受傷歴や症状を確認し、無理な高負荷を避けながら回復を促す軽い活動や休養を検討する。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「筋肉痛は必ず骨折を意味するため救急搬送する。」を検討するための内容であり、今回の正答「受傷歴や症状を確認し、無理な高負荷を避けながら回復を促す軽い活動や休養を検討する。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「受傷歴や症状を確認し、無理な高負荷を避けながら回復を促す軽い活動や休養を検討する。」が正答である。判断根拠は、一般的な遅発性筋肉痛では負荷調整と回復が基本で、異常所見があれば別の損傷を考える。一般的な遅発性筋肉痛では負荷調整と回復が基本で、異常所見があれば別の損傷を考える。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0102

6-4 スポーツ領域 > スポーツ障害・外傷の一般・予防 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

競技成績低下後に強い不安と不眠を訴えるアスリートへの対応として最も適切なものはどれか。

ア．心理的苦痛を軽視する対応は不適切である。

イ．施術者の職域を超える断定は避け、必要時は専門職と連携する。

ウ．情報共有にはプライバシーへの配慮が必要である。

エ．スポーツ領域でもメンタルケアは重要であり、施術者は傾聴と適切な連携を行う。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「「気合が足りない」と断定して相談を打ち切る。」を検討するための内容であり、今回の正答「訴えを傾聴し、症状の程度を確認し、必要に応じて医師や心理職など専門家につなぐ。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「施術だけで精神疾患を必ず治せると説明する。」を検討するための内容であり、今回の正答「訴えを傾聴し、症状の程度を確認し、必要に応じて医師や心理職など専門家につなぐ。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「本人の同意なく相談内容をチーム全員へ無制限に共有する。」を検討するための内容であり、今回の正答「訴えを傾聴し、症状の程度を確認し、必要に応じて医師や心理職など専門家につなぐ。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「訴えを傾聴し、症状の程度を確認し、必要に応じて医師や心理職など専門家につなぐ。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「訴えを傾聴し、症状の程度を確認し、必要に応じて医師や心理職など専門家につなぐ。」が正答である。判断根拠は、スポーツ領域でもメンタルケアは重要であり、施術者は傾聴と適切な連携を行う。スポーツ領域でもメンタルケアは重要であり、施術者は傾聴と適切な連携を行う。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0103

6-4 スポーツ領域 > スポーツ障害・外傷の一般・予防 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】スポーツ障害に対するあん摩マッサージ指圧治療の関わり方として適切なのはどれか。
ア．スポーツ領域でも施術は診断・救急処置・リハビリテーション等と適切に連携して行う。
イ．骨折などは医療評価が必要である。
ウ．病態把握には競技特性と受傷機転が重要である。
エ．安全な復帰判断と再発予防が重要である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「症状・病態・競技負荷を評価し、適応範囲でコンディショニングや回復支援を行い、必要時は医療職と連携する。」が正答となる根拠を直接示している。
イ：誤り。この説明は「骨折が疑われても施術のみで競技復帰を決める。」を検討するための内容であり、今回の正答「症状・病態・競技負荷を評価し、適応範囲でコンディショニングや回復支援を行い、必要時は医療職と連携する。」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「競技特性や受傷機転を確認せず施術法を固定する。」を検討するための内容であり、今回の正答「症状・病態・競技負荷を評価し、適応範囲でコンディショニングや回復支援を行い、必要時は医療職と連携する。」を支持する中心的根拠ではない。
エ：誤り。この説明は「痛みを隠して競技継続できることを最優先にする。」を検討するための内容であり、今回の正答「症状・病態・競技負荷を評価し、適応範囲でコンディショニングや回復支援を行い、必要時は医療職と連携する。」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「症状・病態・競技負荷を評価し、適応範囲でコンディショニングや回復支援を行い、必要時は医療職と連携する。」が正答である。判断根拠は、スポーツ領域でも施術は診断・救急処置・リハビリテーション等と適切に連携して行う。スポーツ領域でも施術は診断・救急処置・リハビリテーション等と適切に連携して行う。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0104

6-4 スポーツ領域 > スポーツ障害・外傷の一般・予防 | 難易度：応用

「スポーツ活動中の熱中症予防の基本を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。
高温多湿の環境で練習中の選手が頭痛、吐き気、強い倦怠感を訴えた。最も適切なものはどれか。
ア．体温上昇を助長する危険な対応である。
イ．熱中症が疑われる場合は運動継続より全身状態の評価と冷却・補水、必要時の救急対応を優先する。
ウ．全身症状があるため熱中症を含む評価が必要である。
エ．意識障害は重症サインで救急対応が必要である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「発汗を促すため厚着させて運動を続ける。」を検討するための内容であり、今回の正答「運動を中止し、涼しい場所へ移動して冷却・水分塩分補給を検討し、重症所見があれば救急要請する。」を支持する中心的根拠ではない。
イ：正しい。この説明は「運動を中止し、涼しい場所へ移動して冷却・水分塩分補給を検討し、重症所見があれば救急要請する。」が正答となる根拠を直接示している。
ウ：誤り。この説明は「筋疲労と決めつけて強いマッサージだけを行う。」を検討するための内容であり、今回の正答「運動を中止し、涼しい場所へ移動して冷却・水分塩分補給を検討し、重症所見があれば救急要請する。」を支持する中心的根拠ではない。
エ：誤り。この説明は「意識が悪くても本人が希望すれば競技を続ける。」を検討するための内容であり、今回の正答「運動を中止し、涼しい場所へ移動して冷却・水分塩分補給を検討し、重症所見があれば救急要請する。」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「運動を中止し、涼しい場所へ移動して冷却・水分塩分補給を検討し、重症所見があれば救急要請する。」が正答である。判断根拠は、熱中症が疑われる場合は運動継続より全身状態の評価と冷却・補水、必要時の救急対応を優先する。熱中症が疑われる場合は運動継続より全身状態の評価と冷却・補水、必要時の救急対応を優先する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0105

6-4 スポーツ領域 > 代表的スポーツ障害 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
投球を繰り返す野球選手が、投球時に肩の痛みとパフォーマンス低下を訴えている。このような「野球肩」の捉え方として正しいのはどれか。
ア．足底筋膜炎の説明である。
イ．オスグッド病の説明である。
ウ．野球肩は投球の反復負荷による肩障害の総称で、病態を鑑別して対応する必要がある。
エ．テニス肘の説明である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「足底腱膜の障害だけを指す。」を検討するための内容であり、今回の正答「投球動作の反復により肩周囲組織へ負担が蓄積し、投球時痛や機能低下を生じる総称である。」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「成長期の脛骨粗面痛だけを指す。」を検討するための内容であり、今回の正答「投球動作の反復により肩周囲組織へ負担が蓄積し、投球時痛や機能低下を生じる総称である。」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：正しい。この説明は「投球動作の反復により肩周囲組織へ負担が蓄積し、投球時痛や機能低下を生じる総称である。」が正答となる根拠を直接示している。
エ：誤り。この説明は「肘外側の伸筋腱付着部痛だけを指す。」を検討するための内容であり、今回の正答「投球動作の反復により肩周囲組織へ負担が蓄積し、投球時痛や機能低下を生じる総称である。」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「投球動作の反復により肩周囲組織へ負担が蓄積し、投球時痛や機能低下を生じる総称である。」が正答である。判断根拠は、野球肩は投球の反復負荷による肩障害の総称で、病態を鑑別して対応する必要がある。野球肩は投球の反復負荷による肩障害の総称で、病態を鑑別して対応する必要がある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0106

6-4 スポーツ領域 > 代表的スポーツ障害 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】成長期の野球選手が投球時の肘内側痛を繰り返している。最も適切な対応はどれか。
ア．疼痛下の負荷増加は障害を悪化させる。
イ．骨端部・靱帯・軟骨などの障害もあり得る。
ウ．痛みを隠して競技継続させる対応は不適切である。
エ．野球肘では年齢や疼痛部位により病態が異なり、成長期の反復投球痛は医療評価が重要である。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「痛みがあっても投球数を増やせば適応する。」を検討するための内容であり、今回の正答「投球負荷を評価して無理な継続を避け、成長期特有の骨・靱帯障害を考えて必要に応じ整形外科評価につなぐ。」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「肘痛はすべて筋肉痛なので画像評価は不要である。」を検討するための内容であり、今回の正答「投球負荷を評価して無理な継続を避け、成長期特有の骨・靱帯障害を考えて必要に応じ整形外科評価につなぐ。」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「強い叩打法で肘を刺激し競技を続ける。」を検討するための内容であり、今回の正答「投球負荷を評価して無理な継続を避け、成長期特有の骨・靱帯障害を考えて必要に応じ整形外科評価につなぐ。」を支持する中心的根拠ではない。
エ：正しい。この説明は「投球負荷を評価して無理な継続を避け、成長期特有の骨・靱帯障害を考えて必要に応じ整形外科評価につなぐ。」が正答となる根拠を直接示している。
総合解説：元の論点では「投球負荷を評価して無理な継続を避け、成長期特有の骨・靱帯障害を考えて必要に応じ整形外科評価につなぐ。」が正答である。判断根拠は、野球肘では年齢や疼痛部位により病態が異なり、成長期の反復投球痛は医療評価が重要である。野球肘では年齢や疼痛部位により病態が異なり、成長期の反復投球痛は医療評価が重要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0107

6-4 スポーツ領域 > 代表的スポーツ障害 | 難易度：標準

「テニス肘の特徴を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

テニス肘（上腕骨外側上顆炎）で疼痛が誘発されやすいのはどれか。

ア．外側上顆周辺の手関節伸筋群起始部への負荷で痛みが出やすい。

イ．下腿筋群の動作であり肘外側痛とは一致しない。

ウ．テニス肘の主要誘発動作ではない。

エ．肘の腱付着部とは無関係である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「抵抗を加えた手関節伸展や物を握る動作。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「抵抗を加えた足関節底屈だけ。」を検討するための内容であり、今回の正答「抵抗を加えた手関節伸展や物を握る動作。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「深呼吸だけ。」を検討するための内容であり、今回の正答「抵抗を加えた手関節伸展や物を握る動作。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「眼球運動だけ。」を検討するための内容であり、今回の正答「抵抗を加えた手関節伸展や物を握る動作。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「抵抗を加えた手関節伸展や物を握る動作。」が正答である。判断根拠は、外側上顆周辺の手関節伸筋群起始部への負荷で痛みが出やすい。 外側上顆周辺の手関節伸筋群起始部への負荷で痛みが出やすい。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0108

6-4 スポーツ領域 > 代表的スポーツ障害 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

スポーツ後の腰痛で局所筋の圧痛と動作時痛があるが、発熱・排尿障害・進行性筋力低下はない。まず考えやすいのはどれか。

ア．単一所見だけで感染症を確定できない。

イ．筋筋膜性腰痛では筋・筋膜由来の局所痛が中心だが、腰痛では常にレッドフラッグを確認する。

ウ．排尿障害は重大な神経障害を疑う所見である。

エ．進行性神経症状は医療評価を優先する。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「発熱がなくても必ず化膿性脊椎炎と確定する。」を検討するための内容であり、今回の正答「筋筋膜性腰痛など機械的な腰痛を考えつつ、経過で危険徴候が出ないか確認する。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「筋筋膜性腰痛など機械的な腰痛を考えつつ、経過で危険徴候が出ないか確認する。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「排尿障害が出て筋肉痛として施術を継続する。」を検討するための内容であり、今回の正答「筋筋膜性腰痛など機械的な腰痛を考えつつ、経過で危険徴候が出ないか確認する。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「進行性筋力低下はスポーツ腰痛では無視してよい。」を検討するための内容であり、今回の正答「筋筋膜性腰痛など機械的な腰痛を考えつつ、経過で危険徴候が出ないか確認する。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「筋筋膜性腰痛など機械的な腰痛を考えつつ、経過で危険徴候が出ないか確認する。」が正答である。判断根拠は、筋筋膜性腰痛では筋・筋膜由来の局所痛が中心だが、腰痛では常にレッドフラッグを確認する。 筋筋膜性腰痛では筋・筋膜由来の局所痛が中心だが、腰痛では常にレッドフラッグを確認する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0109

6-4 スポーツ領域 > 代表的スポーツ障害 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】ジャンパー膝で主に疼痛がみられる部位はどれか。

- ア．肘の障害を考える部位である。
- イ．アキレス腱障害の部位である。
- ウ．ジャンパー膝は跳躍動作の反復で膝蓋腱に負荷が蓄積する障害である。
- エ．ジャンパー膝とは無関係である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「肘頭周囲だけ。」を検討するための内容であり、今回の正答「膝蓋腱周辺、特に膝蓋骨下極付近。」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「アキレス腱踵骨付着部だけ。」を検討するための内容であり、今回の正答「膝蓋腱周辺、特に膝蓋骨下極付近。」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：正しい。この説明は「膝蓋腱周辺、特に膝蓋骨下極付近。」が正答となる根拠を直接示している。
エ：誤り。この説明は「手掌中央だけ。」を検討するための内容であり、今回の正答「膝蓋腱周辺、特に膝蓋骨下極付近。」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「膝蓋腱周辺、特に膝蓋骨下極付近。」が正答である。判断根拠は、ジャンパー膝は跳躍動作の反復で膝蓋腱に負荷が蓄積する障害である。 ジャンパー膝は跳躍動作の反復で膝蓋腱に負荷が蓄積する障害である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0110

6-4 スポーツ領域 > 代表的スポーツ障害 | 難易度：応用

「オスグッド病の特徴を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。
オスグッド病に典型的なのはどれか。

- ア．手関節の神経障害ではない。
- イ．成長期の膝前面障害である。
- ウ．発症機序と部位が異なる。
- エ．オスグッド病は成長期の脛骨粗面に反復牽引力が加わって生じる骨端症である。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「成人の手関節に限局する神経障害である。」を検討するための内容であり、今回の正答「成長期に脛骨粗面部の疼痛や隆起がみられ、走跳動作で症状が増えやすい。」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「高齢者の肩関節脱臼だけを指す。」を検討するための内容であり、今回の正答「成長期に脛骨粗面部の疼痛や隆起がみられ、走跳動作で症状が増えやすい。」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「急性のアキレス腱断裂と同義である。」を検討するための内容であり、今回の正答「成長期に脛骨粗面部の疼痛や隆起がみられ、走跳動作で症状が増えやすい。」を支持する中心的根拠ではない。
エ：正しい。この説明は「成長期に脛骨粗面部の疼痛や隆起がみられ、走跳動作で症状が増えやすい。」が正答となる根拠を直接示している。
総合解説：元の論点では「成長期に脛骨粗面部の疼痛や隆起がみられ、走跳動作で症状が増えやすい。」が正答である。判断根拠は、オスグッド病は成長期の脛骨粗面に反復牽引力が加わって生じる骨端症である。 オスグッド病は成長期の脛骨粗面に反復牽引力が加わって生じる骨端症である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0111

6-4 スポーツ領域 > 代表的スポーツ障害 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
ランニングで膝外側に痛みが出現し、反復する膝屈伸で増悪する。考えやすいのはどれか。

ア．腸脛靭帯炎はランニングなどの反復で膝外側に疼痛を生じる代表的オーバーユース障害である。
イ．鷲足炎は主に膝内側の疼痛である。
ウ．シンスプリントは下腿内側部の疼痛が中心である。
エ．足底・踵部の疼痛が中心である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「腸脛靭帯炎。」が正答となる根拠を直接示している。
イ：誤り。この説明は「鷲足炎。」を検討するための内容であり、今回の正答「腸脛靭帯炎。」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「シンスプリント。」を検討するための内容であり、今回の正答「腸脛靭帯炎。」を支持する中心的根拠ではない。
エ：誤り。この説明は「足底筋膜炎。」を検討するための内容であり、今回の正答「腸脛靭帯炎。」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「腸脛靭帯炎。」が正答である。判断根拠は、腸脛靭帯炎はランニングなどの反復で膝外側に疼痛を生じる代表的オーバーユース障害である。腸脛靭帯炎はランニングなどの反復で膝外側に疼痛を生じる代表的オーバーユース障害である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0112

6-4 スポーツ領域 > 代表的スポーツ障害 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】鷲足炎で疼痛が出やすい部位はどれか。

ア．腸脛靭帯炎で問題となりやすい部位である。
イ．鷲足は縫工筋・薄筋・半腱様筋の腱が脛骨近位内側に付着する部位で、反復負荷で疼痛が生じる。
ウ．テニス肘の部位である。
エ．肩障害の部位である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「膝外側の大腿骨外側上顆部だけ。」を検討するための内容であり、今回の正答「膝関節内側の脛骨近位部。」を支持する中心的根拠ではない。
イ：正しい。この説明は「膝関節内側の脛骨近位部。」が正答となる根拠を直接示している。
ウ：誤り。この説明は「肘外側上顆部だけ。」を検討するための内容であり、今回の正答「膝関節内側の脛骨近位部。」を支持する中心的根拠ではない。
エ：誤り。この説明は「肩峰下だけ。」を検討するための内容であり、今回の正答「膝関節内側の脛骨近位部。」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「膝関節内側の脛骨近位部。」が正答である。判断根拠は、鷲足は縫工筋・薄筋・半腱様筋の腱が脛骨近位内側に付着する部位で、反復負荷で疼痛が生じる。鷲足は縫工筋・薄筋・半腱様筋の腱が脛骨近位内側に付着する部位で、反復負荷で疼痛が生じる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0113

6-4 スポーツ領域 > 代表的スポーツ障害 | 難易度：標準

「シンスプリントの特徴を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なのはどれか。

ランニング量を急に増やした後、脛骨内側縁に沿う広い範囲の運動時痛が出現した。考えやすいのはどれか。

ア．肘外側の障害である。

イ．投球肩障害である。

ウ．シンスプリントは反復負荷で脛骨内側部に疼痛を生じる代表的ランニング障害である。

エ．正中神経の絞扼障害である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「テニス肘。」を検討するための内容であり、今回の正答「シンスプリント（内側脛骨ストレス症候群）。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「野球肩。」を検討するための内容であり、今回の正答「シンスプリント（内側脛骨ストレス症候群）。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「シンスプリント（内側脛骨ストレス症候群）。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「手根管症候群。」を検討するための内容であり、今回の正答「シンスプリント（内側脛骨ストレス症候群）。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「シンスプリント（内側脛骨ストレス症候群）。」が正答である。判断根拠は、シンスプリントは反復負荷で脛骨内側部に疼痛を生じる代表的ランニング障害である。シンスプリントは反復負荷で脛骨内側部に疼痛を生じる代表的ランニング障害である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0114

6-4 スポーツ領域 > 代表的スポーツ障害 | 難易度：応用

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

下腿を強打した後、痛みが急速に増悪し、筋区画が緊満してしびれも出現した。最も適切なのはどれか。

ア．圧上昇が疑われる部位への強い刺激は不適切である。

イ．治療遅延で組織障害が進む危険がある。

ウ．緊急医療評価が必要で、自己判断の温熱を優先しない。

エ．急性コンパートメント症候群は組織虚血を来し得る緊急病態であり、強い疼痛・緊満・神経症状は警告所見である。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「筋肉痛とみなし強揉捏を行う。」を検討するための内容であり、今回の正答「急性コンパートメント症候群を疑い、施術を行わず緊急の医療評価を優先する。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「翌日まで通常練習を続けて経過を見る。」を検討するための内容であり、今回の正答「急性コンパートメント症候群を疑い、施術を行わず緊急の医療評価を優先する。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「温熱でさらに血流を増やせば必ず改善する。」を検討するための内容であり、今回の正答「急性コンパートメント症候群を疑い、施術を行わず緊急の医療評価を優先する。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「急性コンパートメント症候群を疑い、施術を行わず緊急の医療評価を優先する。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「急性コンパートメント症候群を疑い、施術を行わず緊急の医療評価を優先する。」が正答である。判断根拠は、急性コンパートメント症候群は組織虚血を来し得る緊急病態であり、強い疼痛・緊満・神経症状は警告所見である。急性コンパートメント症候群は組織虚血を来し得る緊急病態であり、強い疼痛・緊満・神経症状は警告所見である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0115

6-4 スポーツ領域 > 代表的スポーツ障害 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】アキレス腱炎でみられやすいのはどれか。

ア．アキレス腱炎・腱障害は反復負荷で腱周囲に疼痛を生じるオーバーユース障害である。

イ．アキレス腱は下腿後面から踵骨に付着する。

ウ．三叉神経痛の特徴である。

エ．呼吸器症状でありアキレス腱障害とは異なる。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「走行や跳躍でアキレス腱周囲の疼痛が増悪する。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「手指のしびれだけが出る。」を検討するための内容であり、今回の正答「走行や跳躍でアキレス腱周囲の疼痛が増悪する。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「顔面の電撃痛だけが出る。」を検討するための内容であり、今回の正答「走行や跳躍でアキレス腱周囲の疼痛が増悪する。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「咳嗽だけが主症状になる。」を検討するための内容であり、今回の正答「走行や跳躍でアキレス腱周囲の疼痛が増悪する。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「走行や跳躍でアキレス腱周囲の疼痛が増悪する。」が正答である。判断根拠は、アキレス腱炎・腱障害は反復負荷で腱周囲に疼痛を生じるオーバーユース障害である。アキレス腱炎・腱障害は反復負荷で腱周囲に疼痛を生じるオーバーユース障害である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0116

6-4 スポーツ領域 > 代表的スポーツ障害 | 難易度：標準

「足底筋膜炎の特徴を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

足底筋膜炎で典型的な訴えはどれか。

ア．野球肘の症状である。

イ．足底筋膜炎では踵骨内側足底付近の疼痛がみられ、歩き始めに強いことがある。

ウ．腸脛靭帯炎の特徴である。

エ．外側上顆炎の特徴である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「投球時の肘内側痛。」を検討するための内容であり、今回の正答「朝の歩き始めや長時間安静後の初期歩行で踵足底部が痛む。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「朝の歩き始めや長時間安静後の初期歩行で踵足底部が痛む。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「膝外側のランニング痛。」を検討するための内容であり、今回の正答「朝の歩き始めや長時間安静後の初期歩行で踵足底部が痛む。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「前腕伸筋群の起始部痛。」を検討するための内容であり、今回の正答「朝の歩き始めや長時間安静後の初期歩行で踵足底部が痛む。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「朝の歩き始めや長時間安静後の初期歩行で踵足底部が痛む。」が正答である。判断根拠は、足底筋膜炎では踵骨内側足底付近の疼痛がみられ、歩き始めに強いことがある。足底筋膜炎では踵骨内側足底付近の疼痛がみられ、歩き始めに強いことがある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0117

6-4 スポーツ領域 > スポーツ外傷・女性アスリート | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
転倒後に関節の明らかな変形と強い痛みがあり、骨折または脱臼が疑われる。最も適切なものはどれか。

- ア．医療的整復が必要な可能性があり、無理な操作は神経・血管損傷を悪化させ得る。
- イ．強刺激は損傷悪化の危険がある。
- ウ．骨折・脱臼が疑われる場合、施術者が無理に整復せず医療評価を優先する。
- エ．重度外傷が疑われる状況では競技中止と評価が必要である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「変形をその場で力任せに戻す。」を検討するための内容であり、今回の正答「無理に整復や揉捏をせず、患部を保護して医療機関での評価につなぐ。」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「疼痛部を強く叩いて感覚を確認する。」を検討するための内容であり、今回の正答「無理に整復や揉捏をせず、患部を保護して医療機関での評価につなぐ。」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：正しい。この説明は「無理に整復や揉捏をせず、患部を保護して医療機関での評価につなぐ。」が正答となる根拠を直接示している。
エ：誤り。この説明は「競技続行できるか全力動作で試す。」を検討するための内容であり、今回の正答「無理に整復や揉捏をせず、患部を保護して医療機関での評価につなぐ。」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「無理に整復や揉捏をせず、患部を保護して医療機関での評価につなぐ。」が正答である。判断根拠は、骨折・脱臼が疑われる場合、施術者が無理に整復せず医療評価を優先する。骨折・脱臼が疑われる場合、施術者が無理に整復せず医療評価を優先する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0118

6-4 スポーツ領域 > スポーツ外傷・女性アスリート | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】競技中に相手選手と衝突し、大腿部に局所の痛み・腫れ・皮下出血が出現した。打撲の病態として正しいのはどれか。

- ア．それは脱臼である。
- イ．打撲は腱断裂に限定されない。
- ウ．打撲は通常一回の直接外力による外傷である。
- エ．打撲は直接外力による軟部組織損傷で、受傷直後は重症度を確認し適切な応急対応を行う。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「関節面が完全に外れることだけを指す。」を検討するための内容であり、今回の正答「鈍的外力により軟部組織が損傷し、疼痛・腫脹・皮下出血などを生じることがある。」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「腱が完全断裂することだけを指す。」を検討するための内容であり、今回の正答「鈍的外力により軟部組織が損傷し、疼痛・腫脹・皮下出血などを生じることがある。」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「慢性的な反復負荷だけで生じる。」を検討するための内容であり、今回の正答「鈍的外力により軟部組織が損傷し、疼痛・腫脹・皮下出血などを生じることがある。」を支持する中心的根拠ではない。
エ：正しい。この説明は「鈍的外力により軟部組織が損傷し、疼痛・腫脹・皮下出血などを生じることがある。」が正答となる根拠を直接示している。
総合解説：元の論点では「鈍的外力により軟部組織が損傷し、疼痛・腫脹・皮下出血などを生じることがある。」が正答である。判断根拠は、打撲は直接外力による軟部組織損傷で、受傷直後は重症度を確認し適切な応急対応を行う。打撲は直接外力による軟部組織損傷で、受傷直後は重症度を確認し適切な応急対応を行う。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0119

6-4 スポーツ領域 > スポーツ外傷・女性アスリート | 難易度：標準

「捻挫の定義を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なのはどれか。

足関節を強く内返しして受傷し、外果周囲に腫脹と圧痛が出た。一般に「捻挫」と呼ばれる損傷の説明として正しいのはどれか。

ア．捻挫は関節周囲軟部組織の損傷で、疼痛・腫脹・不安定性などを生じることがある。

イ．骨折の定義である。

ウ．肉ばなれなど筋損傷の説明である。

エ．擦過傷の説明である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「関節に生理的範囲を超える外力が加わり、靱帯や関節包などが損傷した状態。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「骨が必ず完全に折れた状態。」を検討するための内容であり、今回の正答「関節に生理的範囲を超える外力が加わり、靱帯や関節包などが損傷した状態。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「筋腱移行部だけが損傷した状態。」を検討するための内容であり、今回の正答「関節に生理的範囲を超える外力が加わり、靱帯や関節包などが損傷した状態。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「皮膚表面だけが擦過した状態。」を検討するための内容であり、今回の正答「関節に生理的範囲を超える外力が加わり、靱帯や関節包などが損傷した状態。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「関節に生理的範囲を超える外力が加わり、靱帯や関節包などが損傷した状態。」が正答である。判断根拠は、捻挫は関節周囲軟部組織の損傷で、疼痛・腫脹・不安定性などを生じることがある。捻挫は関節周囲軟部組織の損傷で、疼痛・腫脹・不安定性などを生じることがある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0120

6-4 スポーツ領域 > スポーツ外傷・女性アスリート | 難易度：応用

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
短距離走中に大腿後面へ突然「プチッ」とした痛みを感じ、走行困難となった。考えやすいのはどれか。

ア．通常は反復負荷による踵足底痛で、突然の大腿後面痛ではない。

イ．肉ばなれは急な伸張・収縮により筋線維や筋腱移行部が損傷し、突然の局所痛を生じる。

ウ．肘外側の腱付着部障害である。

エ．投球肩障害である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「足底筋膜炎。」を検討するための内容であり、今回の正答「ハムストリングスの肉ばなれ。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「ハムストリングスの肉ばなれ。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「テニス肘。」を検討するための内容であり、今回の正答「ハムストリングスの肉ばなれ。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「野球肩。」を検討するための内容であり、今回の正答「ハムストリングスの肉ばなれ。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「ハムストリングスの肉ばなれ。」が正答である。判断根拠は、肉ばなれは急な伸張・収縮により筋線維や筋腱移行部が損傷し、突然の局所痛を生じる。肉ばなれは急な伸張・収縮により筋線維や筋腱移行部が損傷し、突然の局所痛を生じる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0121

6-4 スポーツ領域 > スポーツ外傷・女性アスリート | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】膝を捻った後から関節裂隙部痛があり、引っかかり感やロッキングを訴える。考えやすいのはどれか。

ア．下腿内側のオーバーユース障害である。

イ．踵足底部の障害である。

ウ．半月板損傷では捻転外傷後の関節裂隙痛、クリック、ロッキングなどがみられることがある。

エ．肘外側の障害である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「シンスプリント。」を検討するための内容であり、今回の正答「膝半月板損傷。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「足底筋膜炎。」を検討するための内容であり、今回の正答「膝半月板損傷。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「膝半月板損傷。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「外側上顆炎。」を検討するための内容であり、今回の正答「膝半月板損傷。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「膝半月板損傷。」が正答である。判断根拠は、半月板損傷では捻転外傷後の関節裂隙痛、クリック、ロッキングなどがみられることがある。半月板損傷では捻転外傷後の関節裂隙痛、クリック、ロッキングなどがみられることがある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0122

6-4 スポーツ領域 > スポーツ外傷・女性アスリート | 難易度：基礎

「前十字靱帯損傷の典型的受傷機転を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

方向転換時に膝が崩れ、「ポップ音」を感じた後に急速な腫脹と不安定感が出現した。疑うべき損傷はどれか。

ア．足底の慢性障害である。

イ．肘のオーバーユース障害である。

ウ．膝の外傷所見を説明しない。

エ．ACL損傷は非接触の方向転換・着地などでも生じ、ポップ音、早期腫脹、不安定感が特徴となる。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「足底筋膜炎。」を検討するための内容であり、今回の正答「前十字靱帯損傷。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「上腕骨外側上顆炎。」を検討するための内容であり、今回の正答「前十字靱帯損傷。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「頸部捻挫。」を検討するための内容であり、今回の正答「前十字靱帯損傷。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「前十字靱帯損傷。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「前十字靱帯損傷。」が正答である。判断根拠は、ACL損傷は非接触の方向転換・着地などでも生じ、ポップ音、早期腫脹、不安定感が特徴となる。ACL損傷は非接触の方向転換・着地などでも生じ、ポップ音、早期腫脹、不安定感が特徴となる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0123

6-4 スポーツ領域 > スポーツ外傷・女性アスリート | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
ダッシュ開始時に「後ろから蹴られた感じ」がして、足関節底屈が弱くなった。疑うべきはどれか。
ア．アキレス腱断裂では突然の後方痛や蹴られた感覚、底屈機能低下などがみられる。
イ．膝内側のオーバーユース障害である。
ウ．投球肘障害である。
エ．頭痛であり下腿外傷ではない。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「アキレス腱断裂。」が正答となる根拠を直接示している。
イ：誤り。この説明は「驚足炎。」を検討するための内容であり、今回の正答「アキレス腱断裂。」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「野球肘。」を検討するための内容であり、今回の正答「アキレス腱断裂。」を支持する中心的根拠ではない。
エ：誤り。この説明は「緊張型頭痛。」を検討するための内容であり、今回の正答「アキレス腱断裂。」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「アキレス腱断裂。」が正答である。判断根拠は、アキレス腱断裂では突然の後方痛や蹴られた感覚、底屈機能低下などがみられる。アキレス腱断裂では突然の後方痛や蹴られた感覚、底屈機能低下などがみられる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0124

6-4 スポーツ領域 > スポーツ外傷・女性アスリート | 難易度：応用

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】女性アスリートの三主徴として正しい組合せはどれか。
ア．生活習慣病の代表例であり女性アスリートの三主徴ではない。
イ．女性アスリートではエネルギー不足、無月経などの月経異常、骨粗鬆症・骨量低下が相互に関連する。
ウ．呼吸器症候の組合せである。
エ．スポーツ障害として起こり得るが三主徴の定義ではない。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「高血圧、糖尿病、脂質異常症。」を検討するための内容であり、今回の正答「利用可能エネルギー不足、月経機能異常、骨量低下。」を支持する中心的根拠ではない。
イ：正しい。この説明は「利用可能エネルギー不足、月経機能異常、骨量低下。」が正答となる根拠を直接示している。
ウ：誤り。この説明は「咳嗽、発熱、喀血。」を検討するための内容であり、今回の正答「利用可能エネルギー不足、月経機能異常、骨量低下。」を支持する中心的根拠ではない。
エ：誤り。この説明は「肩痛、肘痛、手関節痛。」を検討するための内容であり、今回の正答「利用可能エネルギー不足、月経機能異常、骨量低下。」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「利用可能エネルギー不足、月経機能異常、骨量低下。」が正答である。判断根拠は、女性アスリートではエネルギー不足、無月経などの月経異常、骨粗鬆症・骨量低下が相互に関連する。女性アスリートではエネルギー不足、無月経などの月経異常、骨粗鬆症・骨量低下が相互に関連する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0125

6-5 社会・健康・EBM > 母子・学校・産業保健での役割 | 難易度：基礎

「妊娠期の安全な適否判断を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

妊娠中の利用者が施術前に「性器出血と強い下腹部痛がある」と訴えた。最も適切なものはどれか。

ア．危険徴候を除外せず腹部へ強刺激を行うのは不適切である。

イ．産科的問題が疑われるため受診判断が優先される。

ウ．妊娠中の出血や強い腹痛は産科的評価を要する可能性があり、施術より医療評価を優先する。

エ．本人の意思と理解を尊重した説明が必要である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「妊娠に伴う正常変化と決めつけて腹部を強く揉む。」を検討するための内容であり、今回の正答「通常施術を見合わせ、産科医療機関へ速やかに相談・受診するよう勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「症状が消えるまで施術室で運動させる。」を検討するための内容であり、今回の正答「通常施術を見合わせ、産科医療機関へ速やかに相談・受診するよう勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「通常施術を見合わせ、産科医療機関へ速やかに相談・受診するよう勧める。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「家族にだけ説明し本人には伝えない。」を検討するための内容であり、今回の正答「通常施術を見合わせ、産科医療機関へ速やかに相談・受診するよう勧める。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「通常施術を見合わせ、産科医療機関へ速やかに相談・受診するよう勧める。」が正答である。判断根拠は、妊娠中の出血や強い腹痛は産科的評価を要する可能性があり、施術より医療評価を優先する。妊娠中の出血や強い腹痛は産科的評価を要する可能性があり、施術より医療評価を優先する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0126

6-5 社会・健康・EBM > 母子・学校・産業保健での役割 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

乳児の抱っこや授乳で頸肩部痛を訴える養育者への支援として適切なものはどれか。

ア．現実的でなく、本人・家族の状況に応じた支援が必要である。

イ．育児動作は運動器負荷に関係し得る。

ウ．プライバシーと本人の意思に配慮する。

エ．育児期は反復姿勢や睡眠不足など複数要因があり、施術と生活上の工夫を組み合わせる。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「育児をすべて中止するよう一律に指示する。」を検討するための内容であり、今回の正答「症状を評価した上で、施術に加えて抱き方・授乳姿勢や休息など実行可能な工夫を提案する。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「痛みは育児と無関係なので生活状況を聞かない。」を検討するための内容であり、今回の正答「症状を評価した上で、施術に加えて抱き方・授乳姿勢や休息など実行可能な工夫を提案する。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「本人の希望に関係なく家族へ症状を詳しく伝える。」を検討するための内容であり、今回の正答「症状を評価した上で、施術に加えて抱き方・授乳姿勢や休息など実行可能な工夫を提案する。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「症状を評価した上で、施術に加えて抱き方・授乳姿勢や休息など実行可能な工夫を提案する。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「症状を評価した上で、施術に加えて抱き方・授乳姿勢や休息など実行可能な工夫を提案する。」が正答である。判断根拠は、育児期は反復姿勢や睡眠不足など複数要因があり、施術と生活上の工夫を組み合わせる。育児期は反復姿勢や睡眠不足など複数要因があり、施術と生活上の工夫を組み合わせる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0127

6-5 社会・健康・EBM > 母子・学校・産業保健での役割 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】小児喘息の既往がある児童が、施術中に会話が難しいほどの呼吸困難と喘鳴を呈した。最優先するのはどれか。

- ア．強い呼吸困難は緊急性があり、あん摩マッサージ指圧治療だけで対応すべき状況ではない。
- イ．呼吸困難時の強い圧迫は不適切である。
- ウ．急変の可能性があり観察と適切な医療対応が必要である。
- エ．呼吸困難時の運動継続は危険である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「施術を中止し、保護者と連携して救急対応・医療受診を優先する。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「胸部を強く圧迫して呼吸を整える。」を検討するための内容であり、今回の正答「施術を中止し、保護者と連携して救急対応・医療受診を優先する。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「症状が治まるまで一人で待たせる。」を検討するための内容であり、今回の正答「施術を中止し、保護者と連携して救急対応・医療受診を優先する。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「本人が希望すれば運動を続けさせる。」を検討するための内容であり、今回の正答「施術を中止し、保護者と連携して救急対応・医療受診を優先する。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「施術を中止し、保護者と連携して救急対応・医療受診を優先する。」が正答である。判断根拠は、強い呼吸困難は緊急性があり、あん摩マッサージ指圧治療だけで対応すべき状況ではない。強い呼吸困難は緊急性があり、あん摩マッサージ指圧治療だけで対応すべき状況ではない。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0128

6-5 社会・健康・EBM > 母子・学校・産業保健での役割 | 難易度：基礎

「学校保健でのプライバシー配慮を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

学校で児童生徒の健康相談に関わる際の対応として適切なものはどれか。

- ア．不必要な情報共有はプライバシー侵害となる。
- イ．学校保健では健康課題への対応と同時に、児童生徒のプライバシー・心情への配慮が重要である。
- ウ．必要に応じて学校医など適切な専門職と連携する。
- エ．健康問題は学校生活に影響し得るため適切な評価が必要である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「相談内容を本人の前でクラス全員に共有する。」を検討するための内容であり、今回の正答「本人のプライバシーや心情に配慮し、必要な範囲で学校医・養護教諭等と連携する。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「本人のプライバシーや心情に配慮し、必要な範囲で学校医・養護教諭等と連携する。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「施術者だけで疾病診断と学校活動制限を確定する。」を検討するための内容であり、今回の正答「本人のプライバシーや心情に配慮し、必要な範囲で学校医・養護教諭等と連携する。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「健康上の訴えは学業と無関係として記録しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「本人のプライバシーや心情に配慮し、必要な範囲で学校医・養護教諭等と連携する。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「本人のプライバシーや心情に配慮し、必要な範囲で学校医・養護教諭等と連携する。」が正答である。判断根拠は、学校保健では健康課題への対応と同時に、児童生徒のプライバシー・心情への配慮が重要である。学校保健では健康課題への対応と同時に、児童生徒のプライバシー・心情への配慮が重要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0129

6-5 社会・健康・EBM > 母子・学校・産業保健での役割 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
成長期の生徒が部活動で週7日練習し、膝痛が徐々に増えている。学校保健の観点から適切なのはどれか。
ア．疼痛は障害のサインになり得る。
イ．症状を隠して競技継続させることは安全管理に反する。
ウ．成長期はオーバーユース障害に注意し、負荷管理と早期相談が重要である。
エ．学校健康診断でも四肢の状態など運動器評価が扱われる。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「成長期は回復が早いので痛みを無視して練習量を増やす。」を検討するための内容であり、今回の正答「練習量・成長期の特徴・疼痛を評価し、休養や負荷調整、必要時の医療評価につなげる。」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「疼痛があっても大会まで施術で隠せばよい。」を検討するための内容であり、今回の正答「練習量・成長期の特徴・疼痛を評価し、休養や負荷調整、必要時の医療評価につなげる。」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：正しい。この説明は「練習量・成長期の特徴・疼痛を評価し、休養や負荷調整、必要時の医療評価につなげる。」が正答となる根拠を直接示している。
エ：誤り。この説明は「学校保健では運動器の健康課題を扱わない。」を検討するための内容であり、今回の正答「練習量・成長期の特徴・疼痛を評価し、休養や負荷調整、必要時の医療評価につなげる。」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「練習量・成長期の特徴・疼痛を評価し、休養や負荷調整、必要時の医療評価につなげる。」が正答である。判断根拠は、成長期はオーバーユース障害に注意し、負荷管理と早期相談が重要である。成長期はオーバーユース障害に注意し、負荷管理と早期相談が重要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0130

6-5 社会・健康・EBM > 母子・学校・産業保健での役割 | 難易度：応用

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】事業所内で働くあん摩マッサージ指圧師の役割として最も適切なものはどれか。
ア．医療判断を独断で行うのは職域を逸脱する。
イ．職業起因性症状では作業要因の把握が重要である。
ウ．必要に応じて産業医・精神保健専門職へ連携する。
エ．産業保健では職業起因性症状やメンタルヘルスを含め、多職種連携の中で安全に役割を果たす。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「健康診断結果だけで疾病の治療方針を独断で変更する。」を検討するための内容であり、今回の正答「労働者の症状や作業背景を把握し、適応範囲で施術・セルフケア支援を行い、必要時に産業医等へ連携する。」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「作業環境や勤務状況は症状と無関係なので確認しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「労働者の症状や作業背景を把握し、適応範囲で施術・セルフケア支援を行い、必要時に産業医等へ連携する。」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「全ての精神症状を施術だけで治療する。」を検討するための内容であり、今回の正答「労働者の症状や作業背景を把握し、適応範囲で施術・セルフケア支援を行い、必要時に産業医等へ連携する。」を支持する中心的根拠ではない。
エ：正しい。この説明は「労働者の症状や作業背景を把握し、適応範囲で施術・セルフケア支援を行い、必要時に産業医等へ連携する。」が正答となる根拠を直接示している。
総合解説：元の論点では「労働者の症状や作業背景を把握し、適応範囲で施術・セルフケア支援を行い、必要時に産業医等へ連携する。」が正答である。判断根拠は、産業保健では職業起因性症状やメンタルヘルスを含め、多職種連携の中で安全に役割を果たす。産業保健では職業起因性症状やメンタルヘルスを含め、多職種連携の中で安全に役割を果たす。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0131

6-5 社会・健康・EBM > 母子・学校・産業保健での役割 | 難易度：標準

「職場のメンタルヘルスへの適切な関わりを理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

労働者が「眠れず、仕事に集中できず、消えてしまいたいと考える」と話した。最も適切なものはどれか。

ア．自殺念慮を含む強い精神症状は専門的評価が必要で、産業保健の連携を優先する。

イ．精神的危機のサインを軽視してはならない。

ウ．安全確認と適切な支援への接続が必要である。

エ．心理危機では施術より安全確保と専門支援が優先される。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「安全を確認し、施術だけで完結させず、産業医や医療機関など専門的支援へ速やかにつなぐ。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「単なる肩こりと判断して相談内容を無視する。」を検討するための内容であり、今回の正答「安全を確認し、施術だけで完結させず、産業医や医療機関など専門的支援へ速やかにつなぐ。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「「考えすぎ」とだけ伝えて帰宅させる。」を検討するための内容であり、今回の正答「安全を確認し、施術だけで完結させず、産業医や医療機関など専門的支援へ速やかにつなぐ。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「本人の状態を確認せずマッサージを長時間行う。」を検討するための内容であり、今回の正答「安全を確認し、施術だけで完結させず、産業医や医療機関など専門的支援へ速やかにつなぐ。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「安全を確認し、施術だけで完結させず、産業医や医療機関など専門的支援へ速やかにつなぐ。」が正答である。判断根拠は、自殺念慮を含む強い精神症状は専門的評価が必要で、産業保健の連携を優先する。自殺念慮を含む強い精神症状は専門的評価が必要で、産業保健の連携を優先する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0132

6-5 社会・健康・EBM > 母子・学校・産業保健での役割 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
プレゼンティーイズムの説明として正しいのはどれか。

ア．これはアブセンティーイズムに相当する。

イ．プレゼンティーイズムは出勤中の健康問題によるパフォーマンス低下を指す。

ウ．勤務時間の長短そのものの定義ではない。

エ．健康問題による生産性低下の概念である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「病気などで仕事を休んでいる状態だけを指す。」を検討するための内容であり、今回の正答「出勤しているものの、心身の不調などにより仕事の生産性が低下している状態。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「出勤しているものの、心身の不調などにより仕事の生産性が低下している状態。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「残業時間が0時間である状態を指す。」を検討するための内容であり、今回の正答「出勤しているものの、心身の不調などにより仕事の生産性が低下している状態。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「職場に健康問題が一切ない状態を指す。」を検討するための内容であり、今回の正答「出勤しているものの、心身の不調などにより仕事の生産性が低下している状態。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「出勤しているものの、心身の不調などにより仕事の生産性が低下している状態。」が正答である。判断根拠は、プレゼンティーイズムは出勤中の健康問題によるパフォーマンス低下を指す。プレゼンティーイズムは出勤中の健康問題によるパフォーマンス低下を指す。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0133

6-5 社会・健康・EBM > 母子・学校・産業保健での役割 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】長時間のVDT作業で頸肩部痛を訴える労働者への予防支援として適切なのはどれか。

ア．原因要因が継続すれば症状が再発・悪化することがある。

イ．身体寸法や業務内容に応じた調整が必要である。

ウ．職業起因性症状の予防には個人への施術だけでなく、作業管理・環境・休息などへの視点が必要である。

エ．長時間同一姿勢は症状の一因になり得る。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「施術を受ければ作業環境は一切変更しなくてよい。」を検討するための内容であり、今回の正答「作業姿勢や休憩、机・画面配置、身体活動などを確認し、改善可能な要因を本人・職場と検討する。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「頸肩部痛があれば全員同じ高さの机に変更する。」を検討するための内容であり、今回の正答「作業姿勢や休憩、机・画面配置、身体活動などを確認し、改善可能な要因を本人・職場と検討する。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「作業姿勢や休憩、机・画面配置、身体活動などを確認し、改善可能な要因を本人・職場と検討する。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「勤務中は一度も姿勢を変えないよう指導する。」を検討するための内容であり、今回の正答「作業姿勢や休憩、机・画面配置、身体活動などを確認し、改善可能な要因を本人・職場と検討する。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「作業姿勢や休憩、机・画面配置、身体活動などを確認し、改善可能な要因を本人・職場と検討する。」が正答である。判断根拠は、職業起因性症状の予防には個人への施術だけでなく、作業管理・環境・休息などへの視点が必要である。職業起因性症状の予防には個人への施術だけでなく、作業管理・環境・休息などへの視点が必要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0134

6-5 社会・健康・EBM > 高齢者・緩和ケア・災害での役割 | 難易度：応用

「フレイルの概念を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

自立していた高齢者が最近、疲れやすさ・活動量低下・体重減少を示し、要介護には至っていない。この状態をフレイルとして捉える説明で正しいのはどれか。

ア．フレイルは要介護に至る前段階を含み、可逆性が重視される。

イ．身体だけでなく心理・社会的側面も含む概念である。

ウ．主に高齢者の脆弱性を扱う概念である。

エ．フレイルは加齢に伴う予備能力低下により脆弱性が増した状態で、適切な介入で改善し得る面がある。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「要介護状態と完全に同義で、改善する余地はない。」を検討するための内容であり、今回の正答「健康な状態と要介護状態の中間に位置し、身体・心理・社会面を含む脆弱性が高まった状態。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「骨折だけを指す診断名である。」を検討するための内容であり、今回の正答「健康な状態と要介護状態の中間に位置し、身体・心理・社会面を含む脆弱性が高まった状態。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「若年者の急性外傷だけを指す。」を検討するための内容であり、今回の正答「健康な状態と要介護状態の中間に位置し、身体・心理・社会面を含む脆弱性が高まった状態。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「健康な状態と要介護状態の中間に位置し、身体・心理・社会面を含む脆弱性が高まった状態。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「健康な状態と要介護状態の中間に位置し、身体・心理・社会面を含む脆弱性が高まった状態。」が正答である。判断根拠は、フレイルは加齢に伴う予備能力低下により脆弱性が増した状態で、適切な介入で改善し得る面がある。フレイルは加齢に伴う予備能力低下により脆弱性が増した状態で、適切な介入で改善し得る面がある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0135

6-5 社会・健康・EBM > 高齢者・緩和ケア・災害での役割 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
サルコペニアの中心的な特徴はどれか。

- ア．サルコペニアでは筋量だけでなく筋力や身体機能の低下を評価することが重要である。
- イ．感覚器障害だけを指す概念ではない。
- ウ．高血圧の定義ではない。
- エ．筋量・筋力低下を中心とした概念である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「加齢などに伴う骨格筋量・筋力・身体機能の低下。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「聴力だけが低下する状態。」を検討するための内容であり、今回の正答「加齢などに伴う骨格筋量・筋力・身体機能の低下。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「血圧だけが上昇する状態。」を検討するための内容であり、今回の正答「加齢などに伴う骨格筋量・筋力・身体機能の低下。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「関節脱臼だけを繰り返す状態。」を検討するための内容であり、今回の正答「加齢などに伴う骨格筋量・筋力・身体機能の低下。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「加齢などに伴う骨格筋量・筋力・身体機能の低下。」が正答である。判断根拠は、サルコペニアでは筋量だけでなく筋力や身体機能の低下を評価することが重要である。サルコペニアでは筋量だけでなく筋力や身体機能の低下を評価することが重要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0136

6-5 社会・健康・EBM > 高齢者・緩和ケア・災害での役割 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】ロコモティブシンドロームの説明として適切なものはどれか。

- ア．認知機能だけの概念ではない。
- イ．ロコモティブシンドロームは骨・関節・筋・神経など運動器の障害により立つ・歩くなどの移動機能が低下した状態を指す。
- ウ．運動器の移動機能低下を扱う概念である。
- エ．感覚器単独の概念ではない。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「記憶障害だけを指す。」を検討するための内容であり、今回の正答「運動器の障害によって移動機能が低下した状態。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「運動器の障害によって移動機能が低下した状態。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「呼吸器感染症だけを指す。」を検討するための内容であり、今回の正答「運動器の障害によって移動機能が低下した状態。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「視力低下だけを指す。」を検討するための内容であり、今回の正答「運動器の障害によって移動機能が低下した状態。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「運動器の障害によって移動機能が低下した状態。」が正答である。判断根拠は、ロコモティブシンドロームは骨・関節・筋・神経など運動器の障害により立つ・歩くなどの移動機能が低下した状態を指す。ロコモティブシンドロームは骨・関節・筋・神経など運動器の障害により立つ・歩くなどの移動機能が低下した状態を指す。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0137

6-5 社会・健康・EBM > 高齢者・緩和ケア・災害での役割 | 難易度：標準

「高齢者を包括的に評価する視点を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なのはどれか。

高齢者の施術前評価として最も適切なのはどれか。

ア．高齢者の機能・健康状態には大きな個人差がある。

イ．転倒・薬剤は安全な施術計画に関係する。

ウ．高齢者では複数疾患・服薬・機能低下が重なるため包括的な評価が重要である。

エ．理解可能な範囲で本人への説明・意思尊重が必要である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「年齢だけで全員同じ刺激量を決める。」を検討するための内容であり、今回の正答「痛みだけでなくADL、歩行・転倒歴、認知・心理状態、服薬、栄養や社会状況も必要に応じて確認する。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「疼痛がなければ転倒歴や服薬は確認しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「痛みだけでなくADL、歩行・転倒歴、認知・心理状態、服薬、栄養や社会状況も必要に応じて確認する。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「痛みだけでなくADL、歩行・転倒歴、認知・心理状態、服薬、栄養や社会状況も必要に応じて確認する。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「認知機能低下があれば本人への説明を省略する。」を検討するための内容であり、今回の正答「痛みだけでなくADL、歩行・転倒歴、認知・心理状態、服薬、栄養や社会状況も必要に応じて確認する。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「痛みだけでなくADL、歩行・転倒歴、認知・心理状態、服薬、栄養や社会状況も必要に応じて確認する。」が正答である。判断根拠は、高齢者では複数疾患・服薬・機能低下が重なるため包括的な評価が重要である。高齢者では複数疾患・服薬・機能低下が重なるため包括的な評価が重要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0138

6-5 社会・健康・EBM > 高齢者・緩和ケア・災害での役割 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

転倒を繰り返す高齢者への予防支援として適切なのはどれか。

ア．修正可能な危険因子への介入で転倒リスクを下げられる可能性がある。

イ．過度な安静は廃用を進める可能性がある。

ウ．個々の機能と安全性に応じた負荷設定が必要である。

エ．高齢者の転倒は多因子性であり、運動だけでなく環境や薬剤なども含めた対策が必要である。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「転倒は加齢で必ず起こるため予防できないと説明する。」を検討するための内容であり、今回の正答「筋力・バランス・歩行、住環境、視力、薬剤など複数の転倒要因を評価し、必要な専門職と連携する。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「全員に長期臥床を勧める。」を検討するための内容であり、今回の正答「筋力・バランス・歩行、住環境、視力、薬剤など複数の転倒要因を評価し、必要な専門職と連携する。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「歩行状態を確認せず強い下肢運動を一律に行う。」を検討するための内容であり、今回の正答「筋力・バランス・歩行、住環境、視力、薬剤など複数の転倒要因を評価し、必要な専門職と連携する。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「筋力・バランス・歩行、住環境、視力、薬剤など複数の転倒要因を評価し、必要な専門職と連携する。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「筋力・バランス・歩行、住環境、視力、薬剤など複数の転倒要因を評価し、必要な専門職と連携する。」が正答である。判断根拠は、高齢者の転倒は多因子性であり、運動だけでなく環境や薬剤なども含めた対策が必要である。高齢者の転倒は多因子性であり、運動だけでなく環境や薬剤なども含めた対策が必要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0139

6-5 社会・健康・EBM > 高齢者・緩和ケア・災害での役割 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】皮膚が薄く皮下出血しやすく、骨粗鬆症もある高齢者への施術で適切なのはどれか。

ア．高齢者では皮膚脆弱性、骨粗鬆症、抗凝固薬などを考慮した安全な刺激量設定が必要である。

イ．骨折・皮下出血の危険がある。

ウ．有害反応があれば刺激量を再評価する。

エ．出血傾向など薬剤関連リスクを把握する必要がある。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「皮膚・骨の脆弱性と服薬を確認し、強い圧迫や打撃を避けて刺激量を調整する。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「骨を強く叩いて骨密度を高める。」を検討するための内容であり、今回の正答「皮膚・骨の脆弱性と服薬を確認し、強い圧迫や打撃を避けて刺激量を調整する。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「皮下出血が増えても同じ強度を維持する。」を検討するための内容であり、今回の正答「皮膚・骨の脆弱性と服薬を確認し、強い圧迫や打撃を避けて刺激量を調整する。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「服薬情報は施術安全に関係しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「皮膚・骨の脆弱性と服薬を確認し、強い圧迫や打撃を避けて刺激量を調整する。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「皮膚・骨の脆弱性と服薬を確認し、強い圧迫や打撃を避けて刺激量を調整する。」が正答である。判断根拠は、高齢者では皮膚脆弱性、骨粗鬆症、抗凝固薬などを考慮した安全な刺激量設定が必要である。高齢者では皮膚脆弱性、骨粗鬆症、抗凝固薬などを考慮した安全な刺激量設定が必要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0140

6-5 社会・健康・EBM > 高齢者・緩和ケア・災害での役割 | 難易度：応用

「緩和ケアにおける施術の役割を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

緩和ケアを受ける患者へのあん摩マッサージ指圧の関わりとして最も適切なものはどれか。

ア．緩和ケアは他の治療と並行して行われ、多職種連携が重要である。

イ．緩和ケアでは身体的だけでなく心理社会的・スピリチュアルな苦痛を含む全人的支援が重要で、施術はその一部として位置づける。

ウ．患者の価値観・希望・安全性を尊重する。

エ．緩和ケアは終末期だけでなく診断時から必要に応じて提供される。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「緩和ケアでは原疾患治療や医療チームとの連携は不要である。」を検討するための内容であり、今回の正答「患者の希望と全身状態を確認し、苦痛緩和や安楽・QOL支援を目的に、医療チームと連携して安全に行う。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「患者の希望と全身状態を確認し、苦痛緩和や安楽・QOL支援を目的に、医療チームと連携して安全に行う。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「本人が苦痛を訴えても施術者の予定を優先する。」を検討するための内容であり、今回の正答「患者の希望と全身状態を確認し、苦痛緩和や安楽・QOL支援を目的に、医療チームと連携して安全に行う。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「緩和ケアは死亡直前だけに限られる。」を検討するための内容であり、今回の正答「患者の希望と全身状態を確認し、苦痛緩和や安楽・QOL支援を目的に、医療チームと連携して安全に行う。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「患者の希望と全身状態を確認し、苦痛緩和や安楽・QOL支援を目的に、医療チームと連携して安全に行う。」が正答である。判断根拠は、緩和ケアでは身体的だけでなく心理社会的・スピリチュアルな苦痛を含む全人的支援が重要で、施術はその一部として位置づける。緩和ケアでは身体的だけでなく心理社会的・スピリチュアルな苦痛を含む全人的支援が重要で、施術はその一部として位置づける。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0141

6-5 社会・健康・EBM > 高齢者・緩和ケア・災害での役割 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
DMATについて正しいのはどれか。

- ア．DMATは医師・看護師・業務調整員等で構成される災害医療チームである。
- イ．災害医療支援を目的とする。
- ウ．DMATは災害急性期に機動的な医療支援を行うため訓練されたチームである。
- エ．急性期から活動できる機動性が特徴である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「あん摩マッサージ指圧師だけで構成される民間施術チームである。」を検討するための内容であり、今回の正答「災害発生直後の急性期から活動できるよう専門的研修を受けた災害派遣医療チームである。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「平時の美容施術だけを目的とする。」を検討するための内容であり、今回の正答「災害発生直後の急性期から活動できるよう専門的研修を受けた災害派遣医療チームである。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「災害発生直後の急性期から活動できるよう専門的研修を受けた災害派遣医療チームである。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「災害発生後数年経ってからのみ活動する。」を検討するための内容であり、今回の正答「災害発生直後の急性期から活動できるよう専門的研修を受けた災害派遣医療チームである。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「災害発生直後の急性期から活動できるよう専門的研修を受けた災害派遣医療チームである。」が正答である。判断根拠は、DMATは災害急性期に機動的な医療支援を行うため訓練されたチームである。DMATは災害急性期に機動的な医療支援を行うため訓練されたチームである。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0142

6-5 社会・健康・EBM > 高齢者・緩和ケア・災害での役割 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】避難所であん摩マッサージ指圧師が活動する際、最も適切なものはどれか。

- ア．災害時は緊急度と医療資源配分が優先される。
- イ．感染・緊急性の評価が必要である。
- ウ．災害医療では調整体制に沿った連携が重要である。
- エ．災害現場では指揮命令・連携を守り、限られた資源の中で職域に応じた支援を行う必要がある。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「トリアージを無視して先着順に長時間施術する。」を検討するための内容であり、今回の正答「現地の医療・保健調整体制に従い、重症者の救急対応を妨げず、適応を確認して生活不活発や筋緊張などへの支援を行う。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「発熱・呼吸困難者にも通常通り密接な施術を行う。」を検討するための内容であり、今回の正答「現地の医療・保健調整体制に従い、重症者の救急対応を妨げず、適応を確認して生活不活発や筋緊張などへの支援を行う。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「現地医療班と情報共有せず独自に活動範囲を広げる。」を検討するための内容であり、今回の正答「現地の医療・保健調整体制に従い、重症者の救急対応を妨げず、適応を確認して生活不活発や筋緊張などへの支援を行う。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「現地の医療・保健調整体制に従い、重症者の救急対応を妨げず、適応を確認して生活不活発や筋緊張などへの支援を行う。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「現地の医療・保健調整体制に従い、重症者の救急対応を妨げず、適応を確認して生活不活発や筋緊張などへの支援を行う。」が正答である。判断根拠は、災害現場では指揮命令・連携を守り、限られた資源の中で職域に応じた支援を行う必要がある。災害現場では指揮命令・連携を守り、限られた資源の中で職域に応じた支援を行う必要がある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0143 6-5 社会・健康・EBM > 健康増進・臨床研究・研究倫理 | 難易度：標準

「健康維持・増進の生活指導を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

健康維持・増進を目的とした生活指導として最も適切なものはどれか。

ア．2026年版出題基準では健康維持・増進における生活指導として食事、運動、睡眠、休養、喫煙、飲酒が明示されている。

イ．行動変容は本人の状況と実行可能性を考慮する。

ウ．生活習慣は健康維持・増進の重要な要素である。

エ．個別状況に応じ公的情報や医療専門職への相談を活用する。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「食事・運動・睡眠・休養・喫煙・飲酒などを本人の状況に応じて確認し、実行可能な改善目標と一緒に考える。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「一度に全てを完全変更するよう命令する。」を検討するための内容であり、今回の正答「食事・運動・睡眠・休養・喫煙・飲酒などを本人の状況に応じて確認し、実行可能な改善目標と一緒に考える。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「施術を受ければ生活習慣は健康に影響しないと説明する。」を検討するための内容であり、今回の正答「食事・運動・睡眠・休養・喫煙・飲酒などを本人の状況に応じて確認し、実行可能な改善目標と一緒に考える。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「飲酒・喫煙について医学的根拠なく安全量を断定する。」を検討するための内容であり、今回の正答「食事・運動・睡眠・休養・喫煙・飲酒などを本人の状況に応じて確認し、実行可能な改善目標と一緒に考える。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「食事・運動・睡眠・休養・喫煙・飲酒などを本人の状況に応じて確認し、実行可能な改善目標と一緒に考える。」が正答である。判断根拠は、2026年版出題基準では健康維持・増進における生活指導として食事、運動、睡眠、休養、喫煙、飲酒が明示されている。2026年版出題基準では健康維持・増進における生活指導として食事、運動、睡眠、休養、喫煙、飲酒が明示されている。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0144 6-5 社会・健康・EBM > 健康増進・臨床研究・研究倫理 | 難易度：応用

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
治療効果を検討する研究で、複数の適切なランダム化比較試験を系統的に収集・評価した研究はどれか。

ア．単一または少数症例の記述で、比較試験を系統的に統合する研究ではない。

イ．システマティックレビューは明確な方法で研究を検索・選択・評価し、複数研究の結果を統合して検討する。

ウ．ある時点の曝露・疾病状況などを調べる観察研究である。

エ．系統的な臨床研究デザインではない。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「症例報告。」を検討するための内容であり、今回の正答「システマティックレビュー。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「システマティックレビュー。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「横断研究。」を検討するための内容であり、今回の正答「システマティックレビュー。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「専門家1名の経験談。」を検討するための内容であり、今回の正答「システマティックレビュー。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「システマティックレビュー。」が正答である。判断根拠は、システマティックレビューは明確な方法で研究を検索・選択・評価し、複数研究の結果を統合して検討する。システマティックレビューは明確な方法で研究を検索・選択・評価し、複数研究の結果を統合して検討する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0145

6-5 社会・健康・EBM > 健康増進・臨床研究・研究倫理 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】ランダム化比較試験で対象者を無作為に群分けする主な目的はどれか。

ア．ランダム化は標本数を1人にする手続ではない。

イ．研究安全性の監視は必要である。

ウ．ランダム化は選択バイアスや交絡の影響を減らし、群間比較の妥当性を高める方法である。

エ．倫理的な説明と同意は研究デザインにかかわらず重要である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「必ず参加者数を1人にするため。」を検討するための内容であり、今回の正答「既知・未知の交絡因子を群間で偏りにくくし、介入効果の比較可能性を高める。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「有害事象を記録しなくてよくするため。」を検討するための内容であり、今回の正答「既知・未知の交絡因子を群間で偏りにくくし、介入効果の比較可能性を高める。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「既知・未知の交絡因子を群間で偏りにくくし、介入効果の比較可能性を高める。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「研究参加者に目的を説明しなくてよくするため。」を検討するための内容であり、今回の正答「既知・未知の交絡因子を群間で偏りにくくし、介入効果の比較可能性を高める。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「既知・未知の交絡因子を群間で偏りにくくし、介入効果の比較可能性を高める。」が正答である。判断根拠は、ランダム化は選択バイアスや交絡の影響を減らし、群間比較の妥当性を高める方法である。ランダム化は選択バイアスや交絡の影響を減らし、群間比較の妥当性を高める方法である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0146

6-5 社会・健康・EBM > 健康増進・臨床研究・研究倫理 | 難易度：標準

「観察研究の種類を区別する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

ある集団を曝露の有無で分け、その後の疾病発生を追跡する研究デザインはどれか。

ア．症例対照研究は疾病の有無から過去の曝露を比較する形が典型である。

イ．個別症例の記述で群を追跡比較する研究ではない。

ウ．質的研究は経験・意味などを分析する研究で、疾病発生率比較とは異なる。

エ．コホート研究は曝露の有無などで集団を設定し、疾病発生を時間経過に沿って比較する観察研究である。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「症例対照研究。」を検討するための内容であり、今回の正答「コホート研究。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「症例報告。」を検討するための内容であり、今回の正答「コホート研究。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「質的面接研究だけ。」を検討するための内容であり、今回の正答「コホート研究。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「コホート研究。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「コホート研究。」が正答である。判断根拠は、コホート研究は曝露の有無などで集団を設定し、疾病発生を時間経過に沿って比較する観察研究である。コホート研究は曝露の有無などで集団を設定し、疾病発生を時間経過に沿って比較する観察研究である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0147

6-5 社会・健康・EBM > 健康増進・臨床研究・研究倫理 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
根拠に基づいたあん摩マッサージ指圧治療の考え方として最も適切なものはどれか。

ア．EBMは研究結果を機械的に当てはめるのではなく、臨床専門性と患者の価値・状況を合わせた意思決定を重視する。

イ．患者の価値観・選好は意思決定に重要である。

ウ．経験と研究根拠の双方を批判的に活用する。

エ．バイアスや研究デザインの妥当性を評価する必要がある。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「利用可能な研究根拠だけでなく、施術者の専門性、患者の価値観・状況を統合して判断する。」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「論文が1本あれば患者の希望は無視する。」を検討するための内容であり、今回の正答「利用可能な研究根拠だけでなく、施術者の専門性、患者の価値観・状況を統合して判断する。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「経験があれば研究根拠は一切不要である。」を検討するための内容であり、今回の正答「利用可能な研究根拠だけでなく、施術者の専門性、患者の価値観・状況を統合して判断する。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「最新研究なら研究方法の質を評価しなくてよい。」を検討するための内容であり、今回の正答「利用可能な研究根拠だけでなく、施術者の専門性、患者の価値観・状況を統合して判断する。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「利用可能な研究根拠だけでなく、施術者の専門性、患者の価値観・状況を統合して判断する。」が正答である。判断根拠は、EBMは研究結果を機械的に当てはめるのではなく、臨床専門性と患者の価値・状況を合わせた意思決定を重視する。EBMは研究結果を機械的に当てはめるのではなく、臨床専門性と患者の価値・状況を合わせた意思決定を重視する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0148

6-5 社会・健康・EBM > 健康増進・臨床研究・研究倫理 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】ヘルシンキ宣言が重視する考え方として最も適切なものはどれか。

ア．研究対象者の福祉は科学的・社会的利益に優先して配慮される。

イ．ヘルシンキ宣言は人を対象とする医学研究の倫理原則を示し、研究対象者の福祉と権利を重視する。

ウ．原則として研究参加前の適切な説明・同意が必要である。

エ．人を対象とする医学研究全般で倫理原則が重要である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「科学的利益が大きければ参加者の安全は考慮しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「人を対象とする医学研究では、研究対象者の生命・健康・尊厳・権利を保護する。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「人を対象とする医学研究では、研究対象者の生命・健康・尊厳・権利を保護する。」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「同意は研究終了後にだけ取得する。」を検討するための内容であり、今回の正答「人を対象とする医学研究では、研究対象者の生命・健康・尊厳・権利を保護する。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「研究倫理は医薬品研究には関係しない。」を検討するための内容であり、今回の正答「人を対象とする医学研究では、研究対象者の生命・健康・尊厳・権利を保護する。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「人を対象とする医学研究では、研究対象者の生命・健康・尊厳・権利を保護する。」が正答である。判断根拠は、ヘルシンキ宣言は人を対象とする医学研究の倫理原則を示し、研究対象者の福祉と権利を重視する。ヘルシンキ宣言は人を対象とする医学研究の倫理原則を示し、研究対象者の福祉と権利を重視する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0149

6-5 社会・健康・EBM > 健康増進・臨床研究・研究倫理 | 難易度：応用

「インフォームド・コンセントの原則を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

臨床研究への参加に関するインフォームド・コンセントとして正しいのはどれか。

ア．研究参加者には原則として不利益なく撤回する権利がある。

イ．本人の権利と自己決定を尊重する必要がある。

ウ．研究参加は自発的であるべきで、十分な説明・理解・自由意思による同意と撤回の権利が重要である。

エ．参加拒否を理由に不利益な対応をしてはならない。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「一度同意したら理由にかかわらず撤回できない。」を検討するための内容であり、今回の正答「研究目的・方法・利益と不利益などを説明し、自由意思で参加を決められ、原則として後から撤回できる。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「研究者が有益と考えれば説明なしで参加させてよい。」を検討するための内容であり、今回の正答「研究目的・方法・利益と不利益などを説明し、自由意思で参加を決められ、原則として後から撤回できる。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「研究目的・方法・利益と不利益などを説明し、自由意思で参加を決められ、原則として後から撤回できる。」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「参加を断った人には通常診療で不利益を与えてよい。」を検討するための内容であり、今回の正答「研究目的・方法・利益と不利益などを説明し、自由意思で参加を決められ、原則として後から撤回できる。」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「研究目的・方法・利益と不利益などを説明し、自由意思で参加を決められ、原則として後から撤回できる。」が正答である。判断根拠は、研究参加は自発的であるべきで、十分な説明・理解・自由意思による同意と撤回の権利が重要である。研究参加は自発的であるべきで、十分な説明・理解・自由意思による同意と撤回の権利が重要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0150

6-5 社会・健康・EBM > 健康増進・臨床研究・研究倫理 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

人を対象とする臨床研究を計画する際の対応として最も適切なものはどれか。

ア．人を対象とする研究では適切な倫理審査が求められる。

イ．利益相反の透明性は研究の信頼性に重要である。

ウ．個人情報・プライバシー保護が必要である。

エ．研究対象者保護のため、倫理審査、利益相反管理、個人情報保護などを含む研究ガバナンスが必要である。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「研究者本人が安全と考えれば第三者審査は不要である。」を検討するための内容であり、今回の正答「研究計画の科学性・倫理性を適切な倫理審査で確認し、資金源や利益相反も管理・開示する。」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「資金提供元は研究結果に関係しないので隠す。」を検討するための内容であり、今回の正答「研究計画の科学性・倫理性を適切な倫理審査で確認し、資金源や利益相反も管理・開示する。」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「研究対象者の個人情報は研究目的なら無制限に公開できる。」を検討するための内容であり、今回の正答「研究計画の科学性・倫理性を適切な倫理審査で確認し、資金源や利益相反も管理・開示する。」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「研究計画の科学性・倫理性を適切な倫理審査で確認し、資金源や利益相反も管理・開示する。」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「研究計画の科学性・倫理性を適切な倫理審査で確認し、資金源や利益相反も管理・開示する。」が正答である。判断根拠は、研究対象者保護のため、倫理審査、利益相反管理、個人情報保護などを含む研究ガバナンスが必要である。研究対象者保護のため、倫理審査、利益相反管理、個人情報保護などを含む研究ガバナンスが必要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22